

Kyoto Institute of Technology, School of Science and Technology

京都工芸繊維大学 工芸科学部

履修要項 2021

Technology

本学の理念

京都工芸繊維大学は、遠く京都高等工芸学校及び京都蚕業講習所に端を発し、時代の進展とともに百有余年にわたり発展を遂げてきた。本学は、伝統文化の源である古都の風土の中で、知と美と技を探求する独自の学風を築きあげ、学問、芸術、文化、産業に貢献する幾多の人材を輩出してきた。本学は自主自律の大学運営により国立大学法人として社会の負託に応えるべく、ここに理念を宣言する。

○基本姿勢

京都工芸繊維大学は、未来を切り拓くために以下の指針を掲げ、教育研究の成果を世界に向けて発信する学問の府となることを使命とする。

- ・ 人類の存在が他の生命体とそれらを取りまく環境によって支えられていることを深く認識し、人間と自然の調和を目指す。
- ・ 人間の感性と知性が響き合うことこそが、新たな活動への礎となることを深く認識し、知と美の融合を目指す。
- ・ 社会に福祉と安寧をもたらす技術の必要性を深く認識し、豊かな人間性と高い倫理性に基づく技術の創造を目指す。

○研究

京都工芸繊維大学は、建学以来培われてきた科学と芸術の融合を目指す学風を発展させ、研究者の自由な発想に基づき、深い感動を呼ぶ美の探求と卓越した知の構築によって、人類・社会の未来を切り拓く学術と技芸を創成する。

○教育

京都工芸繊維大学は、千年の歴史をもつ京都の文化を深く敬愛するとともに、変貌する世界の現状を鋭く洞察し、環境と調和する科学技術に習熟した国際性豊かな人材を育成する。そのため、自らの感動を普遍的な知の力に変換できる構想力と表現力を涵養する。

○社会貢献

京都工芸繊維大学は、優れた人的資源と知的資源とを十分に活かし、地域における文化の継承と未来の産業の発展に貢献するとともに、その成果を広く世界に問いかけ、国際社会における学術文化の交流に貢献する。

○運営

京都工芸繊維大学は、資源の適正で有効な配置を心がけ、高い透明性を保ちつつ、機動的な判断と柔軟かつ大胆な行動をもって使命を達成する。

2021年度 学 年 曆

前 学 期 2021年 4月 1日 (木) ~ 2021年 9月26日 (日)

春 季 休 業	4月 1日 (木) ~ 4月 5日 (月)
学部オリエンテーション	4月 2日 (金)
入 学 宣 誓 式	4月 5日 (月)
前 学 期 授 業 開 始	4月 6日 (火)
大 学 創 立 記 念 日	5月31日 (月) (授業実施)
前 学 期 授 業 終 了	7月28日 (水)
授 業 予 備 日	7月29日 (木)、 7月30日 (金)
前 学 期 試 験	8月 2日 (月) ~ 8月 6日 (金)
夏 季 休 業	8月 7日 (土) ~ 9月26日 (日)

後 学 期 2021年 9月27日 (月) ~ 2022年 3月31日 (木)

後 学 期 授 業 開 始	9月27日 (月)
冬 季 休 業	12月25日 (土) ~ 1月 5日 (水)
大学入学共通テスト実施に伴う全学休講日	1月14日 (金)
後 学 期 授 業 終 了	1月26日 (水)
授 業 予 備 日	1月27日 (木)、 1月28日 (金)
後 学 期 試 験	1月31日 (月) ~ 2月 4日 (金)
春 季 休 業	2月 5日 (土) ~ 3月31日 (木)
学 位 記 授 与 式	3月25日 (金)

「授業日の振替えに関する要項」により、2021年度の授業日の振替えは、次のとおり行うこととする。

前学期	7月20日 (火) は、 金曜日 の授業を行う。 7月21日 (水) は、 木曜日 の授業を行う。
後学期	11月18日 (木) は、 金曜日 の授業を行う。

【大学行事に伴う休講】

前学期： 4月23日 (金) は、環境安全教育デーのため授業を実施しない。

後学期： 11月19日 (金) は、松ヶ崎祭のため授業を実施しない。

教育研究上の目的

工芸科学部は、京都工芸繊維大学の理念に基づき、幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力、リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系高度専門技術者（TECH LEADER）を養成することを目的として設置されています。この目的に則り、学部各課程では、それぞれの専門分野に応じて、以下の目標を定め、人材育成を行っています。

学域	課程	教育研究上の目的
応用生物学域	応用生物学課程	生物学と生物化学を基礎として生命現象を研究し、生命、生物資源、グローバルな環境に関わる重要課題の解明にバイオテクノロジーを的確に活用できる人材の育成を目指す。
物質・材料科学域	応用化学課程	自然科学の基礎知識、物質・材料の化学と工学に関する十分な専門知識と応用能力、将来の技術革新に対応できる基礎・専門知識とその応用能力、および将来の地球環境、国際社会、地域産業に貢献できる素養を身につけている。
設計工学域	電子システム工学課程	スマートフォンや生活家電など、日常生活にとって欠かせない存在となっている電子システムの基礎から応用までに関する教育と、最先端の研究を通じて、電子機器、自動車、ロボット、電力などの基幹産業でリーダーとなり活躍できる人材の育成を目指す。
	情報工学課程	製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支えるICT分野でリーダーシップをとって活躍する人材、およびICTを活用したシステムの開発やサービスの創出・提供によって豊かな情報社会の構築に貢献する人材の育成を目指す。
	機械工学課程	幅広い基礎的知識の上に立った高度な専門性と豊かな創造力を持ち、さらに技術が普遍性を有するかどうかを的確に判断でき、しかも科学技術の発展の方向や時代と社会の変化の動向をいち早く正確に把握することのできる優れた先見性、地球的視野に立った行動力、豊かな人間尊重の精神を備えた国際性のある人材の育成を目指す。
デザイン科学域	デザイン・建築学課程	地球規模で考えながら、京都という場でしか掴み得ない能力を磨くこと。これを「KYOTOデザイン」と銘打つ。それは、 ① 生きた伝統と先進的マインドで生活を革新するデザイン力 ② 持続する京都で構想される未来起点の再生・価値創造力 ③ グローバルな知が揺籃される京都で可能なボーダーを超越した起業力 で構成され、課程教育においては、このための基礎能力を開発する。

上記に示した各課程の目的に加えて、「言語教育科目」と「人間教養科目」から成る「全学共通科目」では、外国語能力と教養の習得を目指します。さらに各課程の地域創生 Tech Program では、地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、各自の専門能力を発揮し得る人材の育成を目指します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーとは、学部・課程の教育研究上の目的を達成するために学習指導した成果である学位授与の判断のための基本的な考え方、また期待する能力を示したものです。

本学工芸科学部では、「教育研究上の目的」に掲げた「幅広い教養と高い倫理性を有し、自らの構想力と遂行力・リーダーシップによって、21世紀の産業、社会、文化に貢献できる国際的な理工科系専門技術者（TECH LEADER）を養成すること」を達成するために、以下に掲げる「工織コンピテンシー」（本学卒業生として有すべき能力）を定めています。

この工織コンピテンシーおよび各課程のディプロマ・ポリシーに則った知識と能力、実践力、グローバルな視野とリーダーシップを備えた学生を、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者（TECH LEADER）となりうる人材と認め、「学士（工学）」（応用生物学課程においては「学士（農学）」）の学位を授与します。なお、卒業認定を受けようとする学生は、本学通則および工芸科学部履修規則に定められた修業年数以上在学し、卒業要件となる単位を修得していなければなりません。

学部 ディプロマ・ポリシー（工織コンピテンシー）

■ 専門性

- ・ 自らの学習領域においての高度な専門知識・技術を有している。
- ・ 新しい技術を国内外から学び、改善・発展する能力を有している。

■ リーダーシップ

- ・ 多様性の中でビジョンを掲げ他者を巻き込みながら目的を達成する能力を有している。
- ・ 強い自己肯定感を持ち、新たな環境下で忍耐力をもって、チャレンジし、チームを課題解決に導く能力を有している。
- ・ 言語・文化・習慣など価値観の異なる多様な人々と、建設的な議論と他者支援を行い、成果へと導く能力を有している。
- ・ 課題の本質を見極め、その解決に向けた計画を立案し、論理性を持った説明により、他者の理解を得て、実行する能力を有している。
- ・ 社会の情勢や時代の潮流を見極め、経営マインドをもって物事にチャレンジする能力を有している。

■ 外国語運用能力

- ・ 母国語以外の外国語で社会生活での話題について会話をを行い、表現をする能力を有している。
- ・ 海外から多様な情報や先端技術を自ら収集するとともに、習得した専門知識・技術について外国語で論述できる能力を有している。

■ 文化的アイデンティティ

- ・ 生まれ育った国や地域の伝統文化・習慣や歴史、宗教等についての知識を有している。
- ・ 言語や文化習慣、宗教など価値観の違いを柔軟に受け入れて円滑にコミュニケーションができる。

課程 ディプロマ・ポリシー（具体的には、「各課程の教育について」を参照してください。）

学域	課程	ディプロマ・ポリシー（要旨）
応用生物学域	応用生物学課程	動物、植物、微生物など各種の生物を対象に生物学と生化学を基盤とした多面的および先端的手法により解析することができ、人間生活の健全で持続性のある発展に寄与する、次世代型のゼネラル・バイオテクノロジストの素養を身につけている。
物質・材料科学域	応用化学課程	自然科学の基礎知識をベースに物質・材料に関する十分な専門知識と応用能力を身につけ、広い視野で環境、資源、エネルギー、倫理などを考えながら、将来の地球環境や人類社会と調和した科学・技術の発展ならびに地域産業に貢献できるような人間的に広く深い素養と自覚を身につけるとともに、実践するための国際的な感性と能力を備えている。
設計工学域	電子システム工学課程	電子システム工学分野に関する幅広い知識と技術に基づいた高度な専門性を身につけ、当該分野にブレークスルーをもたらし得る課題解決能力と課題探求能力に優れており、かつ、豊かな創造性と柔軟な思考力を備えた国際性のある人材としての素養を備えている。
	情報工学課程	製造・経済・知的生産活動、あるいは個人や組織の活動など、国内外における社会のあらゆる場面を支えているICTの最新技術を理論と実践の両面からバランスよく修得し、国内外で活躍できる技術者としての素養を身につけている。
	機械工学課程	幅広い基礎的知識の上に立った高度な専門性と豊かな創造力を持ち、さらに技術が普遍性を有するかどうかを的確に判断でき、しかも科学技術の発展の方向や時代と社会の変化の動向をいち早く正確に把握することのできる優れた先見性、地球的視野に立った行動力、豊かな人間尊重の精神を備えた国際性を身につけている。
デザイン科学域	デザイン・建築学課程	デザインと建築の制作能力に加えて、京都の地で揺籃される伝統とグローバルな幅広い知識、柔軟な感性と想像力、また経営、工学的知見に裏打ちされた科学的な思考力と判断力を身につけ、建築家、デザイナー、あるいは建築設計・デザインに広く関与する人材として、生活環境と文化の革新に寄与できる素養を身につけている。

各課程の地域創生 Tech Program では、上記の各課程のディプロマ・ポリシーに加えて、「地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、当該課程の専門知識及び技術をベースに、グローバルな視野で協働することができる素養を身につけ、さらにアントレプレナー（起業家）精神、知的財産に関する知識を有する。」ことが必要です。

教育プログラム編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学では、国際的に活躍できる理工科系高度専門技術者（TECH LEADER）の育成を行うために、「3×3（スリー・バイ・スリー）」と呼ばれる教育プログラム・システムを採用しています。

「3×3」は、TECH LEADER 育成の基本となる大学院工芸科学研究科博士前期課程までの6年間とその後の博士後期課程の3年を含めた9年間を見据えたシステムです。

最初の「3」にあたる学部3年次までに、学生個々の選んだ専門課程での基盤となる専門力を確実に修得するとともに、英語を基本とした外国語運用能力、TECH LEADER としてのリーダーシップおよび文化的アイデンティティを育むことができるよう教育プログラムを構成しています。

次の「3」に含まれる学部4年次（大学院博士前期課程に進学予定の場合には、この年次を「M0（エムゼロと呼ぶ）」は、各自が修得した専門力を基に卒業研究（地域創生 Tech Program では、卒業プロジェクト）に取り組むとともに、主体的に思考する深い教養力を養い育てる授業科目を履修したり、その後の研究やキャリア形成に寄与するインターンシップに当てたり、さらに大学院博士前期課程の授業科目を先行履修することも可能となるよう構築されています。

工芸科学部ではカリキュラム・ポリシーとして、学部ディプロマ・ポリシー（工織コンピテンシー）に掲げる「専門性、リーダーシップ、外国語運用能力、文化的アイデンティティ」と、各課程のディプロマ・ポリシーに掲げる各専門分野に応じた能力を身につけることができるよう、以下の方針を採っています。

1. 外国語運用能力を身につけるため、「言語教育科目」群を設け、基本とする英語の修得を義務づけるとともに、他の言語も含めて一定単位以上の修得を義務づけています。この科目群の修得は、文化的アイデンティティを育むことにも寄与します。
2. 理工系専門技術者としての教養を身につけるために「人間教養科目」群を設け、さらにその群を「工芸科学教養科目」グループ、「基本教養科目」グループおよび「体の科学」とに分けた構成としています。「工芸科学教養科目」グループは、本学が目指す TECH LEADER の素養としての文化的アイデンティティやリーダーシップを育むことを目標としており、「基本教養科目」および「体の科学」グループでは、現代における社会人としての心身における教養を身につけることを目的としています。グループにはカテゴリーが設けられ、一定の単位以上の修得を義務づけているものもあります。
3. 各専門課程では、その専門分野に必要な基本リテラシー、専門概要・動向を学ぶために、1年次に「専門導入科目」を設け、その修得を義務づけています。
4. 理工系専門技術者としての基礎的な力を身につけるために、専門性の特性によって4つに分類された学域（応用生物学域、物質・材料科学域、設計工学域およびデザイン科学域）毎に「専門基礎科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。
5. 実践力の伴う専門職業能力を確実に身につけるために、講義だけでなく実験・実習・演習等にも重点をおいて体系化された「課程専門科目」群を設け、一定単位以上の修得を義務づけています。3年次には、各課程の専門知識等を確認する判定が行われます。
6. 専門技術者としての研究能力、開発能力を身につけるために、4年次には「卒業研究（地域創

生 Tech Program では、卒業プロジェクト)」の修得を義務づけています。卒業研究等を履修するためには、各課程で定められた単位を修得しておかねばなりません。

7. 地域創生 Tech Program では、上記のほか、地域創生課題に取り組むプロジェクトと地域でのインターンシップを義務づけています。これらを履修するためには、各課程で定められた単位を修得しておかねばなりません。
8. 授業科目のナンバリングを行っており、これによって授業科目群や科目間の関連や科目内容のレベルが表現されており、体系的にプログラムを編成する方針が採られています。

また、各授業科目の学習成果は、試験、レポート、発表、授業への参加意欲等により、目標の達成度に応じて評価します。

各課程では、「各課程の教育について」で、より詳細なカリキュラム・ポリシーが示されています。

目 次

I. 授業について.....	1
1. 一般的事項.....	1
(1) 学年と学期.....	1
(2) 授業時間割.....	1
(3) 授業に関する連絡について.....	2
(4) 学生証および学籍番号.....	2
(5) 休学（復学）および退学.....	2
(6) 授業の欠席について.....	2
(7) 心身に障害等がある方の受講について.....	2
2. 授業科目について.....	3
(1) 単位数の算定基準.....	3
(2) 授業科目の区分.....	3
(3) シラバスについて.....	3
(4) 単位互換による授業科目.....	4
(5) 「インターンシップ」について.....	4
(6) 大学院開講科目の受講について.....	4
3. 履修手続きについて.....	4
(1) 受講登録の期間.....	4
(2) 受講登録の手順.....	5
(3) 受講登録にあたっての注意事項.....	5
(4) 受講登録単位数の上限.....	5
(5) 履修の中止.....	6
(6) 合格科目の再履修.....	6
4. 試験・成績・卒業要件等.....	6
(1) 学期試験.....	6
(2) 追試験.....	7
(3) 受験上の心得.....	7
(4) 成績の発表.....	7
(5) 成績評価基準.....	7
(6) GPA制度.....	8
(7) 福知山キャンパス開講科目履修資格の要件.....	8
(8) 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格の要件.....	8

(9) 卒業の要件	8
II. 全学共通科目について.....	9
1. 言語教育科目.....	9
(1) 英語.....	9
(2) ドイツ語、フランス語、中国語	10
(3) 外部テスト (TOEIC・TOEFL iBT) の単位認定について	11
(4) 短期英語研修の単位認定について.....	12
2. 人間教養科目.....	22
(1) 工芸科学教養科目	22
(2) 基本教養科目.....	22
(3) 体の科学	23
III. 各課程の教育内容について	30
応用生物学域	30
専門基礎科目	30
応用生物学課程	36
卒業認定に必要な単位数.....	46
卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数.....	47
福知山キャンパス開講科目履修のために必要な単位数.....	48
物質・材料科学域.....	49
専門基礎科目	49
応用化学課程.....	56
卒業認定に必要な単位数.....	69
卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数.....	70
福知山キャンパス開講科目履修のために必要な単位数.....	71
設計工学域.....	72
専門基礎科目	72
電子システム工学課程.....	79
情報工学課程.....	88
機械工学課程.....	98
卒業認定に必要な単位数.....	108
卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数.....	109
福知山キャンパス開講科目履修のために必要な単位数.....	110
デザイン科学域	111
専門基礎科目	111

デザイン・建築学課程.....	117
建築士試験指定科目一覧表.....	124
卒業認定に必要な単位数.....	132
卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数.....	133
福知山キャンパス開講科目履修のために必要な単位数.....	134
IV. 工芸科学部 繊維科学プログラム修了の認定について.....	135
V. 教育職員免許状の取得について.....	137
VI. 学芸員資格の取得について.....	147
VII. 知的財産に関する授業科目について.....	148
VIII. 技術検定の受検資格の取得について.....	149
IX. 自然再生士補の取得について.....	152
X. 関係諸規則等.....	153
京都工芸繊維大学通則.....	153
京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則.....	161
京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て要項.....	166
京都工芸繊維大学外国人留学生の教科課程等の特例に関する規則.....	168
特別警報・暴風警報発令時又は交通機関不通時における授業・試験の取扱いについて.....	170
授業日の振替えに関する要項.....	171
定期試験期間中の祝祭日に伴う代替日に関する申し合わせ.....	171
講義室配置図.....	172

I. 授業について

この履修要項は、2021年度に工芸科学部の1回生として入学した学生が履修すべき授業科目等の履修方法及び卒業要件等について解説したものです。

本学を卒業するためには、在学中に所定の単位を修得する必要があります、その単位数などについては通則などで規定されています。これらについては、この履修要項に記載していますので、熟読のうえ入念な履修計画を立てるよう心がけてください。

不明な点があれば、学務課に尋ねてください。

履修関係スケジュール（2021年度）

【前学期】

2021年	4月6日（火）～13日（火）	前学期受講登録
	4月20日（火）～22日（木）	受講登録確認・修正
	4月30日（金）	受講登録修正者の再確認（確認のみ）
	4月30日（金）～5月6日（木）	履修中止申請期間
	5月10日（月）	履修中止後の登録確認（確認のみ）
	8月2日（月）～8月6日（金）	前学期試験

【後学期】

	9月27日（月）～10月1日（金）	後学期受講登録
	10月12日（火）～14日（木）	受講登録確認・修正
	10月25日（月）	受講登録修正者の再確認（確認のみ）
	10月25日（月）～27日（水）	履修中止申請期間
	10月29日（金）	履修中止後の登録確認（確認のみ）
2022年	1月31日（月）～2月4日（金）	後学期試験

（注）

- 履修スケジュールは毎年4月に発表します。また、変更がある場合は学生情報ポータル等により周知しますので注意してください。

1. 一般的事項

（1）学年と学期

学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わります。学年を分けて次の2学期とします。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

ただし、前学期及び後学期の期間、授業開始、終了の時期については、毎年度ごとに学年暦で決定するため、その期日が多少変わってくる場合がありますので、掲示を確認してください。

（2）授業時間割

① 授業時間割について

授業は、学期ごとに週単位で編成された授業時間割に従って行われます。

この週単位の時間割に入っていない科目については、集中授業として、休業中、土曜、日曜等に行われるものもあります。

授業時間割表の変更、休講、補講、集中授業の日程などは、その都度、学生情報ポータルに掲載しますので始業前に必ず確認してください。

② 授業時間について

1年を通じて授業時間は下記のとおりです。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
時間	8:50	10:30	12:50	14:30	16:10	17:50
	∪	∪	∪	∪	∪	∪
	10:20	12:00	14:20	16:00	17:40	19:20

※ただし、令和3年度は、3時限以降の開始時刻が、上記の時刻から10分繰り下がりますのでご注意ください。(三大学教養教育共同化科目は除く。)

(3) 授業に関する連絡について

学生情報ポータル(学生・教職員専用ページ)では、受講登録や試験の日程、授業に関する連絡事項(休講、補講、講義室変更、集中講義日程、学生呼び出し)等、学生生活に欠かせない情報を掲載しています。見落とすことのないよう、日頃から注意して確認するようにしてください。

また、授業科目を受講し単位を修得するまでには、受講登録などさまざまな手続きを行うことが必要です。「学年暦」と「学生情報ポータルによる通知」に注意し、適正に手続きを行ってください。

【学生情報ポータルのURL】

- ・学生情報ポータル

<https://portal.student.kit.ac.jp/>

【ログイン】

- ・学生・教職員専用ページを見るためには、ログインが必要です。
情報科学センターのIDとパスワードを入力してください。

※ 利用できない、表示がおかしい等がありましたら、機種名を明記の上、学務課学務調査係へお問い合わせください。
(問い合わせ先 e-mail : gakumuka@kit.ac.jp)

(4) 学生証および学籍番号

学生証は本学の学生であることを証明するもので、中間試験や定期試験等の受験時には必携、その他教職員から提示を求められることがありますので、常に携帯してください。学生証を紛失、破損した場合は、学務課で再発行の手続きを行ってください。

(5) 休学(復学)および退学

病気その他特別の事情により、3ヶ月以上修学することができない場合は、休学を願い出ることができます。また、やむなく退学しなければならないときは、退学を願い出ることができます。いずれも、次学期が始まるまでに、所定の手続きを行ってください。

(6) 授業の欠席について

本学では、病欠、忌引き、課外活動、就職活動等を理由とする公欠の制度はありません。授業を欠席した場合は、担当教員に直接申し出てください。

欠席時に試験があった場合については、追試験の制度がありますので、後述「4. 試験・成績・卒業要件等」を参照してください。

(7) 心身に障害等がある方の受講について

心身の疾病・障害等により修学が困難な方は、学務課へご相談ください。

2. 授業科目について

(1) 単位数の算定基準

大学では各授業科目について、その授業科目を履修し合格と認められれば、定められた単位を与える単位制度により授業を行っています。

各授業科目の単位数は授業の形態ごとに一定の学修時間数(注1)を基準にして次のように定めています。

- ① 講義科目については、15時間の授業をもって、1単位とする。
- ② 演習科目については、30時間の授業をもって、1単位とする。
- ③ 実験科目、実習科目および実技科目等については、45時間の授業をもって1単位とする。
(注1) 本学では、授業時間割上1コマ(90分)を2時間とします。

(2) 授業科目の区分

本学の教育課程は、下記のとおりです。

1) 全学共通科目	言語教育科目
	人間教養科目
2) 専門教育科目	専門導入科目
	専門基礎科目
	課程専門科目
3) 外国人留学生科目	日本語授業科目等
4) 教職関係科目	
5) 学芸員資格に関する科目	

- ① 全学共通科目
全学的に開講される言語教育科目と人間教養科目です。
- ② 専門教育科目
学域ごとに開設される専門導入科目と専門基礎科目、課程ごとに開設される課程専門科目です。
専門教育科目のうち、授業形態に「実験」「実習」「演習」が含まれている科目については、他課程の学生の受講を認めません。授業形態が「講義」となっている科目についても、他課程の学生の受講を認めない場合もあります。
- ③ 外国人留学生科目
外国人留学生のために開設する科目で、外国人留学生のみが履修できます。
- ④ 教職関係科目
教育職員免許状を取得するために必要な科目で、取得した単位は、卒業要件、卒業研究又は卒業プロジェクト着手要件、福知山キャンパス開講科目履修要件には含めることはできません。
- ⑤ 学芸員資格に関する科目
学芸員資格を得るために必要な科目で、取得した単位は卒業要件、卒業研究又は卒業プロジェクト着手要件、福知山キャンパス開講科目履修要件に含めることはできません。

授業科目は、教育の改善・向上のために変更することがあり、現行の科目が、次年度以降廃止される可能性もあります。不合格科目として残るとGPAの数値に影響しますので、受講登録は慎重に行ってください。

(3) シラバスについて

本学で開設されている授業科目について、その内容や授業計画についての情報をWebに掲載しています。

履修計画、受講登録に活用してください。

シラバス検索システムURL

<https://www.syllabus.kit.ac.jp/>

(4) 単位互換による授業科目

本学では、次の大学等との間において単位互換に関する協定を締結しています。

協定締結大学等から提供された授業科目は、所定の受講願の手続きを行い（本学開講科目の受講登録手続きとは異なり、学務課学部教務係での手続きが必要です。）、受講登録が許可されれば、履修することができます。修得した単位の、卒業要件、卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格要件、福知山キャンパス開講科目履修要件としての取り扱いは、課程ごとに定められています。履修規則別表第4、第7、第11を参照してください。

- ① 京都府立大学
- ② 同志社大学
- ③ 京都教育大学
- ④ 大学コンソーシアム京都（単位互換履修生制度）
- ⑤ 3大学（本学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教養教育単位互換

(5) 「インターンシップ」について

- ① インターンシップは、専門教育科目の専門基礎科目として開設しています。
- ② 実施期間が約1週間（45時間）のものを、インターンシップA（1単位）
実施期間が約2週間（90時間）のものを、インターンシップB（2単位）とします。
- ③ 大学コンソーシアム京都を通じて出願するものは、インターンシップB（2単位）とします。
- ④ 大学コンソーシアム京都以外のインターンシップに参加する場合は、出願前に課程長に申し出て、その内容が授業科目として認められるものであるかの確認を行ってください。
- ⑤ インターンシップ先を選択する際には、本学の試験期間と重なることのないように留意してください。
- ⑥ インターンシップA、インターンシップBについては、受講登録をする必要はありません。
- ⑦ インターンシップ修了時には、学務課に申し出たうえで、1月末までに所定の書類を提出してください。
- ⑧ 成績評価は、ランクではなく、「認定」となります。
- ⑨ インターンシップに参加する場合は、学生教育研究災害保険（インターンシップ参加等のオプション）加入を要します。

(6) 大学院開講科目の受講について

本学が開講する大学院（博士前期課程）科目を、下記により受講することができます。

- ① 受講資格 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格認定者
- ② 受講できる科目 学部生が受講できる大学院科目は、学生情報ポータル（受講登録に関するお知らせ）に掲載しています。
- ③ 単位の取り扱い 取得した単位は、学部の卒業要件単位には含みません。本学大学院に入学した際に、大学院科目として取り扱います。

3. 履修手続きについて

履修する授業科目については、履修要項、シラバス(<https://www.syllabus.kit.ac.jp/>)等で授業について十分検討し、履修計画を立てて「受講登録」を行ってください。

授業科目の単位修得には、受講登録手続き、登録確認等が必要です。これらの手続きを怠ると、授業を受け受験しても合格とならず、単位が修得できません。

(1) 受講登録の期間

前学期および通年開講科目・・・前学期の受講登録期間（日程は1ページ「履修関係スケジュール」に記載しています。）

後学期の開講科目・・・・・・後学期の受講登録期間（日程は1ページ「履修関係スケジュール」に記載しています。）

※第1クォーター及び第2クォーター開講科目は前学期の受講登録期間に、第3クォーター及び第4クォーター科目は後学期の受講登録期間に、それぞれ受講登録してください。

(2) 受講登録の手順

受講登録は、Webで行います。

受講登録の手順は次のとおりです。

ログオン後の注意事項をよく読み、受講登録を行ってください。

全員が行う

受講登録（指定の期間に受講登録Webシステムにログオンし、履修しようとする授業科目を選択した後、「受講登録状況を印刷」ボタンを押し、帳票を印刷する。最後に「ログアウト」ボタンを押し終了する。）



受講登録の確認（指定の期間に再度受講登録Webシステムにログオンし、受講登録が正しく行われているかどうかを確認する。）



以下は誤りがあった
場合のみ行う

受講登録の修正（誤りがあれば、受講登録Webシステムで受講登録科目の追加または取消の処理を行う。）



受講登録の再確認（受講登録再確認期間に受講登録Webシステムにログオンし、誤りがないかを確認する。）

これらの手続きは、定められた期間内に行ってください。期限後は、受理されません。

受講登録WebシステムURL

<https://www.gakumu.kit.ac.jp/AttendCourse/>

※ログオンには、IDとパスワードが必要です。情報科学センターのIDとパスワードを入力してください。

（学外からもアクセスできます）

(3) 受講登録にあたっての注意事項

- ① 1年間に受講登録できる単位数【次の(4)に記載】に制限があります。1年間を通しての計画を立ててください。
- ② 同一時限に2科目以上重複しての登録はできません。1部分の重複も認められません。
- ③ 前学期の登録時には、後学期の授業時間割表の確認も行ってください。同一の通年科目でも前後期で曜日、時限が異なる場合もあります。
- ④ クラス分けがされている科目については、指定されたクラスの科目を登録してください。
- ⑤ 専門教育科目は、各課程および履修コースにより、その修得方法が異なるので、「卒業認定に必要な単位数」等の表を参照し、また、各課程のガイダンスをよく聞き、それぞれの目的に合った履修計画を立てる必要があります。
- ⑥ 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格者は、「卒業研究」又は「卒業プロジェクト」の登録も必要です。また、卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格者がその年度に卒業しなかった場合は翌年度に改めて「卒業研究」又は「卒業プロジェクト」の登録を行わなければなりません。（履修規則第15条の3）
- ⑦ 前学期に登録した科目は、後学期に再度登録することはできません。
- ⑧ 通年授業科目を1つの学期に履修し、休学または授業の都合によって次学期に継続して履修できない場合は、担当教員の承認を得て、次年度以降において履修することができます。

(4) 受講登録単位数の上限

本学は、一定期間内に履修できる単位を制限する「キャップ制」を採用しています。授業を受け、試験で合格点をとりさえすれば単位が得られるというような学習ではなく、授業時間外の十分な学習も含め、真の力をつけるための制度です。

1年間に受講登録できる単位数を工学科学部履修規則別表5で定めています。ただし、3年次

編入生には、この制限はありません。

制限単位数は、取得単位数（合格した単位数）ではありません。受講登録を行う単位数です。

1年間の受講登録単位数ですから、前学期に多く受講登録すれば、後学期には、その残った単位数しか登録できなくなります。1年間の履修計画をしっかりと立ててください。

下記の授業科目は、受講登録単位数の上限対象授業科目から除きます。

- ① 集中授業科目
- ② 単位互換による授業科目
- ③ 教職関係授業科目
- ④ 学芸員資格に関する授業科目
- ⑤ 知的財産に関する専門基礎科目
- ⑥ 卒業要件外科目
- ⑦ 日本語授業科目等

前年度の成績が優秀であった学生については、定められた単位を超えて10単位を限度として、履修科目の登録が認められることがあります。（工芸科学部履修規則別表6）

また、課程長が、教育上特に必要と認めた場合は、10単位を限度として、履修科目の登録が認められることがあります。

（5）履修の中止

受講登録した授業科目のうち、下記の授業科目以外については、定められた履修中止期間（日程は1ページに記載しています。）内に、履修中止を申し出ることができます。ただし、集中授業等で履修中止期間までに授業が開始される授業科目については、その授業の開始の前日まで（学務課の業務日に限ります。）とします。その後は、一切受け付けません。

なお、履修中止期間後、やむを得ない事情により集中授業に出席できなくなった場合は、学務課学部教務係窓口にご相談してください。

- ① 必修授業科目
- ② 授業形態に「演習」、「実験」、「実習」又は「実技」が含まれている授業科目（ただし、外国語授業科目を除く。）
- ③ 合格再履修授業科目

また、前学期に履修中止をした授業科目の単位数は、5単位を限度に履修授業科目として登録した単位数から除くことができます。

（例）年間登録上限単位数：50

前学期受講登録数：34

うち、履修中止単位数：8

※ 履修中止科目は5単位分のみ年間登録上限単位数から除外される

後学期受講登録可能単位数：21

$(50 - 34 = 16)$ 、 $16 + 5 = 21$

（6）合格科目の再履修

既に合格した授業科目のうち教科課程表の「合格再履」欄に印のある授業科目については、再度履修する（以下再履修という）ことを願い出ることができます。

再履修授業科目の受講登録が承認されると同時に再履修前の成績は失効しますので、留意してください。

再履修前の成績が失効することにより、卒業研究又は卒業プロジェクト着手の認定に影響する場合は再履修の願い出は認められません。

また、合格再履修授業科目の履修中止は認められません。

4. 試験・成績・卒業要件等

（1）学期試験

試験は、原則として、学期末に学期試験を行います。

試験実施期間は、学年暦で定めています。

試験時間割表は、原則として、試験開始の2週間前に発表します。
授業科目によっては、別の期日に試験を実施することがあります。
また、試験期間中でも、授業を行うことがあります。

(2) 追試験

試験当日、病気その他やむを得ない事由により受験できなかった場合は願い出により、追試験を行うことがあります。

願い出は、医師の診断書その他これに代わる証明書とともに、学務課所定の用紙に担当教員の承認を得たものを、欠席した試験の日から1週間以内に学務課へ提出してください。

(3) 受験上の心得

- ① 試験は「受講登録」した科目に限り受験することができる。
- ② 受験する時は、必ず「学生証」を受験票として机上に呈示しなければならない。「学生証」を忘れた時には、学務課で「学籍確認票」の交付を受けなければ受験できない。
- ③ 試験開始後30分を経過するまでは、退出することができない。また、試験開始後30分を経過した後は、遅刻した者は受験できない。
- ④ 受験（レポート、論文等を含む。）時に、不正行為を行ったと認められた者（授業科目担当教員の指示に反してレポート、論文等の課題を作成した者を含む。）については、その学期に受講登録をした全ての授業科目の成績を不合格（判定外）とする。この場合、既定の年数で卒業することが不可能となることもある。
また、本学において学士の学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又はその名誉を汚す行為があったときは、工芸科学部教授会の議を経て、当該学位の授与を取消し、学士の学位記を返還させ、かつ、その旨を公表する。
- ⑤ 自らの良識に従い、信頼を裏切ることのないよう、厳正な態度で試験に臨むこと。

(4) 成績の発表

成績の発表は、次学期が始まる前に、成績閲覧 WEB システムを通じて各人に交付します。
また、保証人宛にも郵送します。

なお、成績表をダウンロードするためには、事前に授業評価アンケート（授業内容の改善に役立てるための調査）への回答及び、成績閲覧用パスワードの設定が必要です。注意してください。

【成績閲覧 WEB システム URL】

<https://record.student.kit.ac.jp/>

【授業評価アンケート回答 URL】

https://portal.student.kit.ac.jp/?c=class_evaluation_list

【成績閲覧用パスワード登録 URL】

https://portal.student.kit.ac.jp/?c=score_pw_setting

※ ログインする際に、情報科学センターのIDとパスワードを入力してください。

※ アクセスは学内ネットワーク（情報科学センター認証付き無線 LAN に接続した端末又は学内共同利用 PC）に限ります。学外からは直接アクセスできません。

成績について申し立てがある場合は、別に定める「成績評価に対する異議申立て要項」に則り、手続きを行ってください。

(5) 成績評価基準

成績評価の基準は次のとおりです。

S	90点～100点
A+	85点～89点
A	80点～84点
B+	75点～79点
B	70点～74点

C+	65点～69点
C	60点～64点
認定	認定
F	60点未満
W	履修中止

S、A+、A、B+、B、C+、C、認定を合格とし、単位を与えます。60点未満はFで表示し不合格とします。履修中止はWと表記します。また、成績に当該学年のGPAおよび入学後の累積GPAを併記します。

(6) GPA 制度

本学ではGPA（単位あたりの評価平均値）制度を採用しています。

GPAとはGrade Point Averageの略で、受講登録した授業科目（履修中止をした授業科目を除く）の成績の8段階S、A+、A、B+、B、C+、C、Fに対し、順に、4.0、3.5、3.0、2.5、2.0、1.5、1.0、0のGrade Pointを与え、授業科目ごとの単位数にGrade Pointを乗じた合計を受講登録した授業科目の単位数の合計で割って算出した値です。

計算式は次のとおりです。

$$\text{GPA} = \text{GPT} \div \text{総登録単位数 (Fを含む)} \quad (\text{再履修した科目の登録単位数は、1回分のみを計上する})$$

$$\text{GPT} = (\text{Sの修得単位数} \times 4.0) + (\text{A+の修得単位数} \times 3.5) + (\text{Aの修得単位数} \times 3.0) + (\text{B+の修得単位数} \times 2.5) + (\text{Bの修得単位数} \times 2.0) + (\text{C+の修得単位数} \times 1.5) + (\text{Cの修得単位数} \times 1.0)$$

ただし、下記の授業科目は、GPA算出の対象授業科目から除きます。

- ① 単位互換による授業科目
- ② 教職関係授業科目
- ③ 学芸員資格に関する授業科目
- ④ 単位認定授業科目
- ⑤ 大学院開講科目

(7) 福知山キャンパス開講科目履修資格の要件

地域創生Tech Programの学生は、3年次後学期以降に福知山キャンパスで開講される科目を履修することになりますが、これらの科目を履修するためには、3年次前学期終了時に、履修規則に定められた単位（履修規則別表第11）を修得していなければなりません。

(8) 卒業研究又は卒業プロジェクト履修資格の要件

4年次には、「卒業研究」又は「卒業プロジェクト」という必修科目を履修することになりますが、これを履修するためには、3年次終了時に、履修規則に定められた単位（履修規則別表第7）を修得していなければなりません。

(9) 卒業の要件

定められた修業年数以上（通則第26条）在学し、履修規則に定められた単位（履修規則別表4）を修得すれば卒業できます。

教職関係授業科目、学芸員資格に関する授業科目は、免許状等取得のための授業科目であり、修得した単位は卒業要件の単位数には算入しません。

Ⅱ. 全学共通科目について

全学共通科目は、本学の理念、学部の教育研究上の目的および学部ディプロマ・ポリシー（工織コンピテンシー）、カリキュラム・ポリシーに基づき、国際的な理工系高度専門技術者（TECH LEADER）の基盤を培うために開設されています。科目群として、「言語教育科目」と「人間教養科目」があり、全学的に開講されています。

1. 言語教育科目

「言語教育科目」は、工織コンピテンシーに掲げる外国語運用能力を修得するとともに、文化的アイデンティティの基礎を育むために開設されています。英語、ドイツ語、フランス語、中国語が提供されています。

英語については、平成26年度から「スーパーグローバル大学創成支援事業（TGUP 事業）」に採択されたことを受け、学生の英語運用能力の飛躍的向上を目指した「英語鍛え上げプログラム」を展開しています。

卒業には、英語6単位の必修を含め、言語教育科目の総計で12単位以上を取得しなければなりません。

（1）英語

将来、国際的に活躍するために必要な高い英語運用能力を、入学からの2年間で養うために、「英語鍛え上げプログラム」を実施しています。このプログラムでは、1年次配当の「Interactive English A」「Interactive English B」「Career English Basic」「Academic English」、2年次配当の「Career English Intermediate」「Career English Advanced」の計6単位が必修になっています。

そのうち、「Interactive English A/B」は多様な場面で円滑な口頭のコミュニケーションを図れるようになること、「Academic English」は学術的な場面で英語を使うための基礎を固めることを目標とします。

また、「Career English Basic/Intermediate/Advanced」では、将来の就職活動や大学院進学などを見すえ、TOEIC等、社会に認知された評価基準に耐えうる柔軟な英語運用能力を身につけます。Basicで基礎を固め、IntermediateではTOEIC630レベル、Advancedでは730レベルを目指します。IntermediateとAdvancedについては、それぞれの目標レベルに達した時点で、単位認定による履修免除が可能になります。

選択科目には、2年次配当の「Active English」があります。CLIL（英語以外の科目を英語で学ぶ授業）、Reading、Writing、Listening & Speaking、Project-Based Learning等に別れており、身につけた能力を積極的に使うことによって、さらなるレベルアップを図る

ことや、特定の分野に特化したスキルを磨くことを目標とします。

入学からの2年間で、自信を持って英語が使えるようになるとともに、TOEIC 等において、就職活動や大学院進学に対応できる高いスコアを達成することを目指します。そのため、どの授業でも、徹底した予習復習やテスト準備が求められます。また、授業内容に関するものとは別に、Interactive English および Active English では extensive reading の課題が、また Career English や Academic English では e-learning の課題が継続的に出され、それぞれ成績に加味されます。さらに、TOEIC や本学独自のスピーキングテストのスコアも必修科目の成績に加味されるため、各自が着実に準備を進める必要があります。

(2) ドイツ語、フランス語、中国語

英語以外にドイツ語、フランス語、中国語を学ぶ機会も提供されています。ドイツ語とフランス語は「初級基礎 A,B」、「初級演習 A,B」、「中級 A,B」、「上級 A,B」、中国語は「初級基礎 A,B」、「初級演習 A,B」、「中級 A,B」が開設されており、それぞれの言語の運用能力を身につけながら、その言語を通じ、多様な世界に眼を開くことができます。これらの言語は昼間の時間帯に開講されていますが、先端科学技術課程の学生も受講でき、自課程の言語教育科目として取り扱います。ただし、クラスの受講者数によっては受講できない場合もありますので、受講登録時に十分に注意してください。

【ドイツ語、フランス語、中国語の履修方法】

ドイツ語、フランス語、中国語の初級は、初級基礎と初級演習の2つの同一クラスを同時に履修しなければなりません。どちらか一方のみを履修することや、異なるクラスを履修することはできませんので注意してください。ただし、クラス配当表において、初級基礎と初級演習のクラス名が異なる場合は、指定されたものを「2つの同一クラス」として読み替えます。

また、「初級基礎 B」「初級演習 B」を履修するためには「初級基礎 A」「初級演習 A」の単位を取得していることが必要であり、中級を履修するためには「初級基礎 A,B」「初級演習 A,B」の全ての単位を取得していることが必要です。ドイツ語、フランス語の上級を履修するためには、中級A及び中級Bの単位を取得していることが必要です。

(3) 外部テスト (TOEIC・TOEFL iBT) の単位認定について

外部テスト (TOEIC・TOEFL iBT) のスコアによる単位認定を下記の表のとおり行います。認定希望者は、学務課で申請についての詳細を確認のうえ、手続きを行ってください。

レベル	TOEIC スコア	TOEFL iBT スコア	単位数	認定条件および認定内容
1	630~725	60~69	Career English Intermediate 1 単位	1. 本学入学後の受験で、受験日より一年以内の申請に限る。 2. TOEIC の場合は、公開テスト、および本学学内で行われる IP テスト (団体特別受験制度を用いたテスト) のスコアを認定する。 3. レベル 1 及びレベル 2 に対応する科目はそれぞれ「S」評価とし、GPA の算出対象となる。 4. レベル 3 及びレベル 4 では、成績は「認定」と表記し、卒業要件単位として算入できるが、GPA の算出対象としない。
2	730~795	70~76	Career English Advanced 1 単位	
3	800~855	77~82	1 単位	
4	860~	83~	2 単位	

(注 1) TOEIC Test の点数が 630 点~725 点の場合に Career English Intermediate の 1 単位が「S」評価となり、受講が免除されます。また、730 点以上の場合に Career English Advanced の 1 単位が「S」評価となり受講が免除になります。公開テストや IP テストでこれらのスコアを取得した場合には、学務課で単位認定の申請手続きを必ず行ってください。なお、学内一斉受験で取得した場合は手続き不要です。

(注 2) たとえば、TOEIC で 750 点を取得した場合は、Career English Intermediate の 1 単位と Career English Advanced の 1 単位、合わせて 2 単位がそれぞれ「S」評価となります。

(注 3) Career English Intermediate あるいは Career English Advanced の授業を受講して「S」以外の単位を取得した場合において、単位取得後に (注 1) に記載したスコアを取得したときは、学務課で申請手続きを行うことにより当該評価を「S」に変更することができる。

(注4)「レベル3」以上の申請においては、Career English Intermediate の1単位と Career English Advanced の1単位に加えて（授業を受講して単位を取得した場合を除く）、レベルに応じて、1単位又は2単位を認定します。

例1)「レベル3」の得点で1単位の認定を受けている場合、その後「レベル4」の得点で申請しても、認定される単位は1単位となる。(合計2単位)

例2)TOEICの得点で「レベル3」の1単位の認定を受けている場合、その後「レベル3」のTOEFL iBTの得点でさらに1単位を申請することはできない。

(注5) 申請受付は、随時行っていますが、申請時期によって以下の学期の成績となります。

2月1日から8月31日までに申請のあったものは、原則として前学期の成績として認定します。

9月1日から1月31日までに申請のあったものは、原則として後学期の成績として認定します。

(注6) 提出された外部テストのスコアは、統計処理を行い、教育の改善や研究のために利用する場合があります。個人が特定できる形でスコア等が公表されることはありません。

(4) 短期英語研修の単位認定について

本学が実施している学部生対象の短期英語研修に参加し、一定の基準以上の評価を得た学生に対し、参加者の申請により、次のように単位認定を行っています。なお、参加希望者が予定受入人数を超えた場合には、選抜が行われます。

認定対象となる研修	本学が実施している学部生対象の短期英語研修（研修のための学資援助制度によるものも含む）で、現地での授業時間が30時間以上のものを対象とする。
評価方法・評価項目	研修機関から提供される評価書（本学が指定）等に基づき、下記の評価項目について本学の英語担当教員が評価する。 【評価項目】 ① Attendance（出席） ② Class Participation（授業参加への積極性） ③ Overall Progress（総合的な上達度） ④ Progress in Speaking（「話す」能力の上達度） ⑤ Progress in Listening（「聴く」能力の上達度） ⑥ Progress in Writing（「書く」能力の上達度） ⑦ Progress in Reading（「読む」能力の上達度） ⑧ その他、当該研修に特化した評価基準

評価基準	前述の評価項目の平均が5段階評価の3以上
認定単位・ 認定内容	<p>1 単位または2 単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーズ大学（UK）英語研修：2 単位 ・クイーンズランド大学（豪州）英語研修：2 単位 ・フィリピン英語集中研修（1 週間）：1 単位 ・フィリピン英語集中研修（2 週間）：2 単位 <p>とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語教育科目の選択科目として認定する。 ・成績は「認定」と表記し、卒業要件単位として算入できるが、GPAの算出対象としない。

学務課で申請についての詳細を確認のうえ、手続きを行ってください。申請受付期間は研修終了後、別途掲示等により本人に連絡します。

教科課程表 (令和3年度入学者用)

- 履修区分欄の応生は応用生物学課程、応化は応用化学課程、電子は電子システム工学課程、情報は情報工学課程、機械は機械工学課程、デザ建築はデザイン・建築学課程を示す。
- 担当教員欄の()は非常勤講師を示す。
- 下履修欄に※がある授業科目については、配当年次より下級の学生の履修を認める。
- 合格再履修欄に※がある授業科目については、既に合格した学生の再度の履修を認める。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。
- 本表は、教育の改善・向上のために変更することがある。

全学共通科目

言語教育科目

- 履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目を示す。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。
- 英語、ドイツ語、フランス語、中国語を、母語あるいは母国語とする者、あるいはそれに準ずる言語運用能力を持つ者が、それぞれの言語の授業科目を履修する場合は、あらかじめ担当教員と相談すること。

言語教育科目

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分				週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域	デザイン科学域	1年次	2年次	3年次	4年次							
						応生	応用化学	電子	情報	機械	デザ建築	前	後				前	後	前	後
英語																				
Interactive English A	Interactive English A	a	(ドナ ハヤシ)	1	演習	●														
		b	(バトリック ジャッジ)			●														
		c	(ジュディ タボハシ)			●														
		d	(ドナ ハヤシ)				●													
		e	(バトリック ジャッジ)				●													
		f	(ジュディ タボハシ)				●													
		g	(ロバート シーハン)				●													
		h	(マルコム パーカー)				●													
		i	(オリビア ケネディ)				●													
		j	(ロバート シーハン)				●													
		k	(マルコム パーカー)				●													
		l	(オリビア ケネディ)				●													
		m	(ダイアン ハリング)					●												
		n	(ロバート シーハン)					●												
		o	(ゲーリ ヨコタ)					●												
		p	サンドラ ヒーリ					●	●											
		q	(井尻 アミリア)						●				2							
		r	(ドナ ハヤシ)						●											
		s	(マルコム パーカー)						●											
		t	(ピーター スクリバニック)									●								
		u	(ダイアン ハリング)									●								
		v	(ガス ウォリーズ)									●								
		w	(マーク スタッブ)									●								
		x	(ロバート シーハン)										●							
		y	サンドラ ヒーリ										●							
		z	(井尻 アミリア)										●							
aa	(ダイアン ハリング)								●											
ab	(ゲーリ ヨコタ)								●											
ac	(ドナ ハヤシ)								●											
ad	(マルコム パーカー)								●											
ae	(ガス ウォリーズ)								●											
af	(ピーター スクリバニック)								●											
ag	(マーク スタッブ)								●											

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履					
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次				
						応生	応用化学	電子	情報	機械	デザイン建築	前	後	前				後	前	後		
Career English Basic	Career English Basic	a	竹井 智子	1	演習	●																
		b	(西塔 由貴子)			●																
		c	(河島 美代子)				●															
		d	(奥田 優子)				●															
		e	竹井 智子				●															
		f	神澤 克徳				●															
		g	(奥田 優子)				●															
		h	(西塔 由貴子)				●															
		i	(檜和 千春)					●														
		j	(井上 拓也)					●														
		k	(佐藤 嘉晃)					●														
		l	坪田 康						●					2								
		m	深田 智							●												
		n	坪田 康								●	●										
		o	神澤 克徳									●										
		p	(福地 浩子)									●										
		q	(塩谷 直史)									●										
		r	(井上 拓也)										●									
		s	(檜和 千春)										●									
		t	(佐藤 嘉晃)										●									
u	深田 智								●													
v	(福地 浩子)								●													
w	(塩谷 直史)								●													
x	坪田 康				●	●	●	●	●	●	2							再履修者用。前学期に不合格となった者も履修することができる。				
Academic English	Academic English	a	竹井 智子	1	演習	●																
		b	(西塔 由貴子)			●																
		c	(河島 美代子)				●															
		d	(奥田 優子)				●															
		e	竹井 智子				●															
		f	神澤 克徳				●															
		g	(奥田 優子)				●															
		h	(西塔 由貴子)				●															
		i	(檜和 千春)					●														
		j	(井上 拓也)					●														
		k	(佐藤 嘉晃)					●														
		l	坪田 康						●					2								
		m	深田 智							●												
		n	坪田 康								●	●										
		o	神澤 克徳									●										
		p	(福地 浩子)									●										
		q	(塩谷 直史)									●										
		r	(井上 拓也)										●									
		s	(檜和 千春)										●									
		t	(佐藤 嘉晃)										●									
u	深田 智								●													
v	(福地 浩子)								●													
w	(塩谷 直史)								●													

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分				週授業時間数				備考	下履修	合格再履							
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域		デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次						
						応用化学	電子	情報	機械	デザイン建築	前	後	前				後	前	後				
Career English Intermediate	Career English Intermediate	前a	林 千恵子	1	演習	●	●										Career English Basicの既修得を要す。授業開始前にクラス分けが発表されるので、指定クラスで受講すること。 なお、3回生以上の受講希望者は前m、前nを受講すること。						
		前b	竹井 智子			●	●																
		前c	(榎和 千春)			●	●																
		前d	(福地 浩子)			●	●																
		前e	(太田 純)			●	●																
		前f	深田 智					●	●	●													
		前g	神澤 克徳					●	●	●				2									
		前h	坪田 康					●	●	●													
		前i	(河島美代子)					●	●	●													
		前j	(榎和 千春)																				
		前k	(田中 廣明)																				
		前l	林 千恵子																				
		前m	(島田 浩之)			●	●	●	●	●	●												
		前n	(島田 浩之)			●	●	●	●	●	●								2				
後a	竹井 智子	●	●	●	●	●	●																
後b	(島田 浩之)	●	●	●	●	●	●							2									
Career English Advanced	Career English Advanced	前a	羽藤 由美	1	演習	●	●											2回生用。TOEICスコア630以上を取得している者を対象とする。 ※前学期開始後、履修登録修正期間までにTOEICスコア630点以上を取得した場合は学務課に申し出ることを受講可。					
		前b	羽藤 由美					●	●	●													
		前c	羽藤 由美																				
		前d	(島田 浩之)			●	●	●	●	●	●										3回生以上用。Career English Intermediateの既修得者又はTOEICスコア630点以上を取得している者を対象とする。 ※前学期開始後、履修登録修正期間までにTOEICスコア630点以上を取得した場合は学務課に申し出ることを受講可。		
		前e	(島田 浩之)			●	●	●	●	●	●												
		後a	羽藤 由美			●	●																
		後b	(太田 純)			●	●																
		後c	(榎和 千春)			●	●																
		後d	(福地 浩子)			●	●																
		後e	林 千恵子			●	●																
		後f	羽藤 由美					●	●	●													
		後g	神澤 克徳					●	●	●													
		後h	林 千恵子					●	●	●													
		後i	(河島 美代子)					●	●	●													
		後j	(西塔 由貴子)					●	●	●													
		後k	羽藤 由美																				
		後l	林 千恵子																				
後m	(榎和 千春)																						
後n	(田中 廣明)																						
後o	(島田浩之)	●	●	●	●	●	●																

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数								備考	下履修	合格再履	
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次		2年次		3年次		4年次				
								応用化学	電子	情報		機械	前	後	前	後	前	後				前
Active English CLIL	Active English CLIL	前a	サンドラ ヒーリ	1	演習	○	○	○	○	○	○											
		前b	(バトリック ジャッジ)			○	○	○	○	○	○			2								
		後a	サンドラ ヒーリ			○	○	○	○	○	○				2							
Active English Listening & Speaking I	Active English Listening & Speaking I	前a	(西塔 由貴子)	1	演習	○	○	○	○	○	○									Active English CLIL、Active English Listening & Speaking I、Active English Reading I、Active English Writing I、Active English Project-Based Learningはどのレベルの学生も受講可能。		
		前b	(ダイアン ハリング)			○	○	○	○	○	○											
		前c	(マーク スタッブ)			○	○	○	○	○	○											
		前d	(塩谷 直史)			○	○	○	○	○	○											
		前e	(ジュティ タボハシ)			○	○	○	○	○	○											
		後a	(島田 浩之)			○	○	○	○	○	○											
		後b	(マーク スタッブ)			○	○	○	○	○	○											
Active English Listening & Speaking II	Active English Listening & Speaking II	前a	(ドナ ハヤシ)	1	演習	○	○	○	○	○	○									Active English Listening & Speaking II、Active English Reading II、Active English Writing IIは原則としてTOEICスコアが630点以上の者対象。ただし、その点数に満たなくても、このレベルの授業に取り組みようとする意欲のある者は受講可能。		
		後a	(ダイアン ハリング)			○	○	○	○	○	○											
		前a	(河島 美代子)			○	○	○	○	○	○											
Active English Reading I	Active English Reading I	前b	(太田 純)	1	演習	○	○	○	○	○	○									1クラスの受講者数の上限は25名とする。受講希望者は初回授業に参加し、担当教員が準備した名簿に氏名等を記載することによって、受講登録の権利を得るものとする。希望者が25名を超える場合には調整を行う。抽選などの人数調整方法や初回授業の実施方法は、社会状況等により変更される場合があるので、履修希望者は履修の前に学生情報ポータル上の「Active English 受講登録について」を必ず参照すること。		
		後a	(河島 美代子)			○	○	○	○	○	○											
		後b	(太田 純)			○	○	○	○	○	○											
Active English Reading II	Active English Reading II		深田 智	1	演習	○	○	○	○	○	○											
Active English Writing I	Active English Writing I	前a	林 千恵子	1	演習	○	○	○	○	○	○											
		前b	(ガス ウォリーズ)			○	○	○	○	○	○											
		後a	(ガス ウォリーズ)			○	○	○	○	○	○											
		後b	(塩谷 直史)			○	○	○	○	○	○											
Active English Writing II	Active English Writing II	前a	(オリビア ケネディ)	1	演習	○	○	○	○	○	○											
		後a	(オリビア ケネディ)			○	○	○	○	○	○											
		前a	(井尻 アミア)			○	○	○	○	○	○											
Active English Project-Based Learning	Active English Project-Based Learning	前b	(ロバート シーハン)	1	演習	○	○	○	○	○	○											
		後a	(井尻 アミア)			○	○	○	○	○	○											
		後b	(マルコム パーカー)			○	○	○	○	○	○											

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分				週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域		デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次			
								電子	情報機械		前	後	前				後	前	後	
ドイツ語																				
ドイツ語初級基礎A	Elementary German: Grammar A	a	(江川英明)	1	演習	○											同一クラスのドイツ語初級演習Aの同時履修を要す	※		
		b	(甲斐浩一)				○													
		c	(江川英明)				○													
		d	(森田安洋)				○													
		e	(紀之定真理恵)				○													
		f	(森口大地)					○												
		g	(中川一成)					○	○					2						
		h	(江川英明)							○	○									
		i	(中川一成)									○								
		j	(甲斐浩一)										○							
		k	(甲斐浩一)											○						
		l	(江川英明)											○						
		m	(甲斐浩一)											○						
ドイツ語初級基礎B	Elementary German: Grammar B	a	(江川英明)	1	演習	○										ドイツ語初級基礎A及びドイツ語初級演習Aの修得を要す 同一クラスのドイツ語初級演習Bの同時履修を要す	※			
		b	(甲斐浩一)				○													
		c	(江川英明)				○													
		d	(森田安洋)				○													
		e	(紀之定真理恵)				○													
		f	(森口大地)					○												
		g	(中川一成)					○	○					2						
		h	(江川英明)							○	○									
		i	(中川一成)									○								
		j	(甲斐浩一)										○							
		k	(甲斐浩一)											○						
		l	(江川英明)											○						
		m	(甲斐浩一)											○						
ドイツ語初級演習A	Elementary German: Reading A	a	(渡辺恭彦)	1	演習	○										同一クラスのドイツ語初級基礎Aの同時履修を要す	※			
		b	(森田安洋)				○													
		c	(紀之定真理恵)				○													
		d	(渡辺恭彦)				○													
		e	(小松紀子)				○													
		f	(小松紀子)					○												
		g	(小田直史)					○	○					2						
		h	(小松紀子)							○	○									
		i	(小田直史)									○								
		j	(森口大地)										○							
		k	(小松紀子)											○						
		l	南 剛											○						
		m	南 剛											○						
ドイツ語初級演習B	Elementary German: Reading B	a	(渡辺恭彦)	1	演習	○										ドイツ語初級基礎A及びドイツ語初級演習Aの修得を要す 同一クラスのドイツ語初級基礎Bの同時履修を要す	※			
		b	(森田安洋)				○													
		c	(紀之定真理恵)				○													
		d	(渡辺恭彦)				○													
		e	(小松紀子)				○													
		f	(小松紀子)					○												
		g	(小田直史)					○	○					2						
		h	(小松紀子)							○	○									
		i	(小田直史)									○								
		j	(森口大地)										○							
		k	(小松紀子)											○						
		l	南 剛											○						
		m	南 剛											○						

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履					
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次		2年次				3年次		4年次		
								応用化学	電子	情報		機械	前	後				前	後	前	後	前
ドイツ語中級A	Intermediate German A	a (中川一成) b 南剛 c (中川一成)	(中川一成) 南剛 (中川一成)	1	演習	○	○	○	○	○	○			2					ドイツ語初級基礎B及びドイツ語初級演習Bの修得を要す	※		
ドイツ語中級B	Intermediate German B	a (中川一成) b 南剛 c (中川一成)	(中川一成) 南剛 (中川一成)	1	演習	○	○	○	○	○	○				2				ドイツ語中級Aの修得を要す	※		
ドイツ語上級A	Advanced German A	南剛	南剛	1	演習	○	○	○	○	○	○					2			ドイツ語中級Bの修得を要す	※		
ドイツ語上級B	Advanced German B	南剛	南剛	1	演習	○	○	○	○	○	○						2		ドイツ語上級Aの修得を要す	※		
フランス語																						
フランス語初級基礎A	Elementary French: Grammar A	a 吉川順子 b (山下裕大) c (ジュリー・ブロック) d (大山明子)	吉川順子 (山下裕大) (ジュリー・ブロック) (大山明子)	1	演習	○	○	○	○	○	○	2							同一クラスのフランス語初級演習Aの同時履修を要す	※		
フランス語初級基礎B	Elementary French: Grammar B	a 吉川順子 b (山下裕大) c (ジュリー・ブロック) d (大山明子)	吉川順子 (山下裕大) (ジュリー・ブロック) (大山明子)	1	演習	○	○	○	○	○	○	2							フランス語初級基礎A及びフランス語初級演習Aの修得を要す 同一クラスのフランス語初級演習Bの同時履修を要す	※		
フランス語初級演習A	Elementary French: Reading A	a 吉川順子 b (山下裕大) c (ジュリー・ブロック) d (大山明子)	吉川順子 (山下裕大) (ジュリー・ブロック) (大山明子)	1	演習	○	○	○	○	○	○	2							同一クラスのフランス語初級基礎Aの同時履修を要す	※		
フランス語初級演習B	Elementary French: Reading B	a 吉川順子 b (山下裕大) c (ジュリー・ブロック) d (大山明子)	吉川順子 (山下裕大) (ジュリー・ブロック) (大山明子)	1	演習	○	○	○	○	○	○	2							フランス語初級基礎A及びフランス語初級演習Aの修得を要す 同一クラスのフランス語初級基礎Bの同時履修を要す	※		
フランス語中級A	Intermediate French A	a 吉川順子 b (大山明子)	吉川順子 (大山明子)	1	演習	○	○	○	○	○	○			2					フランス語初級基礎B及びフランス語初級演習Bの修得を要す	※		
フランス語中級B	Intermediate French B	a 吉川順子 b (大山明子)	吉川順子 (大山明子)	1	演習	○	○	○	○	○	○				2				フランス語中級Aの修得を要す	※		
フランス語上級A	Advanced French A	吉川順子	吉川順子	1	演習	○	○	○	○	○	○					2			フランス語中級Bの修得を要す	※		
フランス語上級B	Advanced French B	吉川順子	吉川順子	1	演習	○	○	○	○	○	○						2		フランス語上級Aの修得を要す	※		
中国語																						
中国語初級基礎A	Elementary Chinese I A	a (柴礼敏) b (中尾弥継) c (柴礼敏) d (伊藤令子) e (中尾弥継) f (伊藤令子) g (中尾弥継) h (中尾弥継)	(柴礼敏) (中尾弥継) (柴礼敏) 伊藤令子 (中尾弥継) 伊藤令子 (中尾弥継) (中尾弥継)	1	演習	○	○							2					同一クラスの中国語初級演習Aの同時履修を要す	※		
中国語初級基礎B	Elementary Chinese I B	a (柴礼敏) b (中尾弥継) c (柴礼敏) d (伊藤令子) e (中尾弥継) f (伊藤令子) g (中尾弥継) h (中尾弥継)	(柴礼敏) (中尾弥継) (柴礼敏) 伊藤令子 (中尾弥継) 伊藤令子 (中尾弥継) (中尾弥継)	1	演習	○	○							2					中国語初級基礎A及び中国語初級演習Aの修得を要す 同一クラスの中国語初級演習Bの同時履修を要す	※		

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分				週授業時間数				備考	下履修	合格再履						
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次					2年次		3年次		4年次	
						応生	応用化学	電子	情報	機械	デザイン建築	前	後				前	後	前	後	前	後
中国語初級演習A	Elementary Chinese II A	a	(柴 礼敏)	1	演習	○	○											同一クラスの中国語初級基礎Aの同時履修を要す	※			
		b	(楊 韜)				○															
		c	(柴 礼敏)				○															
		d	(黄 沈黙)					○														
		e	(楊 韜)						○													
		f	(黄 沈黙)								○											
		g	(韓 軍)										○									
		h	(韓 軍)										○									
中国語初級演習B	Elementary Chinese II B	a	(柴 礼敏)	1	演習	○	○											中国語初級基礎A及び中国語初級演習Aの修得を要す 同一クラスの中国語初級基礎Bの同時履修を要す	※			
		b	(楊 韜)				○															
		c	(柴 礼敏)				○															
		d	(黄 沈黙)					○														
		e	(楊 韜)						○													
		f	(黄 沈黙)								○											
		g	(韓 軍)										○									
		h	(韓 軍)										○									
中国語中級A	Intermediate Chinese A	a	(黄 當時)	1	演習	○	○	○	○	○	○							中国語初級基礎B及び中国語初級演習Bの修得を要す	※			
		b	(黄 當時)																			
		c	(水野義道)																			
		d	(韓 軍)																			
中国語中級B	Intermediate Chinese B	a	(黄 當時)	1	演習	○	○	○	○	○	○							中国語中級Aの修得を要す	※			
		b	(黄 當時)																			
		c	(水野義道)																			
		d	(韓 軍)																			

2. 人間教養科目

「人間教養科目」は、本学の理念および学部の教育研究上の目的に掲げられている幅広い教養と高い倫理性、さらに工織コンピテンシーに掲げる理工系高度専門技術者としての基本的素養を修得するために開設されています。この目的のために、「工芸科学教養科目」、「基本教養科目」および「体の科学」の3つの科目群を設けています。人間教養科目の一部は、三大学教養教育共同化科目^{*1}として開講されます。

(1) 工芸科学教養科目

「工芸科学教養科目」は、工織コンピテンシーに掲げる理工系高度専門技術者としての基本的素養の修得を主眼とした科目群で、以下の5つのカテゴリーから成っています。

「工芸科学入門」は、工芸科学部で展開される教育の全体像に触れ、自らの専門分野でどのようにキャリアを積み、将来を切り拓いてゆくかの展望を得るとともに、理工系高度専門技術者としての必要な幅広い分野の基礎的リテラシーを学ぶことなどを目的としています。特徴的な科目として、KITスタンダード^{*2}を開講しています。

「科学技術と環境・倫理」は、理工系高度専門技術者として、本学の理念に掲げる人間と環境の調和を目指すために必要な科学技術的知識および社会科学的知識の習得と、それらを正しく活用するための倫理性の涵養を目的としています。

「ものづくりと技術戦略」は、ものづくりに関わる教育研究の内容を理解するとともにものづくり加工技術の実体験、および、産業界で行われているものづくりプロセス全体の疑似体験などを通じて、理工系高度専門技術者としての実践的基礎を習得することを目的としています。

「リーダーシップと経営戦略」は、課題解決型学習（Project Based Learning）および起業家マインド・経営マインドの涵養や技術革新における知的財産権に関わる基礎知識の習得を通じて、リーダーシップの基礎を身につけることを目的としています。

「京の伝統文化と先端」は、本学の発展を支えてきた京都の伝統・社会・文化・歴史を学ぶとともに、京都の近代産業の展開と先端的なものづくり産業の現状を理解することによって、文化的アイデンティティを育むことを目的としています。また、本学が拠って立つ京都という地域への敬意と、地域への貢献に資する意欲の醸成にも寄与します。

(2) 基本教養科目

「基本教養科目」は、人間としての基本的な教養を深め、主体的・科学的に考え行動する力を涵養するために、専門分野にとらわれない幅広い学問分野の知識と思考力・判断力・倫理性を培うことを狙いとしています。また、工織コンピテンシーに掲げる文化的アイデンティティの基礎を育むことにも寄与します。この科目群は、社会科学・人文科学・自然科学の各分野

に対応する、「人と社会」、「人と文化」および「人と自然」の3つのカテゴリーから成っています。

(3) 体の科学

「体の科学」は、科学的知識と実践に基づいて、健全な精神と身体を培うことを目的とした科目群で、講義・演習科目から成っています。

※1 三大学教養教育共同化科目

人間教養科目の一部は、京都府立大学、京都府立医科大学と連携した共同の教養科目として開講しており、教科課程表の備考欄には「三大学教養教育共同化科目」と記載されています。

講義の各クラスには各大学の学生が出席することになります。

この三大学共同による教養教育は、(一部の例外を除き)京都府立大学下鴨キャンパス内にある共同化施設「稲盛記念会館」において実施されます。

共同化施設への移動については、電車・バス等公共交通機関を利用するか、自転車・徒歩によることとなりますが、事故等のないよう十分気をつけてください。

また、開講される日程や、受講登録が決定するまでの手続き、学期試験の取り扱いなどについて、本学の他の科目とは一部異なる事項がありますので、注意してください。

なお、詳細な内容については、別途配布する次の資料により確認してください。

- 京都三大学教養教育共同化科目受講案内
(京都三大学教養教育研究・推進機構が発行するもの)
- 京都三大学教養教育共同化科目を受講する際の留意事項について
(本学学務課が発行するもの)

※2 K I Tスタンダード

本学は、「21世紀知識基礎社会を担う専門技術者が備えるべき知識と技術《K I Tスタンダード》」を修得できる教育プログラムを提供することで、社会が求める人材を輩出することを使命と考えています。

このK I Tスタンダードの具体的なテーマについては、現在、研究主題として重視されているテーマに加えて、本学が就職企業先に対して独自に行ったアンケート調査により判明した分野と、本学の個性あるいは理念を実態化するための能力とを勘案して、《遺伝子リテラシー》、《環境科学リテラシー》、《ものづくりリテラシー》、《造形感覚リテラシー》、《知的財産リテラシー》、《情報リテラシー》の六つのリテラシーと基礎科目としての英語、数学を21世紀理工系学生の備えるべきリテラシー(事象を理解・整理し、活用する能力)として抽出しました。

六つのリテラシーに関しては、講義及びe-learningによる演習を通じて学習したうえで、求められる

能力を身に付けたかどうかを検証するための大学独自の試験（KIT検定）を受験し、合格者には単位を付与することとしています。

英語は、TOEICを用いて、習熟度や学習の成果を客観的に検証します。

また、数学は、全学生に配布される科目案内と過去の試験問題を中心とした科目別問題集により、科目の全体系を意識した上で、科目毎の達成目標を具体的に確認しながら習熟度を向上させる取り組みを始めています。

人間教養科目

- 履修区分欄の☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。

人間教養科目

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次	
						応用化学	電子	情報	機械	デザイン建築	前後	前後	前後	前後					
工芸科学入門																			
工芸科学基礎	Introduction for School of Science and Technology		学部長・全学域長 他	1	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					前学期前半開講 集中授業		
キャリア教育基礎	Introduction for Career Education		学生支援センター長・山本以和子・アクセシビリティ・コミュニケーション支援センター長 他	1	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					前学期後半開講 集中授業		
KITスタンダード	KIT Standard		総合教育センター長・応用生物学課程関係教員・環境科学センター担当教員・ものづくり教育研究センター担当教員・デザイン・建築学課程関係教員・産学公連携推進センター知的財産戦略室関係教員・(大西雅直)・情報科学センター担当教員	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					KIT検定による単位認定・集中授業		※
学習・キャリア戦略論	Strategic Planning for Learning and Career Development		山本以和子	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							
国際理解	International Understanding		国際センター長 他	1	演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					集中授業		
人権教育	Human rights education		(杉本弘幸)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							※
工芸科学教養科目																			
科学技術と環境・倫理																			
地球環境論	Global Environmental Science		布施泰朗・(岩崎 仁)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆A	☆	2							※
環境マネジメント	Environmental Management		布施泰朗	1	講義	☆	☆	☆	☆	☆A	☆			1			集中授業		※
環境問題と持続可能な社会	Environmental problem and sustainable society		(山田 悦)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆A	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
環境と法	Environment and Law		(須田 守)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆A	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
エネルギー科学	Science of Energy		(林 康明)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆A	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
情報セキュリティと情報倫理	Information Security and Ethics		樹田秀夫・永井孝幸・森 真幸	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆B	☆	2							※
生命倫理と環境倫理	bioethics and environmental ethics		秋富克哉	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆B	☆		2						
テクノロジー論	A Study of Technology		秋富克哉	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆B	☆			2					※
現代科学と倫理	Ethics in Contemporary Science		(岩崎豪人)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆B	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)		
ものづくりと技術戦略																			
ものづくりと生命物質科学	Monozukuri and Material and Life Science	a	応用生物学域・物質材料科学域教員	2	講義	×	×	☆	☆	☆		2							
		b				×	×			☆	2								
ものづくりと設計工学	Monozukuri and Engineering Design	a	設計工学域教員	2	講義			×	×	×	☆	2							
		b				☆	☆	×	×	×		2							
ものづくりとデザイン科学	Monozukuri and Design Science	a	デザイン科学域教員	2	講義	☆	☆				×	2							
		b					☆	☆	☆	×	2								
ものづくり加工実習	Manufacturing Processes and Machinshop Practice		ものづくり教育研究センター長 他	2	講義・実習	☆	☆	☆	☆	×	☆			2					

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分				週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						応用生 物学域	物質・ 材料科学域	設計工学域	デザイン 科学域	1年次	2年次	3年次	4年次				
						応用化学	電子	情報	機械	IT 建築	前後	前後	前後				前後
リーダーシップと経営戦略																	
リーダーシップ基礎Ⅰ	Leadership BasicⅠ		総合教育センター長・桑原教彰・大谷章夫・寺澤昇久・山口桂司・小島紘太郎・神澤克徳・(筒井洋一)・(津吹達也)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					※
リーダーシップ基礎Ⅱ	Leadership BasicⅡ		(筒井洋一)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					※
知的財産経営論	Intellectual Property Management Theory	a (厳樫邦弘) b (塩川信明)		2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					
SDGsをまなぶ	Learning of SDGs		学部長・前田耕治・秋富克哉・(筒井洋一)・(巽尚之)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)
ベンチャー企業経営学	Venture Businesses		(泉)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2			
リーダーシップ実践Ⅰ	Leadership PracticeⅠ		(坂井裕紀)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					集中授業
リーダーシップ実践Ⅱ	Leadership PracticeⅡ		(坂井裕紀)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					集中授業
地域連携プロジェクト	Regional collaboration project		大谷章夫・桑原教彰・(崔童股)	1	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					集中授業 地域創生 TechProgram生は履修不可 2021年度は開講しない
国際連携プロジェクトⅠ	International Collaboration ProjectⅠ		国際センター長・高橋和生 他	1	演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆				2		集中授業 申し出により、3回生の履修を認めることがある。
国際連携プロジェクトⅡ	International Collaboration ProjectⅡ		国際センター長・高橋和生 他	2	演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆				2		集中授業 申し出により、3回生の履修を認めることがある。
京の伝統文化と先端																	
文化財学	Study on Cultural Property		平芳幸浩・MARTINEZ,Alejandro	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					文科省選定教育プログラム関連科目1 集中授業
文化芸術都市としての京都	KYOTO a Culture and Arts City		澤田美恵子・伊藤翼斗	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					文科省選定教育プログラム関連科目1 集中授業
京の伝統工芸一技と美	Seeking beauty and technology in Kyoto		澤田美恵子・佐藤哲也・山本以和子・安永秀計・木谷庸二・芳田哲也・綿岡 勲・伊藤翼斗	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2			文科省選定教育プログラム関連科目1 集中授業
京の伝統工芸一知と美	Seeking wisdom and beauty in Kyoto		澤田美恵子・伊藤翼斗	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆				2		文科省選定教育プログラム関連科目1 集中授業 留学生のみ下履修可 2021年度は開講しない
京の意匠	Design of Kyoto		井戸美里・中野仁人	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)
京のまち	Urbanscape of Kyoto		清水重敦・岩本 馨・登谷伸宏・笠原一人・松田剛佐	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2			文科省選定教育プログラム関連科目1
京の知恵 伝統産業の先進的ものづくり	Wisdom of Kyoto ~ Advanced manufacturing technology (monozukuri) of		(廣岡青央)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2			
京の産業技術史	History of Industrial technology in Kyoto		(畑 智子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	○	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)
京の生活文化史	Cultural History of Life	a (泉) b		2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					2021年度は開講しない
京都の文学Ⅰ	Literature in KyotoⅠ		(安達敬子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)
京都の文学Ⅱ	Literature in KyotoⅡ		(本井牧子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)
京都の歴史Ⅰ	History of KyotoⅠ		(菱田哲郎) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)
京都の歴史Ⅱ	History of KyotoⅡ		(小林啓治) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)
現代京都論	Urban Issues and Problems in Kyoto		(大島祥子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次				4年次
								電子	情報	機械		前	後	前				後
工学 科学 教養科目	京都の農林業	Agriculture and Forestry in Kyoto	(中村貴子) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	京都の自然	Natural Resources in Kyoto	(平山貴美子) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	宗教と文化	Religion and Culture	(田中純子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
	英語で京都	Let's talk about Kyoto in English	(山口エレノア)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2			三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	近代京都と三大学	Modernization and 3Universities in Kyoto	(宗田好史) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
	京都の経済	Economy in Kyoto	(小沢修司)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
	資料で親しむ京都学(リベラルアーツ・ゼミナール)	Studies at the Kyoto Institute, Library and Archive	(藤本仁文) 他	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2			三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
	京都の文化と文化財	Culture and Heritage in Kyoto	澤田美恵子・伊藤翼斗 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
人と社会																		
基本 教養科目	法学	Introduction to Law	北村幸也	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)	※
	憲法	Constitutional Law	北村幸也	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2						※
	経済学	Economics	人見光太郎	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆		2				経済学入門の既修得者は履修不可	※
	心理学	Introduction to Psychology	大谷芳夫	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)	※
	現代教育論	Study of Modern Education	塩屋葉子	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)	※
	政治学	Political Science	(西村真彦)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(工繊大)	
	経済学入門	Introductory Economics	人見光太郎	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					経済学の既修得者は履修不可 三大学教養教育共同化科目(工繊大)	
	国際政治	International Politics	(宮脇 昇) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	生活と経済	Living Economy	(小沢修司)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	社会学Ⅰ	SociologyⅠ	(田島知之)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	社会学Ⅱ	SociologyⅡ	(中谷勇哉)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	現代社会と心	Psychological Issues in Contemporary Society	(石田正浩)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	現代社会とジェンダー	Gender in Modern Society	(中根成寿) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	観光学α	Tourism Studies α	(宗田好史)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆		2				三大学教養教育共同化科目(府立大)	
	医療と社会	Medical Sociology	(景山千愛)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
	現代医療の人間観	View of Human in Modern Medicine	(杉岡良彦)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
	認知心理学	Cognitive Psychology	(田村昌彦)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
	発達心理学	Development Psychology	(小川恭子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					集中授業 三大学教養教育共同化科目(府立医大)	
	社会科学の学び方(リベラルアーツ・ゼミナール)	The Social Science Literacy for Liberal Arts (Liberal Arts Seminar)	(児玉英明)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
	世界はいま(リベラルアーツ・ゼミナール)	U.S. and China, Now and the Future (Liberal Arts Seminar)	(榎原美樹)	1	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	1					集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)	
現代イスラーム世界の文化と社会(リベラルアーツ・ゼミナール)	Culture and Society of Contemporary Islamic World (Liberal Arts Seminar)	(田村うらら)	1	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	1					集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分						週授業時間数				備考	下履修	合格再履			
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次	3年次	4年次						
								電子	情報	機械		1年前	1年後	2年前	2年後				3年前	3年後	4年前
経営哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）	Management Philosophy		(児玉英明)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2					三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール）	Contemporary Theories of Justice		(瀬戸山晃一) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(府立医大)		
人と文化																					
哲学	Philosophy		伊藤 徹	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※
歴史学	History		(本康宏史)・(福島幸宏)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							集中授業		※
舞台芸術論	performing arts		(若林雅哉)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2							※
日本近代精神史	History of Ideas in Modern Japan		伊藤 徹	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※
美と芸術	A Study on Beauty and Art		(村上真樹)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		※
比較宗教学	the comparative study of religion		(樽田勇樹)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
西洋文学論	Western Literature		(山下大吾)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
日本近現代文学	Modern Japanese Literature		(高木 彬)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
東西文化交流史	History of East West Relations		(宮本亮一)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
西洋文化論	Western Culture		(山下太郎)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
日本史	Japanese history		(浅井雅)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
フランス語圏の文化とジャポニスム	French and Francophone Cultures and Japonism		吉川順子	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆		2						三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
アジアの歴史と文化	Asian History and Culture		(諫早直人)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(府立大)		
ヨーロッパの歴史と文化	European History and Culture		(阿部拓兒) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(府立大)		
映画で学ぶ英語と文化	Learning English and Cultures through Films		(山口美知代)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2					三大学教養教育共同化科目(府立大)		
映画で学ぶドイツ語と文化	Learning German and Cultures through Films		(勝山絃子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆			2					三大学教養教育共同化科目(府立大)		
ラテン語	Latin		(松本加奈子)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(府立医大)		
文芸創作論	Creative Writing		(藤田佳信)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(府立医大)		
現代社会に学ぶ問う力・書く力（リベラルアーツ・ゼミナール）	Logical Thinking and Academic Writing (Liberal Arts Seminar)	a	(児玉英明)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
		b										2									
感性の実践哲学（リベラルアーツ・ゼミナール）	Practical Philosophy of Sensitivity (Liberal Arts Seminar)		(桑子敏雄)	1	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	1							集中授業 三大学教養教育共同化科目(三大学機構)		
人と自然																					
人と自然と数学α	People, Nature, and Mathematics α		峯 拓矢	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
人と自然と数学β	People, Nature, and Mathematics β		磯崎泰樹	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
人と自然と物理学	Physics for human and nature		萩原 亮・武田 実・一色 俊之	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
化学概論Ⅰ	Introduction to Chemistry I		(三木定雄)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
化学概論Ⅱ	Introduction to Chemistry II		(石川洋一)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
生物学概論Ⅰ	Introduction to Biology I		(疋田 努)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		
生物学概論Ⅱ	Introduction to Biology II		(疋田 努)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							三大学教養教育共同化科目(工繊大)		

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分				週授業時間数				備考	下履修	合格再履			
						応用生物学域	物質・材料科学域	設計工学域			デザイン科学域	1年次	2年次				3年次	4年次	
						応用化学	電子	情報	機械	ナレッジ構築	前後	前後	前後				前後		
基本 教養 科目	地球の科学	Science of Earth	(酒井 敏)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(工繊大)		
	科学史	History and Philosophy of Science	(大西琢朗)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(工繊大)		
	物理学 I	Physics I	(安田啓介)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(府立大)		
	食と健康の科学	Sciences for Food and Health	(小林ゆき子) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(府立大)		
	生命科学講話	Topics of Biosciences	(塚本康浩) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					集中授業 三大学教養教育共同 化科目(府立大)		
	時間生物学特論	Chronobiology	(八木田和弘)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					集中授業 三大学教養教育共同 化科目(府立医大)		
	生物学的人間学	Human Biology	(小野勝彦)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(府立医大)		
	医学概論	Introduction to Medicine	(奥田 司) 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆		2				三大学教養教育共同 化科目(府立医大)		
	医療人類学	Medical Anthropology	(野上恵美)	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(府立医大)		
	意外と知らない植物の世界 (リベラルアーツ・ゼミナール)	The World of the Plant not to Know Unexpectedly (Liberal Arts Seminar)	井戸美里 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(三大学機構)		
	レーザーで測る、創る、楽しむ (リベラルアーツ・ゼミナール)	Lasers for Future Sensing, Production and Entertainment (Liberal Arts Seminar)	(播磨 弘)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(三大学機構)		
	京都の防災と府民	Disaster Prevention and People in Kyoto Prefecture	岩本馨・阪田弘一 他	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(三大学機構)		
	製品の機能から科学を学ぶ (リベラルアーツ・ゼミナール)	Introduction to Functional Materials (Liberal Arts Seminar)	(石田昭人)	2	講義・演習	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(三大学機構)		
	キャンパスヘルス概論	Campus Health Study	荒井宏司	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2					三大学教養教育共同 化科目(工繊大)		※
	健康体力科学	Science of Health and Physical Fitness	芳田哲也・山下直之	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							※
生体行動科学	Science of Human Performance	野村照夫・来田宣幸	2	講義	☆	☆	☆	☆	☆	☆	2							※	
体の科学																			
生涯スポーツ	Lecture and Seminar on Lifetime Sports	a	山下直之・(佐竹敏之)・(井上恵子)	2	講義・演習	○	○	○	○	○	○	2							※
		b	山下直之・(佐竹敏之)・(井上恵子)						○	○	○	○	2						
		c	山下直之・(佐竹敏之)・(井上恵子)			○	○		○				2						
スポーツ科学 I	Lecture and Seminar on Sports Science I	a	芳田哲也・(道端明子)・(溝石寿)	2	講義・演習						○								
		b	芳田哲也・(道端明子)・(溝石寿)							☆	C								
		c	来田宣幸・(高山優子)・(水鳥克己)			○	○					2							
		d	来田宣幸・(高山優子)・(水鳥克己)					○	○										
		e	山下直之・(佐竹敏之)・(井上恵子)				○												
スポーツ科学 II	Lecture and Seminar on Sports Science II	a	芳田哲也・(道端明子)・(溝石寿)	2	講義・演習						○								
		b	芳田哲也・(道端明子)・(溝石寿)							☆	C								
		c	野村照夫・(高山優子)・(水鳥克己)			○	○					2							
		d	野村照夫・(高山優子)・(水鳥克己)					○	○										

Ⅲ. 各課程の教育内容について

応用生物学域

1. 学域の紹介

20世紀後半に始まった生命科学とバイオテクノロジーの進歩によって、ヒトゲノムをはじめ様々な生物のゲノム情報、すなわち生命の設計図が明らかにされました。その結果、生命現象を遺伝子やタンパク質など、分子レベルで理解することが可能になりました。同時に、生命科学とバイオテクノロジーは、私たちが直面している医療、環境、資源などに関する地球規模の諸問題を解決するためになくてはならないものになっています。このような背景のもと応用生物学域では、生体分子から細胞や個体レベルに至る生物学を中心に自然科学全般を学習します。それによって生物学の研究を行うために必要な素養を身に付けると同時に、その成果を地球規模の諸問題の解決に活用できる人材の養成を担います。

1年次と2年次では、自然科学全般（化学、物理学、生物学、数学、情報科学など）を専門基礎科目として履修し、広く自然科学の基礎知識を身につけます。これらの科目は、主に2年次から始まる課程専門科目を学ぶための基礎になります。3年次後期からは、研究室に配属されて最先端研究の一端に触れ、4年次の卒業研究へとつながります。これらの学習を通じて社会に貢献できる研究技術者を養成します。

2. 学域の専門基礎科目

「専門基礎科目」は各専門分野の基礎や背景を支える知の体系である科学（science）を構成する数学、物理学、化学、生物学等の基礎的な内容から成ります。これらは自然界や人間社会を探究するための知的活動ですが、数学は科学と技術の共通の「言語」としての基本的な役割も担っています。「専門基礎科目」では、専門課程への準備と同時に、現代社会を豊かに生きるための基本的な素養を提供します。

数学：

数学はあらゆる現象を数量や図形間の関係としてとらえ、論理の力で問題を解明しようという学問です。

1年次では、「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「数学演習Ⅰ、Ⅱ」が提供されています。「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」では、まずⅠにおいて高校で学んだ1変数の微分積分学についてより統一的な高い立場から講義し、Ⅱで多変数の微分である偏微分法、また力学の運動方程式を始めとして多くの自然現象を解析するのに必要な微分方程式の基本的な取り扱いについて講義します。「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」では、自然科学や人文社会科学でも重要となる、多変量の見通しよい取扱いや、行列や行列式について講義します。「数学演習Ⅰ、Ⅱ」ではこれらの科目の演習を行います。原則として「基礎解

析Ⅰ、Ⅱ」に引き続くように配置され微積分学に重点を置いた演習を行います。

2年次では、確率統計の基礎を与える「統計数理」を選択できます。

物理学：

力学、電磁気学は、ほとんどすべての工学分野で要求される科学的な考察と演繹の方法を学ぶための基礎科目です。その入り口となる「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」の講義では、微積分やベクトルなどの数学的手法を使って、物理現象の基本法則を記述し、それに基づいて定量的・定式的な推察や考察を行うことで、物体の運動や種々の電磁気現象を支配する規則、力やエネルギーや電磁場の概念などを正しく理解することを目標とします。

「物理学基礎実験」は、実際の物理現象を観察、測定し、理論との比較検討を行うことにより、現象の本質を探る力を養い、実験の方法、測定データの処理、レポートのまとめ方を修得することを目的としています。

化学：

化学は、物質の構造とその性質、さらには物質間の相互作用や反応による変化を追求する自然科学です。私たち自身を含む世界中のあらゆる物質が対象となるため、化学は基盤科学の主要な一分野となっています。

「化学Ⅰ」では、あらゆる化学の基礎となっている、原子の構造、周期表と元素、化学結合について学びます。また、化学と人間社会との密接な関係についても学びます。引き続いて、「化学Ⅱ」では、生体内での反応を理解するための基礎となる有機化学と物理化学についての基本的な概念を学びます。それぞれの内容は、「有機化学Ⅰ・Ⅱ」、および「物理化学Ⅰ・Ⅱ」でさらに詳しく学んでいきますが、いずれも生命現象を理解するための基礎としての立場から講義されます。さらに「無機化学」では物質の物理化学的な捉え方をもとに無機物質の構造・反応・物性との関連性を、「分析化学」では溶液内の多様な化学平衡と平衡論を基礎とする分析法を、「化学工学Ⅰ」では化学産業における製品の生産プロセスの設計とその最適化を学びます。また、「環境化学」では、環境汚染や地球環境に関する諸問題について化学の立場から概説します。

これらの講義で学んだ基礎的内容をより深く理解するために、実験科目である「化学基礎実験」を履修します。同時に実験の方法、データの処理方法、レポートのまとめ方等も修得します。

生物学：

「生物学Ⅰ、Ⅱ」は生物の基本単位である細胞の構造、遺伝、神経やホルモンのような調節の仕組み、動物、植物、微生物などの生命の多様性などについて概説する講義で、生命現象の基本的仕組みと多様性の重要性について理解することを目的としています。

「資源生物と環境」は生物多様性の重要性、生物と環境との相互作用、生物による環境の利用、環境保全に向けた生物の制御法、および生態系サービスとしての資源生物利用について理解することを目的としています。

これらの講義で学んだ基礎的内容をより深く理解するために、実験科目である「生物学基礎実

験A」を履修します。同時に実験の方法、データの処理方法、レポートのまとめ方等も修得します。

情報：

種々の媒体（メディア）を介して得られる多種多様な情報をコンピュータ上で処理（変換、伝達、表現および蓄積の総称）する基本的な方法について、「情報処理演習」等の講義で学びます。

繊維科学プログラム科目：

「工芸科学部 繊維科学プログラムに関する専門教育科目」について所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、繊維科学プログラム修了の認定をすることができます。

3. インターンシップ

「インターンシップ A、B」は、それぞれ約1週間（45 時間）と2週間（90 時間）の期間、関連分野の企業等での職業体験（研修）を行うことにより、これらの分野での実践的な知識や技能を修得することを目的としています。また、将来、大学院に進学する場合、および職業を選択する場合の参考となる体験的知識の習得も目的としています。

専門教育科目
応用生物学域

専門導入科目（応用生物学域）

- 履修区分欄の●は必修科目、×は履修不可科目を示す。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。

専門導入科目（応用生物学域）

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目	ク ラ ス	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	履修区分		週授業時間数								備 考	合 格 再 履
						応用生物学域		1年次		2年次		3年次		4年次			
						一般	地域	前	後	前	後	前	後	前	後		
						応 生	応 生	前	後	前	後	前	後	前	後		
専門導入ゼミ	Introductory Seminar	応生	応用生物学課程関係教員	2	講義	●	●	2									
地域課題導入セミナー	Introduction seminar with regional challenges	応生	大谷章夫・桑原教彰・井 野晴洋・YU ANNIE・ (菅重殷)	1	演習	×	●	2									集中授業

専門基礎科目（応用生物学域）

- 履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。

専門基礎科目（応用生物学域）

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目	ク ラ ス	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	履修区分		週授業時間数				備 考	下 履 修	合 格 再 履		
						応用生物学域		1年次	2年次	3年次	4年次					
						一般	地域	前	後	前	後				前	後
						応 生	応 生	前	後	前	後				前	後
数 学																
基礎解析Ⅰ	Basic Calculus I	応生	(東山和巳)	2	講義	☆	☆	2								
基礎解析Ⅱ	Basic Calculus II	応生	(東山和巳)	2	講義	☆	☆	2								
線形代数学Ⅰ	Linear Algebra I	応生	(神 貞介)	2	講義	☆	☆	2								
線形代数学Ⅱ	Linear Algebra II	応生	(神 貞介)	2	講義	☆	☆	2								
数学演習Ⅰ	Exercises in Mathematics I	応生	(東山和巳)	2	講義・演習	○	○	2								
数学演習Ⅱ	Exercises in Mathematics II	応生	(東山和巳)	2	講義・演習	○	○	2								
統計数理	Mathematical Statistics	応生	井川 治	2	講義	○	○		2							
物理学																
物理学Ⅰ	Physics I	応生	三瓶明希夫	2	講義	☆	☆	2							※	
物理学Ⅱ	Physics II	応生	(木曾田賢治)	2	講義	☆	☆	2							※	
物理学基礎実験	Laboratory Work in Basic Physics	応生a	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・水口朋子・(鶴谷直樹)・(厳樫昌弘)・(猿山靖夫)	2	実験	☆	☆		6							
		応生b	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・水口朋子・(鶴谷直樹)・(厳樫昌弘)・(猿山靖夫)	2		☆	☆		6							
化 学																
化学Ⅰ	Fundamental Chemistry I	応生	中 建介	2	講義	☆	☆	2							※	
化学Ⅱ	Fundamental Chemistry II	応生	麻生祐司	2	講義	☆	☆	2							※	
物理化学Ⅰ	Physical Chemistry I	応生	(鈴木哲夫)	2	講義	☆	☆		2						※ ※	
物理化学Ⅱ	Physical Chemistry II	応生	(鈴木哲夫)	2	講義	☆	☆		2						※ ※	
有機化学Ⅰ	Organic Chemistry I	応生	志波智生	2	講義	☆	☆		2						※ ※	
有機化学Ⅱ	Organic Chemistry II	応生	(川瀬徳三)	2	講義	☆	☆		2						※ ※	
化学工学Ⅰ	Chemical Engineering I	応生	堀内淳一・熊田陽一	2	講義	○	○		2						※ ※	
無機化学Ⅰ	Inorganic Chemistry I	応生	角野広平・若衫隆・高廣克己	2	講義	☆	☆		2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可		※ ※	
分析化学	Analytical Chemistry	応生	吉田裕美	2	講義	☆	☆	2							※	
化学基礎実験	Laboratory Work in Basic Chemistry	応生	応用生物学課程関係教員	2	実験	●	●		6							
環境化学	Environmental Chemistry	応生	布施泰朗	2	講義	☆	☆			2					※ ※	
生物学																
生物学Ⅰ	Biology I	応生	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2							※	
生物学Ⅱ	Biology II	応生	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2							※	
資源生物と環境	Bioresorce and Environment	応生	秋野順治・中元朋美・堀元栄枝・半場祐子	2	講義	☆	☆	2							※	
生物学基礎実験A	Laboratory Work in Fundamental Biology A	応生	応用生物学課程関係教員	2	実験	●	●		6							
情 報																
情報処理演習	Seminar in Information Processing	応生	吉村亮一・市川 明・都丸雅敏	2	講義・演習	●	●	2								
学術国際情報	World Science Information	応生	応用生物学課程関係教員	2	講義・演習	●	●		2							
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	応生	桑原教彰・(辻愛里)	2	講義	×	○			4			第3クォーター 福知山キャンパス開講科目			

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						応用生物学域										
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次					
						応生	応生	前後	前後	前後	前後					
その他																
地学Ⅰ	Earth Science I	応生	(紺谷吉弘)	2	講義	☆	☆					2			※	※
地学Ⅱ	Earth Science II	応生	(中西一郎)	2	講義	☆	☆					2			※	※
地学実験	Laboratory Work in Earth Science	応生	(某)・(風間卓仁)	2	講義・実験	☆	☆					4		集中授業		
インターンシップA	InternShip A	応生	課程長	1	実習	☆	☆				3			4.5時間(約1週間)を目安とする。	※	
インターンシップB	InternShip B	応生	課程長	2	実習	☆	☆				6			大学コンソーシアム京都が提供するものを含む。9.0時間(約2週間)を目安とする。	※	
繊維科学プログラム科目																
サステイナブルマテリアル	Sustainable Materials	応生	青木隆史・田中知成	2	講義	○	○				2				※	※
繊維科学基礎	Basics of Fiber Science	応生	綿岡 勲	2	講義	○	○				2				※	※
繊維ナノ構造学	Fiber Nano-structure	応生	佐々木 園・(山根秀樹)	2	講義	○	○				2					
生物繊維材料学	Biofiber materials	応生	麻生祐司・綿岡勲・岡久陽子	2	講義	○	○				2				※	※
繊維プロセス工学	Fiber Process Engineering	応生	(松原富夫・松下義弘・橋本嘉顕・西中久雄・安部正毅・松永伸洋・嶋田幸二郎・相馬成男・井塚淑夫・村山定光・八木健吉)	2	講義	○	○				2				※	
繊維生産流通システム概論	Production and Distribution system of the fiber and textile goods	応生	(某)	2	講義	○	○					2		集中授業	※	
染色科学	Dyeing Science	応生	安永秀計	2	講義	○	○				2				※	※
クロウジングサイエンス	Clothing Science	応生	鋤柄佐千子・奥林里子	2	講義	○	○				2				※	
繊維科学実験	Fiber Science Laboratory	応生	XU HUAIZHONG・(山根秀樹)	2	講義・実験	○	○				4			集中授業	※	
知的財産																
アントレプレナーシップ概論	Introduction of Entrepreneurship	応生	(小林弘樹)	2	講義	*	☆				2			集中授業		
知的財産概論Ⅰ	Introduction of Intellectual Property I	応生	(小澤壯夫)	2	講義	*	☆				2					
知的財産概論Ⅱ	Introduction of Intellectual Property II	応生	(齊藤真大)	2	講義	*	☆				2					
特許法・実用新案法Ⅰ	Patent Law & Utility Mode Law I	応生	(喜多俊文)	2	講義	*	☆				2					
特許法・実用新案法Ⅱ	Patent Law & Utility Mode Law II	応生	(本田史樹)	2	講義	*	☆				2					
知的財産演習	Exercise of Intellectual Property	応生	(塩川信明)	1	演習	*	☆				2					
民法概論Ⅰ	Introduction of Code Civil I	応生	(村尾太久)	2	講義	*	☆				2					
民法概論Ⅱ	Introduction of Code Civil II	応生	(村尾太久)	2	講義	*	☆				2					
複合材料																
繊維科学概論	Introduction to Textile Science	応生	大谷章夫	1	講義	×	○					2		第3クォーター 福知山キャンパス開講科目		
複合材料科学	Composite Materials Science	応生	大谷章夫	2	講義	×	○					4		第3クォーター 福知山キャンパス開講科目		
先端複合材料学	Advanced Composite Materials Science	応生	大谷章夫	2	講義	×	○					4		第4クォーター 福知山キャンパス開講科目		
複合材料基礎実験	Laboratory Work in Composite Materials	応生	大谷章夫	1	実験	×	○					6		第3クォーター 福知山キャンパス開講科目		
複合材料ものづくり実験	Manufacturing Processes for Composite Materials	応生	大谷章夫	1	実験	×	○					6		第1クォーター 福知山キャンパス開講科目		

応用生物学課程

1. 課程の紹介

本課程は、生物学と生物化学の基礎から応用にわたる教育研究を行っています。実践的で多様なカリキュラムを通して、生命と自然に対する豊かな感性を育むとともに、人間生活や環境問題に関わる重要問題の解明にバイオテクノロジーを的確に活用できる能力を養います。

研究分野はバラエティに富んでいます。まったく新しい機能をもつ生体分子の開発にチャレンジするバイオテクノロジーに関する研究はもちろん、ヒトや動物の生理機能を DNA やタンパク質、酵素といった生体分子レベルから解き明かす研究も体験することができます。本課程ならではのユニークな分野として、昆虫を使った応用研究が挙げられます。たとえばショウジョウバエの遺伝子を用い、未だ解明されていない遺伝病の原因を探る研究があります。嵯峨キャンパスにある「ショウジョウバエ遺伝資源センター」は、アメリカ・インディアナ大学の研究機関と並んで世界の二大拠点になっています。また、アリやハチの行動パターンをニオイなどの化学化合物から解明する研究もユニークであり、その成果は新しい害虫駆除法の開発などにつながるものです。

2. 教育目標

生物学と生物化学を基礎として生命現象を研究し、生命、生物資源、地球環境に関わる重要課題の解明にバイオテクノロジーを的確に活用できる人材の育成を目指しています。

3. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

課程の教育目標を実現するための教育プログラムは、以下の方針で編成されています。

現代生物学とその応用であるバイオテクノロジーに関する教育を行います。そのため、生物学の基礎となる生体分子・酵素・遺伝子・細胞の構造と機能に関する教育に加えて、動植物・昆虫・微生物などの機能と応用に関する教育が中心に行われます。さらに、調和のとれた持続可能な人間生活がグローバルに展開できるよう、さまざまな生命現象や行動などに関する専門教育にも力を入れています。

課程専門科目には中心となるコア科目群があり、細胞、生理、微生物、昆虫、遺伝、など主として生物の機能に対する理解を深める講義や、生物化学、分子生物学など主として生物構成分子の働きに対する理解を深める講義があります。これらを基礎に、脳、細胞、植物、微生物、昆虫などについて、アドバンス科目でさらに掘り下げた講義を行います。

知識を定着させるための専門実験や演習は、2・3年次に集中して行います。さらに卒業研究を実践することで、各自が研究者・技術者として活躍するために必須の素養を身につけることを目指します。

4. 教育プログラムのしくみ

1年次は、「専門導入ゼミ」、「自然観察学」などの導入科目により、生物や自然環境に対する

興味や関心を喚起する教育を行います。

主に2年次で開講されるコア科目群では、細胞・生理・微生物・遺伝などの生物機能を深く理解するために必須の講義科目を提供するとともに、生物化学や分子生物学などによって生物構成成分に対する理解を深めます。また、2、3年次に集中して行われる学生実験と演習によって、専門基礎およびコア科目で履修した知識を確認します。さらに、英文専門書や論文の講読演習を通じて、グローバルに活躍するために必要な生物英語を学ぶと同時に専門知識を深めます。

3年次後期から研究室に配属され、基礎研究・演習および卒業研究を実践することにより、研究者・技術者に要求される素養を身に付けます。また大学院に進学して研究を行うための基礎を培います。卒業研究に着手するためには、3年次終了までに定められた単位を修得しておく必要があります（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）。また、福知山キャンパスに行く学生は、3年次前期終了までに定められた単位を修得しておく必要があります。研究室配属や卒業研究の内容については、3年次前期に説明があります。

4年次4月、3年次末における専門基礎科目並びに課程専門科目などの成績を参考に専門的知識の学修度合を評価し、本学大学院3×3特別推薦入試の推薦者を決定します。3×3特別推薦入試に合格した学生は、学部4年次を実質上の修士初年次「MO（エムゼロ）」として大学院工学科学研究科博士前期課程（修士課程）と合わせて3年間一貫したプログラムによる教育・研究を行います。

履修計画の参考のために、「専門科目のカリキュラムツリー」と「科目履修の流れと卒業要件」を課程専門科目の教科課程表の後に示します。

5. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

応用生物学課程では、生物学と生化学に根ざした多面的・先端的手法によって動物・植物・微生物など様々な生物を解析することができ、人間生活の健全で持続的な発展に寄与できる次世代型ゼネラル・バイオテクノロジストの素養を身につけていることが認められれば、学士（農学）の学位が授与されます。

本課程のディプロマ・ポリシーを具体的に記すと、

1. 生物（動物、植物、微生物）のしくみを理解している。
2. 生物の構成要素（タンパク質、核酸、脂質、糖）を理解している。
3. 生物の構造変化（発生、老化）や物質変化（代謝）を理解している。
4. さまざまな先端的生物テクノロジー（遺伝子操作、細胞培養、顕微鏡等のナノテクノロジーなど）を修得している。
5. 生命現象に関する新たな知見に対応し、応用できる能力を修得している。

となります。これらが満たされているかは、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件（履

修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照)と卒業研究の成果によって判定されます。

6. 資格等

所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、「教員免許状(中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状(理科))」や「学芸員資格」が得られます。中学校教諭一種免許状の取得には、教育職員免許法に定める所定の単位の他に「介護等体験」が必要です。

また、所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、「自然再生士補資格」が得られます。その後、1年間の実務経験を経ることにより、「自然再生士の受験資格」が得られます。

課程専門科目

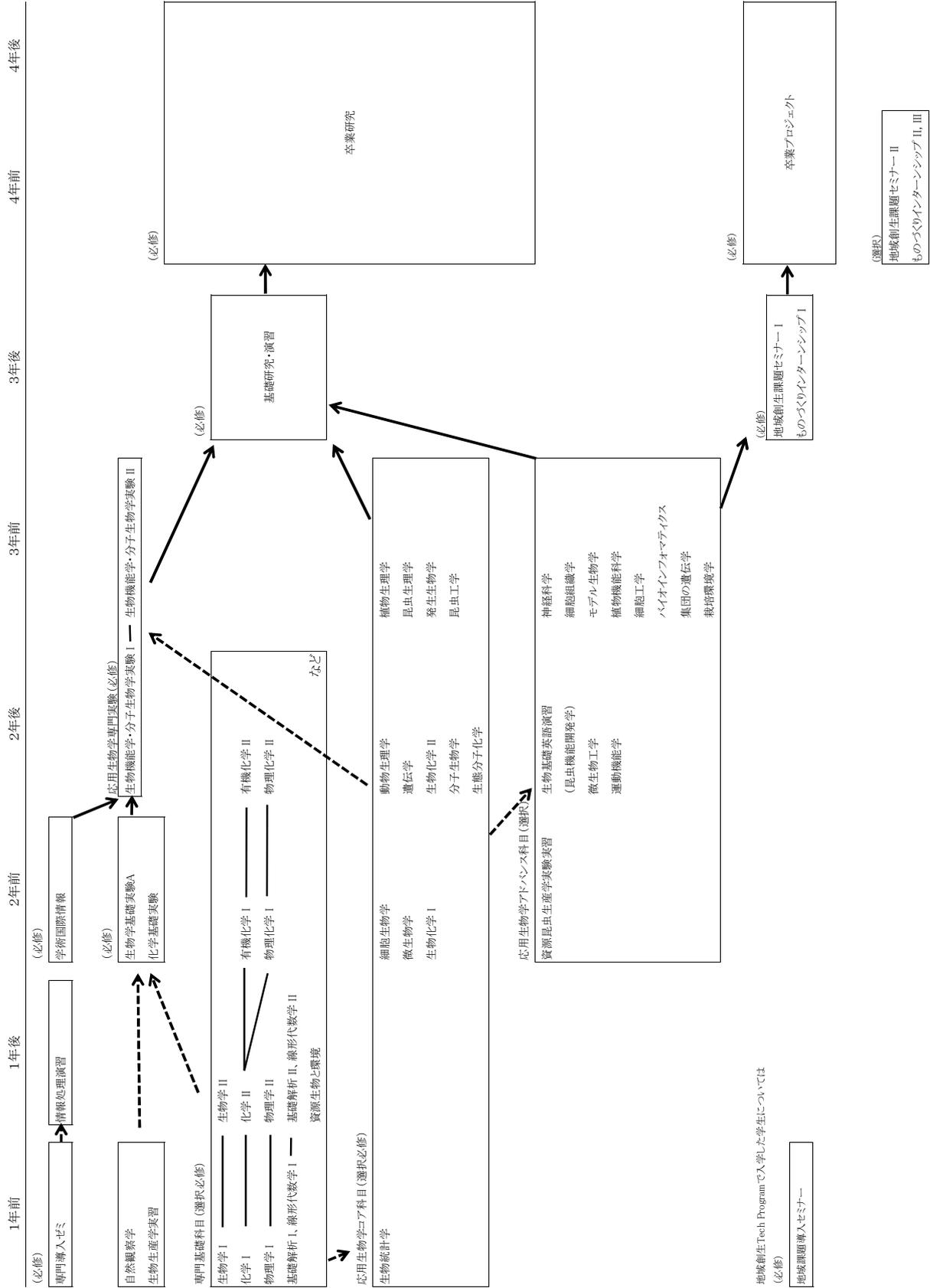
応用生物学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

応用生物学課程

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次				
								前後	前後	前後	前後				
必修科目（応用生物学実験実習）															
自然観察学	Field Observation and Survey of Living Nature		中元朋美・秋野順治・堀元栄枝・齊藤 準・都丸雅敏・長岡純治	1	講義・演習	●	●	2						集中授業	
生物生産学実習	Field Work in Agriculture		中元朋美・秋野順治・堀元栄枝・長岡純治	2	講義・実習	●	●	4							
生物機能学・分子生物学実験Ⅰ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology I		応用生物学課程関係教員	4	実験	●	●			12					
生物機能学・分子生物学実験Ⅱ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology II		応用生物学課程関係教員	4	実験	●	●				12				
基礎研究・演習	Basic Research and Seminar		応用生物学課程関係教員	6	実験・演習	●	×					12		集中授業 全学共通科目と専門教育科目の総取得単位数が100以上であること。ただし、当該年度の3年次編入者については課程長の判断により履修を許可することがある。	
卒業研究	Thesis Research	応生	応用生物学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10		
選択必修科目（応用生物学コア科目） *13科目中11科目（22単位）以上を選択必修する。															
動物生理学	Animal Physiology		宮田清司	2	講義	☆	☆					2			※
細胞生物学	Cell Biology		井沢真吾・吉村亮一	2	講義	☆	☆			2					※
微生物学	Microbiology		鈴木秀之	2	講義	☆	☆			2					※
遺伝学	Genetics		伊藤雅信	2	講義	☆	☆					2			※
植物生理学	Plant Physiology		半場祐子	2	講義	☆	☆					2			※
昆虫生理学	Insect Physiology		齊藤 準	2	講義	☆	☆					2			※
生物化学Ⅰ	Biological Chemistry I	応生	志波哲生	2	講義	☆	☆			2					※
生物化学Ⅱ	Biological Chemistry II	応生	片岡孝夫	2	講義	☆	☆					2			※
分子生物学	Molecular Biology	応生	吉村亮一・北島佐紀人・井沢真吾	2	講義	☆	☆					2			※
発生生物学	Developmental Biology		井上喜博	2	講義	☆	☆					2			※
生態分子化学	Ecological Chemistry		秋野順治	2	講義	☆	☆					2			※
昆虫工学	Insect Biotechnology		小谷英治・高木圭子	2	講義	☆	☆					2			※
生物統計学	Biostatistics		高野敏行・来田宣幸・加藤容子	2	講義・演習	☆	☆	2						集中授業	※
選択科目（応用生物学アドバンス科目）															
生物基礎英語演習	Seminar in Basic Biology with English Text		応用生物学課程関係教員	2	講義・演習	○	○					2		生物学および川を履修していることが望ましい	
資源昆虫生産学実験実習	Field and Laboratory Work in Applied Entomology		秋野順治・長岡純治・小谷英治・高木圭子	2	講義・実習	○	○			4				集中授業	※
神経科学	Neuroscience		宮田清司	2	講義	○	○					2			※
細胞組織学	Structure and Function of Cells and Tissues		蔵本博史	2	講義	○	○					2			※
モデル生物学	Model organisms		吉田英樹・佐貴理佳子	2	講義	○	○					2			※
植物機能科学	Plant Function Science		北島佐紀人	2	講義	○	○					2			※
昆虫機能開発学	Functional Physiology of Insects		秋野順治・長岡純治	2	講義	○	○					2			※
微生物工学	Microbial Technology	応生	鈴木秀之	2	講義	○	○					2			※
細胞工学	Cell Technology		片岡孝夫	2	講義	○	○					2			※
運動機能学	Kinesiology		野村照夫・来田宣幸	2	講義	○	○					2			※
バイオインフォマティクス演習	Exercises in Bioinformatics		北島佐紀人・井上喜博	2	講義・演習	○	○					2			※
集団の遺伝学	Genetics of Populations		高野敏行	2	講義	○	○					2			※
栽培環境学	Agro-Environmental Sciences		中元朋美・堀元栄枝	2	講義	○	○					2			※
地域創生Tech Program（福知山キャンパス開講科目）															
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	応生	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・寺澤昇久・井野晴洋・YU ANNIE・佐重聡	2	演習	×	●					8		第3クォーター	
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	応生	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	演習	×	○						8	第1クォーター	
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	応生	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE・吉田裕美・寺澤昇久	4	実習	×	●						20	第4クォーター	
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	応生	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	4	実習	×	○						20	第2クォーター	
ものづくりインターンシップⅢ	Monozukuri Internship III	応生	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	実習	×	○						10	第2クォーター	
卒業プロジェクト	Thesis Project	応生	応用生物学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●						10	10	

応用生物学課程の専門教育科目の流れ



地域創生 Tech Program で入学した学生については (必修)

地域課題導入セミナー

科目履修の流れと卒業要件 / 応用生物学課程 一般プログラム (2021年度入学生用)

(卒業要件)

大分類	小分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数	
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
言語教育科目	英語	●Interactive English A ①	●Interactive English B ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期)	①					12 ※1	
		●Career English Basic ①	●Academic English ①	●Career English Advanced(いずれかの学期)	①						
				Active English CLIL(いずれかの学期)	①						
				Active English Listening&Speaking I(いずれかの学期)	①						
				Active English Listening&Speaking II(いずれかの学期)	①						
				Active English Reading I(いずれかの学期)	①						
				Active English Reading II(いずれかの学期)	①						
				Active English Writing I(いずれかの学期)	①						
				Active English Writing II(いずれかの学期)	①						
				Active English Project-Based Learning(いずれかの学期)	①						
工学科学教育科目	ドイツ語	ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ①	ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ①	ドイツ語上級B ①			10 ※2	
		ドイツ語初級演習A ①	ドイツ語初級演習B ①	ドイツ語中級演習A ①	ドイツ語中級演習B ①	ドイツ語上級演習A ①	ドイツ語上級演習B ①				
		フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ①	フランス語中級B ①	フランス語上級A ①	フランス語上級B ①				
		中国語初級基礎A ①	中国語初級基礎B ①	中国語中級A ①	中国語中級B ①						
		中国語初級演習A ①	中国語初級演習B ①								
		中国語初級演習A ①	中国語初級演習B ①								
		中国語初級演習A ①	中国語初級演習B ①								
		中国語初級演習A ①	中国語初級演習B ①								
		中国語初級演習A ①	中国語初級演習B ①								
		中国語初級演習A ①	中国語初級演習B ①								
人間教育科目	人と社会	☆工業科学入門	☆国際理解	☆現代社会と心 ②	☆経済学 ②	☆経営哲学 ②				22 ※3	
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆現代医療の人間性 ②	☆現代経済学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
		☆地球環境論 ②	☆現代科学と倫理 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化哲学 ②	☆京のまち ②					
基本教養科目	人と文化	☆法文学 ②	☆世界はいま ①	☆憲法 ②	☆現代社会と心 ②	☆経営哲学 ②				2	
		☆心理学 ②	☆医療と社会 ②	☆政治学 ②	☆現代医療の人間性 ②	☆現代正統論 ②					
		☆現代教育論 ②	☆発達心理学 ②	☆経済学入門 ②	☆社会学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
		☆国際政治 ②	☆国際関係論 ②	☆現代社会と心 ②	☆現代医療の人間性 ②	☆現代正統論 ②					
		☆社会学Ⅰ ②	☆認知心理学 ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
		☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅲ ②	☆社会学Ⅳ ②	☆社会学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
		☆社会学Ⅴ ②	☆社会学Ⅵ ②	☆社会学Ⅶ ②	☆社会学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
		☆社会学Ⅷ ②	☆社会学Ⅷ ②	☆社会学Ⅷ ②	☆社会学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
		☆社会学Ⅷ ②	☆社会学Ⅷ ②	☆社会学Ⅷ ②	☆社会学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
		☆社会学Ⅷ ②	☆社会学Ⅷ ②	☆社会学Ⅷ ②	☆社会学の学び方 ②	☆現代正統論 ②					
体の科学	人と自然	☆物理学Ⅰ ②	☆物理学Ⅱ ②	☆物理学Ⅲ ②	☆物理学Ⅳ ②	☆物理学Ⅴ ②	☆物理学Ⅵ ②	☆物理学Ⅶ ②	☆物理学Ⅷ ②	2	
		☆化学基礎Ⅰ ②	☆化学基礎Ⅱ ②	☆化学基礎Ⅲ ②	☆化学基礎Ⅳ ②	☆化学基礎Ⅴ ②	☆化学基礎Ⅵ ②	☆化学基礎Ⅶ ②	☆化学基礎Ⅷ ②		
		☆生物基礎Ⅰ ②	☆生物基礎Ⅱ ②	☆生物基礎Ⅲ ②	☆生物基礎Ⅳ ②	☆生物基礎Ⅴ ②	☆生物基礎Ⅵ ②	☆生物基礎Ⅶ ②	☆生物基礎Ⅷ ②		
		☆生物学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②		☆科学的人間学 ②
		☆生物学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②		☆科学的人間学 ②
		☆生物学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②		☆科学的人間学 ②
		☆生物学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②		☆科学的人間学 ②
		☆生物学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②		☆科学的人間学 ②
		☆生物学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②		☆科学的人間学 ②
		☆生物学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②	☆科学的人間学 ②		☆科学的人間学 ②

(卒業要件)

大分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
専門導入科目	●専門導入ゼミ ②								2	
	☆基礎解析Ⅰ ②	☆基礎解析Ⅱ ②	統計数理 ②							
	☆線形代数Ⅰ ②	☆線形代数Ⅱ ②								
	数学演習Ⅰ ②	数学演習Ⅱ ②								
	☆物理学Ⅰ ②	☆物理学Ⅱ ②	☆物理学基礎実験(いずれかの学期) ②							
	☆化学Ⅰ ②	☆化学Ⅱ ②	☆物理化学Ⅰ ② ☆物理化学Ⅱ ②			☆環境化学 ②				
		☆分析化学 ②	☆有機化学Ⅰ ② ☆有機化学Ⅱ ②							
		☆無機化学Ⅰ ②	☆無機化学Ⅱ ②							
		☆化学基礎実験 ②	●化学基礎実験 ②							
		☆生物学Ⅰ ②	☆生物学Ⅱ ②	●生物学基礎実験A ②					30 ※4	
専門基礎科目		☆資源生物と環境 ②								
		●情報処理演習 ②	●学術国際情報 ②							
	その他				サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②				
					サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②				
						☆地学実験 ②				
	専門教育科目					サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②			
						サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②			
		繊維科学プログラム科目					サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②		
							サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②		
	課程専門科目					サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②			
					サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②				
必修科目		●自然観光学 ①				サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②			
		●生物生産学実習 ②				サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②			
選択必修科目		☆生物統計学 ②	☆細胞生物学 ②	☆動物生理学 ②	☆植物生理学 ②	サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②			
			☆微生物学 ②	☆遺伝学 ②	☆昆虫生理学 ②	サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②			
選択科目			☆生物化学Ⅰ ②	☆生物化学Ⅱ ②	☆発生生物学 ②	サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②			
				☆分子生物学 ②	☆昆虫工学 ②	サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②			
				☆生体分子化学 ②		サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②			
				●生物基礎英語演習 ②	☆神経科学 ②	サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②			
			●昆虫機能開発実習 ②	細胞組織学 ②	サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②				
			微生物工学 ②	モリスル生物学 ②	サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②				
			運動機能学 ②	植物機能科学 ②	サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②				
				細胞工学 ②	サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②				
			バイオインフォマティクス演習 ②	サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②					
			●集団の進化学 ②	サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②					
			●栽培植物学 ②	サイエンスリサーチA ①	☆地学Ⅰ ②					
				サイエンスリサーチB ②	☆地学Ⅱ ②					
卒業研究必修							●卒業研究 ⑥	8		

134 ※5

90

注・科目名の右側の数字は、単位数を表している。
 ●を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。
 ※1：言語教育科目の最低修得単位数には、●6単位を含む。
 ※2：工芸科学教育科目の最低修得単位数には、「リサーチ」と総称略「区分2単位及び「京の伝統文化と先端」区分2単位を含む。
 ※3：「人間教育科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教育に際する単位互換制度で修得した単位を含めることができる。
 ※4：専門基礎科目の最低修得単位数には、●8単位及び☆2単位を含む。
 ※5：この単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。

応用生物学課程 一般プログラム

物質・材料科学域

1. 学域の紹介

今日、汎用の身近な物質や材料から最先端科学を支える物質や材料、エネルギーの生産・貯蔵・輸送を担う物質や材料、環境に優しい物質や材料、さらには生体分子など生命とつながりをもつ物質や材料の革新が、物質科学、材料科学さらには生命科学の発展に必要な不可欠なものとなっています。そして、それらの科学領域が相互に結びついて、私たちの社会生活を支えるナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、そして環境テクノロジーが発展しています。このような背景の下、本学域では、先端の科学技術や物質・材料について広い視野を身に付け、次世代の物質・材料の探究・開発ができる人材の育成を目指します。

1年次および2年次において、自然科学（化学・物理学・生物学・数学・情報科学など）の基盤を専門基礎科目として履修し、自然科学の基礎知識を広く身につけます。

2年次後学期において、学域共通教育で培った専門性（専門領域）と各自の進路設計に基づき、4つのコース（高分子材料デザイン、材料化学デザイン、分子化学デザイン、機能物質デザイン）のいずれかを選択します。そして、2年次後学期および3年次には選択したコースが提供する課程専門科目を履修し、各自の専門性を高めます。4年次には研究室に配属されて高度な最先端の研究の一端を卒業研究として実践することにより、研究技術者として必須の素養を涵養します。

2. 学域の専門基礎科目

「専門基礎科目」は各専門分野の基礎や背景を支える知の体系である科学を構成する数学、物理学、化学、生物学等の基礎的な内容から成ります。これらは自然界や最先端の科学技術を探求するための基盤となる学問です。また、数学は科学と技術の共通言語としての役割も担っています。「専門基礎科目」では、専門課程への準備と同時に、現代社会を豊かに生きるための基本的な素養を提供します。

数学：

数学はあらゆる現象を数量や図形間の関係としてとらえ、論理の力で問題を解明しようという学問です。

1年次では、「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「数学演習Ⅰ、Ⅱ」が提供されています。「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」では、まずⅠにおいて高校で学んだ1変数の微分積分学についてより統一的な高い立場から講義し、Ⅱで多変数の微分である偏微分法、また力学の運動方程式を始めとして多くの自然現象を解析するのに必要な微分方程式の基本的な取り扱いについて講義します。「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」では、自然科学や人文社会科学でも重要となる、多変数の見通しよい取扱いや、行列や行列式について講義します。「数学演習Ⅰ、Ⅱ」ではこれらの科目の演習を行います。原則として「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」に引き続くように配置され微積分学に重点を置いた演習を行います。

2年次、3年次、4年次では、多変数の積分である重積分を取り扱う「解析学Ⅰ」を始め、確率統計の基礎を与える「統計数理」、スペクトル分析の基礎を与えるフーリエ・ラプラス解析を取り扱う「応用数理」など11科目から選択できます。

物理学：

力学、電磁気学は、ほとんどすべての工学分野で要求される科学的な考察と演繹の方法を学ぶための基礎科目です。その入り口となる「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」の講義では、微積分やベクトルなどの数学的手法を使って、物理現象の基本法則を記述し、それに基づいて定量的・定式的な推察や考察を行うことで、物体の運動や種々の電磁気現象を支配する規則、力やエネルギーや電磁場の概念などを正しく理解することを目標とします。「物理学Ⅰ演習」、「物理学Ⅱ演習」では、これらの理解をより着実にし、問題解決のための応用力を養うことを目的として、実践的な解説と問題演習を行います。

「物理学基礎実験」は、実際の物理現象を観察、測定し、理論との比較検討を行うことにより、現象の本質を探る力を養い、実験の方法、測定データの処理、レポートのまとめ方を修得することを目的としています。

「量子力学」は、原子、分子レベルの微視的世界の物理現象を説明する理論体系です。講義ではこの分野への入門として、その基礎的概念を修得し、微視的現象に関する理解を深め、具体的な問題への応用力を養うことを目的としています。

化学：

化学は、物質の構造と性質、さらには物質間の相互作用や反応による変化を追求する自然科学です。私たち人間の体を含むあらゆる物質が対象となるため、化学は基盤科学の主要な一分野となっています。

「化学Ⅰ」では、あらゆる化学の基礎となる、原子の構造と電子状態、周期表と各元素の性質、化学結合などについて学びます。「化学Ⅱ」では、熱力学、化学平衡、反応速度、電気化学などの基本的な概念を学びます。「物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、「化学Ⅰ」および「化学Ⅱ」で取り上げる内容をさらに詳しく学んでいきます。「有機化学Ⅰ・Ⅱ」では、有機分子の構造、性質、基本的な合成法と反応などについて学びます。さらに「無機化学Ⅰ」では物理化学を基礎にして無機物質の構造・反応・物性との関連性を、「分析化学」では溶液内の多様な化学平衡と平衡論を基礎とする分析法を、「化学工学Ⅰ」では化学産業における製品の生産プロセスの設計とその最適化を学びます。「高分子化学」では、高分子の構造や性質に関する特徴とその合成法を学びます。また、「環境化学」では、環境汚染や地球環境に関する諸問題について化学の立場から概説します。

「化学基礎実験」では、実験の方法、データの処理方法、レポートのまとめ方等を修得することを目的としています。

生物学：

「生物学Ⅰ、Ⅱ」は生物の基本単位である細胞の構造、遺伝、神経やホルモンのような調節の

仕組み、動物、植物、微生物などの生命の多様性などについて概説する講義で、生命現象の基本的仕組みと多様性の重要性について理解することを目的としています。

情報：

種々の媒体（メディア）を介して得られる多種多様な情報をコンピュータ上で処理（変換、伝達、表現および蓄積の総称）する基本的な方法について、「情報処理演習」等の講義で学びます。

繊維科学プログラム科目：

「工芸科学部 繊維科学プログラムに関する専門教育科目」について所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、繊維科学プログラム修了の認定をすることができます。

3. インターンシップ

「インターンシップ A、B」は、それぞれ約1週間（45時間）と2週間（90時間）の期間、関連分野の企業等での職業体験（研修）を行うことにより、これらの分野での実践的な知識や技能を修得することを目的としています。また、将来、大学院に進学する場合、および職業を選択する場合の参考となる体験的知識の習得も目的としています。

専門基礎科目（物質・材料科学域）

- 履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。

専門基礎科目（物質・材料科学域）

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履			
						物質・材料科学域											
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次						
応用化学	応用化学	前	後	前	後	前	後										
数 学																	
基礎解析 I	Basic Calculus I	ma	(室谷岳寛)	2	講義	☆	☆	2									
		mb	(高尾尚武)			☆	☆										
		mc	(上田哲生)			☆	☆										
基礎解析 II	Basic Calculus II	ma	(室谷岳寛)	2	講義	☆	☆	2									
		mb	(高尾尚武)			☆	☆										
		mc	(上田哲生)			☆	☆										
線形代数学 I	Linear Algebra I	ma	(中川義行)	2	講義	☆	☆	2									
		mb	(中川義行)			☆	☆										
線形代数学 II	Linear Algebra II	ma	(中川義行)	2	講義	☆	☆	2									
		mb	(中川義行)			☆	☆										
		mc	奥山裕介			☆	☆								再履修者用 2021年度は開講しない		
数学演習 I	Exercises in Mathematics I	ma	(室谷岳寛)	2	講義・演習	☆	☆	2									
		mb	(高尾尚武)			☆	☆										
		mc	(上田哲生)			☆	☆										
数学演習 II	Exercises in Mathematics II	ma	(室谷岳寛)	2	講義・演習	☆	☆	2									
		mb	(高尾尚武)			☆	☆										
		mc	(上田哲生)			☆	☆										
解析学 I	Calculus I	ma	朝田 衛	2	講義	☆	☆			2							
解析学 II	Calculus II	ma	井川 治	2	講義	☆	☆				2			pbと同時開講		※	
統計数理	Mathematical Statistics	ma	井川 治	2	講義	☆	☆			2							
応用解析	Applied Analysis	ma	矢ヶ崎達彦	2	講義	☆	☆			2							
応用幾何	Applied Geometry	ma	矢ヶ崎達彦	2	講義	○	○				2						※
		mb	峯 拓矢	2	講義	○	○				2						※
応用数理	Mathematics for Application	ma	井川 治	2	講義	☆	☆				2						
数理応用代数	Algebra and its Applications	ma	朝田 衛	2	講義	○	○						2		下履修は3回生のみを対象とし、履修希望者は担当教員の承認を得ること。	※	※
数理応用幾何	Geometry and its Applications	ma	井川 治	2	講義	○	○						2		院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	※	※
数理応用解析	Mathematical Analysis and its Applications	ma	武石拓也	2	講義	☆	☆						2		院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	※	※
データサイエンスの数理	Mathematics for Data Science	ma	磯崎泰樹	2	講義	○	○						2		院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	※	※
数理応用演習	Exercises in Mathematics, Advanced	ma	井川 治・矢ヶ崎達彦・朝田 衛	1	講義・演習	○	○						2		第1クォーター、週1回8週開講。院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。2021年度は開講しない。		※
物理学																	
物理学 I	Physics I	ma	山雄健史	2	講義	☆	☆	2									
		mb	八尾晴彦			☆	☆										
		mc	(宮本嘉久)			☆	☆										
物理学 I 演習	Exercises in Physics I	ma	(飯塚昌弘)	2	講義・演習	☆	☆	2									
		mb	八尾晴彦・辰巳創一			☆	☆										
		mc	(宮本嘉久)			☆	☆										

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目	ク ラ ス	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	履修区分		週授業時間数								備 考	下 履 修	合 格 再 履
						物質・材料科学域		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次				
						一般	地域	前	後	前	後	前	後	前	後			
						応用化学	応用化学											
物理学Ⅱ	Physics II	ma	(村上哲也)	2	講義	☆	☆	2									※	
		mb	武田 実			☆	☆											
		mc	(木曾田賢治)			☆	☆											
物理学Ⅱ 演習	Exercises in Physics II	ma	(村上哲也)	2	講義・演習	☆	☆	2										
		mb	武田 実			☆	☆											
		mc	(木曾田賢治)			☆	☆											
物理学基礎実験	Laboratory Work in Basic Physics	ma	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・水口朋子・鶴谷直樹・(厳樫昌弘)・(猿山晴夫)	2	実験	●	☆	6										
		mb	八尾晴彦・橋本雅人・辰巳創一・水口朋子・鶴谷直樹・(厳樫昌弘)・(猿山晴夫)			●	☆		6									
量子力学	Quantum Mechanics	ma	三瓶明希夫	2	講義	○	○	2										
化 学																		
化学Ⅰ	Fundamental Chemistry I	ma	田嶋邦彦	2	講義	●	●	2									※	
		mb	高廣克己			●	●											
化学Ⅱ	Fundamental Chemistry II	ma	一ノ瀬暢之・若杉 隆	2	講義	●	●	2									※	
		mb	金折賢二		講義	●	●											
物理化学Ⅰ	Physical Chemistry I	ma	町田真二郎・木梨憲司	2	講義	●	●	2									※1 ※	
		mb	若杉隆・一ノ瀬暢之			●	●											
物理化学Ⅱ	Physical Chemistry II	ma	田嶋邦彦・金折賢二	2	講義	●	☆	2									※1 ※	
		mb	高廣克己・若杉 隆			●	☆											
物理化学Ⅲ	Physical Chemistry III	ma	則末智久・中西英行	2	講義	☆	☆	2									※1 ※	
		mb	一ノ瀬暢之・若杉隆・野々口斐之			☆	☆											
物理化学演習	Exercises in Physical Chemistry	ma	応用化学課程関係教員	2	講義・演習	●	☆	2									※	
		mb	応用化学課程関係教員			●	☆											
有機化学Ⅰ	Organic Chemistry I	ma	清水正毅・今野 勉	2	講義	●	●	2									※1 ※	
		mb	佐々木健・浅岡定幸			●	●											
有機化学Ⅱ	Organic Chemistry II	ma	佐々木健・森末光彦	2	講義	●	☆	2									※1 ※	
		mb	今野 勉・楠川隆博			●	☆											
化学工学Ⅰ	Chemical Engineering I		堀内淳一・熊田陽一	2	講義	○	○	2									※ ※	
無機化学Ⅰ	Inorganic Chemistry		角野広平・若杉隆・高廣克己	2	講義	●	☆	2									※1 ※	
高分子化学	Polymer Chemistry	ma	坂井 亙・本柳 仁	2	講義	☆	☆	2									※	
		mb	箕田雅彦・足立 馨			☆	☆											
分析化学	Analytical Chemistry	ma	吉田裕美	2	講義	☆	☆	2									※	
		mb	前田耕治			☆	☆											
化学基礎実験	Laboratory Work in Basic Chemistry	ma	応用化学課程関係教員	2	実験	●	●	6										
		mb	応用化学課程関係教員			●	●		6									
環境化学	Environmental Chemistry	ma	布施泰朗	2	講義	☆	☆					2					※ ※	
生物学																		
生物学Ⅰ	Biology I	ma	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2									※	
生物学Ⅱ	Biology II	ma	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2									※	
資源生物と環境	Bioresorce and Environment		秋野順治・中元朋美・堀元栄枝・半場祐子	2	講義	☆	☆	2									※	
生物学基礎実験A	Laboratory Work in Fundamental Biology A		応用生物学課程関係教員	2	実験	*	*					6					卒業要件外科目(教職用)	
情 報																		
情報処理演習	Seminar in Information Processing	ma	坂井 亙・和久友則・三宅祐輔	2	講義・演習	●	●	2										
		mb	西川幸宏・鈴木智幸			●	●											
		mc	足立 馨・寺澤昇久			●	●											

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履	
						物質・材料科学域		1年次		2年次		3年次		4年次					
						一般	地域	前	後	前	後	前	後	前	後				
						応用化学	応用化学												
学術国際情報	World Science Information	ma	応用化学課程関係教員	2	講義・演習	●	●												
		mb	応用化学課程関係教員			●	●					2							
		mc	応用化学課程関係教員			●	●												
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	ma	桑原教彰・(辻愛里)	2	講義	×	○							4			第3クォーター 福知山キャンパス 開講科目		
その他																			
地学Ⅰ	Earth Science I	ma	(紺谷吉弘)	2	講義	*	*							2			卒業要件外科目 (教職用)	※	※
地学Ⅱ	Earth Science II	ma	(中西一郎)	2	講義	*	*							2			卒業要件外科目 (教職用)	※	※
地学実験	Laboratory Work in Earth Science	ma	(栗)・(風間卓仁)	2	講義・実験	*	*							4			卒業要件外科目 (教職用)。集中 授業。申し出によ り、3回生の履修を 認めることがある。		
インターンシップA	InternShip A	ma	課程長	1	実習	☆	☆							3			4.5時間(約1週 間)を目安とする。	※	
インターンシップB	InternShip B	ma	課程長	2	実習	☆	☆							6			大学コンソーシア ム京都が提供する ものを含む。90 時間(約2週間) を目安とする。	※	
繊維科学プログラム科目																			
サステナブルマテリアル	Sustainable Materials	ma	青木隆史・田中知成	2	講義	○	○							2				※	※
繊維科学基礎	Basics of Fiber Science	ma	綿岡 勲	2	講義	○	○							2				※	※
繊維ナノ構造学	Fiber Nano-structure	ma	佐々木 園・(山根秀樹)	2	講義	○	○							2					
生物繊維材料学	Biofiber materials	ma	麻生祐司・綿岡勲・岡久 陽子	2	講義	○	○							2				※	※
繊維プロセス工学	Fiber Process Engineering	ma	(松原富夫・松下義 弘・橋本嘉顕・西中久 雄・安部正毅・松永伸 洋・嶋田幸二郎・相馬 成男・井塚淑夫・村山 定光・八木健吉)	2	講義	○	○							2				※	
繊維生産流通システム概論	Production and Distribution system of the fiber and textile goods	ma	(栗)	2	講義	○	○								2		集中授業	※	
染色科学	Dyeing Science	ma	安永秀計	2	講義	○	○							2				※	※
クロウジングサイエンス	Clothing Science	ma	鋤柄佐千子・奥林里子	2	講義	○	○								2			※	
繊維科学実験	Fiber Science Laboratory	ma	XU HUAIZHONG・ (山根秀樹)	2	講義・実験	○	○								4		集中授業	※	
知的財産																			
アントレプレナーシップ概論	Introduction of Entrepreneurship	ma	(小林弘樹)	2	講義	*	☆							2			集中授業		
知的財産概論Ⅰ	Introduction of Intellectual Property I	ma	(小澤壯夫)	2	講義	*	☆							2					
知的財産概論Ⅱ	Introduction of Intellectual Property II	ma	(齊藤真大)	2	講義	*	☆							2					
特許法・実用新案法Ⅰ	Patent Law & Utility Mode Law I	ma	(喜多俊文)	2	講義	*	☆							2					
特許法・実用新案法Ⅱ	Patent Law & Utility Mode Law II	ma	(本田史樹)	2	講義	*	☆							2					
知的財産演習	Exercise of Intellectual Property	ma	(塩川信明)	1	演習	*	☆							2					
民法概論Ⅰ	Introduction of Code Civil I	ma	(村尾太久)	2	講義	*	☆							2					
民法概論Ⅱ	Introduction of Code Civil II	ma	(村尾太久)	2	講義	*	☆							2					
複合材料																			
繊維科学概論	Introduction to Textile Science	ma	大谷章夫	1	講義	×	○							2			第3クォーター 福知山キャンパス 開講科目		
複合材料科学	Composite Materials Science	ma	大谷章夫	2	講義	×	○							4			第3クォーター 福知山キャンパス 開講科目		
先端複合材料学	Advanced Composite Materials Science	ma	大谷章夫	2	講義	×	○							4			第4クォーター 福知山キャンパス 開講科目		
複合材料基礎実験	Laboratory Work in Composite Materials	ma	大谷章夫	1	実験	×	○							6			第3クォーター 福知山キャンパス 開講科目		
複合材料ものづくり実験	Manufacturing Processes for Composite Materials	ma	大谷章夫	1	実験	×	○							6			第1クォーター 福知山キャンパス 開講科目		

※1 地域創生Tech Programの学生のみ下履修可

応用化学課程

1. 課程の紹介

21世紀の社会生活を支える最重要技術にナノテクノロジー、インフォメーションテクノロジー、バイオテクノロジー、環境テクノロジーがあります。それらの先端科学技術の中核を担うのは、電気・電子材料、宇宙・航空材料、光機能材料、界面機能材料、先端的繊維材料などです。

本課程では、先端機能材料の構成要素となる材料・物質に関連する分野を幅広く対象にして、教育と研究を展開しています。

2. 教育目標

本課程では、物質・材料の成り立ちから応用までを俯瞰でき、基礎から応用までの幅広い知識（総合力）と高い専門性の素養を身に着けた、次世代の物質や材料の開発と探求ができる人材を育成します。

3. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

【教育課程の基本的な考え方】

学部教育の初等段階（1年次前学期から2年次後学期にかけて）で、化学、物理学、数学などをベースに学生全員が基礎的な総合力（物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、化学工学など）を幅広く培い、2年次後学期および3年次で物質・材料（高分子材料、無機材料、有機材料、機能物質）の成り立ちから応用までを学習できるプログラムを提供します。また、このプログラムは、3年次終了時点で学部4年次を実質上の修士初年次「MO（エムゼロ）」として学習生活できる本学独自の3×3制度に対応したカリキュラムともなっています。

（地域創生 Tech Program について）

工芸科学部においては、各課程の一般教育プログラムに加え、各課程の専門知識および技術をベースに、地域産業の活性化や地域課題の解決に向けて、グローバルな視野で新産業を興すアントレプレナー精神、特許等の知的財産に関する知識、またチームで協働して課題解決に取り組めるリーダーシップ精神を有する人材を育成する学位プログラム「地域創生 Tech Program」を設けています。この学位プログラムは、各課程における専門科目に加えて、地域課題をテーマとしたセミナー科目や企業と共同した課題解決型学習 PBL（Project-Based Learning）によるものづくりインターンシップ科目を履修する構成となっており、理工学の様々な専門分野を学んだ人材が協働学習する PBL に重点をおいたプログラムです。

【教育方法の工夫・特色（カリキュラム概要）】

(基礎的なカリキュラム)

◆専門基礎科目

応用化学課程全体の共通科目として位置づけ1年次および2年次の2年間で履修できるようにカリキュラムを編成します。詳細は、上記の2. 学域の専門基礎科目を参照のこと。

(専門的なカリキュラム)

◆課程専門科目

物質・材料の基礎的事項を理解し、かつ新しい物質・材料を合理的に設計(デザイン)する能力を養成するために、物質・材料の主要な研究分類ごとに4つのコース(高分子材料デザイン、材料化学デザイン、分子化学デザイン、機能物質デザイン)を設置しています。コースを選択することにより専門性を身につけたい学問領域と進路を明確化します。コースの選択は、2年次後学期になる段階で行います。

◆コース共通科目(講義・演習)

1年次後学期の「応用化学序論Ⅰ」と2年次前学期の「応用化学序論Ⅱ」では、各コースで行われる教育プログラムや研究内容の概要を学びます。この講義内容は、コースを選択する際、さらには本学大学院の専攻を選択する際の有用なものです。3年次後学期に開講される「コースゼミ」では、各コースの特徴を活かした独自のゼミが行われます。「有機化学演習」は材料化学デザイン、分子化学デザイン、機能物質デザインの3コース共通科目とし、「無機化学演習」は材料化学デザインと分子化学デザインの2コース共通科目とします。

◆コース共通科目(実験)

基礎から応用までの幅広い知識(総合力)を身につけるためには物質・材料の成り立ちからその応用までを実践的に学ぶことが重要であり、3年次前学期に開講する必修実験の「応用化学実験Ⅰ」では、4コースから提供される実験を通して、学生全員がコース横断的に物質・材料全般を実践的に学べる教育体制を敷きます。3年次後学期の「応用化学実験Ⅱ」では、各コース独自の専門性の高い実験を通して、各コースのより高度な内容を履修する内容とします。

◆課程専門科目における自コース科目と他コース科目の関係

それぞれのコースで開講される自コース(自分が選択したコース)の専門科目の中から7科目14単位(必修2単位、選択必修12単位)および他コース科目から3科目6単位(地域創生 Tech Program では、自コースの専門科目の中から3科目6単位、他コース科目から2科目4単位)は必ず履修する教育システムとします(これを超える単位に関しては、コース内外の科目の縛りはなく自由に履修可能)。

(地域創生 Tech Program 卒の学生の場合)

◆地域創成 Tech Program 卒の学生は、3年次前学期までは一般プログラムと同様の方針のもと段階的に専門能力と連携能力を身につけさせ、3年次後学期からは地域創生 Tech Program の力

リキュラムへと移行します。

3年次後学期から、PBL 授業「地域創生課題セミナー・II」（企業等連携）を受講したうえで卒業プロジェクトを実施します。

4. 教育プログラムのしくみ

1年次および2年次において、応用化学課程の専門基礎科目として、自然科学（化学・有機化学・物理化学・無機化学・分析化学・化学工学・生物学・物理学・数学・情報など）の基礎を共通して提供しています。これらを履修することによって、広く自然科学の基礎知識を身につけます。それと並行して、化学基礎実験、物理学基礎実験、「応用化学序論Ⅰ、Ⅱ」、が提供され、それらを通して専門的な理解の基礎を築いて行きます。

2年次後学期より物質・材料（高分子材料、無機材料、有機材料、機能物質）の成り立ちからまでを学習できるように、「応用化学実験Ⅰ、Ⅱ」、「コースゼミ」、「卒業研究」（地域創生 Tech Program では「応用化学実験Ⅰ」、「卒業プロジェクト」）などを共通履修科目とし、4つのコースのいずれか1つを自コースとして選択し、学習する体制をとります。各コースの人数の目安は、下記の通りです。

◆高分子材料デザインコース（50名程度）

高分子材料は、一次元状のファイバー（繊維）、二次元状の膜やフィルム、これらを基に構築した三次元構造のいずれにも加工できる特徴を有しています。高分子のもつフレキシビリティの基となる構造、そこから発現する性能、機能、物性を学習します。

◆材料化学デザインコース（35名程度）

無機化学、物理化学をベースとして、セラミックス、ガラスなどの無機材料が発現する機能、物性について理解し、無機材料の材料設計に必要な総合的な基礎学力を習得します。

◆分子化学デザインコース（42名程度）

有機低分子および高分子化合物の合成法、化学的および物理的性質、反応性などに関する基礎的事項を系統的に学んだのちに、有機分子を自在に合成するための有機合成法、分子構造とその機能性との相関性、機能性有機材料の分子設計法などについて学習します。

◆機能物質デザインコース（42名程度）

生体分子の構造、機能性、作用機序、さらにその分析法、利用法などを学び、生体メカニズムを基に新しい機能物質を創成し、医療や環境問題等の解決に貢献する化学と工学を学習します。

3年次末には、専門的知識の学修度合をはかるための達成度試験を実施します。この成績とTOEICスコア、GPAを参考にして、本学大学院の3×3特別推薦入試に対する課程からの推薦者を決定します。3×3特別推薦入試に合格した学生は、学部4年次を「MO（エムゼロ）」とみなし修士課程の2年間と合わせた3年間の一貫したプログラムによる学修および研究を行います。

4年次から、卒業研究のための研究室への配属を実施します。配属後は、教員の指導のもとに、学生は高度な最先端の研究を行うことにより、研究技術者としての素養を身につけます。なお、卒業研究に着手するためには、3年次終了までに定められた単位を修得しておく必要があります（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）。3年次の終わりに卒業研究の内容や研究室配属についての説明があります。研究室配属については、基本的に学生の希望に基づいて行われますが、その詳細は年度ごとに別途配布する実施要領により定めます。

履修計画をたてる際の参考として、「専門科目一覧」と「科目履修の流れと卒業要件」を課程専門科目の教科課程表の後に示します。

地域創生 Tech Program 履修生に関しては、3年次後学期から4年次前学期にかけて福知山キャンパスでの独自カリキュラムを履修できるように、3年次前学期までに必要な単位を取得し終えるための独自の履修区分と履修の流れを設けています。

5. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学部のディプロマ・ポリシーに加えて、人間的に広く深い素養と自覚を持ち、自然科学をベースとして物質、材料、高分子材料、および機能物質の化学と工学に関する十分な基礎的知識と応用能力を身につけ、将来の地球環境、国際社会、地域産業に貢献できる人材としての素養を有していることが認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

本課程のディプロマ・ポリシーを具体的に記すと、

1. 自然科学の基礎知識を身につけている。
2. 物質、材料、高分子材料、および機能物質の化学と工学に関する十分な基礎的知識と応用能力を身につけている。
3. 卒業研究又は卒業プロジェクトを通じて、将来の技術革新に対応できるような基礎・専門知識とその応用能力を身につけている。
4. 将来の地球環境、国際社会、地域産業に貢献できる人材としての素養を有している。

となります。学位の授与は、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照）、および卒業研究又は卒業プロジェクトの成果によって判定されます。

6. 資格等

所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、「教員免許状（中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状(理科)）」や「学芸員資格」が得られます。中学校教諭一種免許状の取得には、教育職員免許法に定める所定の単位の他に「介護等体験」が必要です。

課程専門科目

応用化学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

応用化学課程

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次				
								前後	前後	前後	前後				
コース共通															
応用化学序論Ⅰ	Introduction of Applied Chemistry		応用化学課程関係教員	2	講義	●	●	2							
応用化学序論Ⅱ	Introduction of Applied Chemistry		応用化学課程関係教員	2	講義	●	●		2						
コースゼミ	Introductory Seminar, Advanced	化A	応用化学課程関係教員	2	講義・演習	●	○				2				※2
		化B				●	○			2					
		化C				●	○			2					
		化D				●	○			2					
応用化学実験Ⅰ	Laboratory Work in Applied Chemistry I		応用化学課程関係教員	2	実験	●	●			6					
応用化学実験Ⅱ	Laboratory Work in Applied Chemistry II	化A	応用化学課程関係教員	2	実験	●	○			6			※1		
		化B				●	○		6						
		化C				●	○		6						
		化D				●	○		6						
卒業研究															
卒業研究	Thesis Research	化A	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10		
卒業研究	Thesis Research	化B	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10		
卒業研究	Thesis Research	化C	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10		
卒業研究	Thesis Research	化D	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10		
A群（高分子材料デザインコース）															
高分子物性	Introduction to Polymer Physics		浦山健治・西川幸宏	2	講義	●	☆			2				※3	※2
高分子材料化学	Polymer Materials Chemistry		坂井 亙・池田裕子	2	講義	☆	☆				2				※ ※
ファイバーサイエンス	Fiber Science		田中克史・高崎 緑	2	講義	☆	☆				2				※ ※
高分子分子物性	Molecular Characterization of Polymers		則末智久	2	講義	☆	☆				2				※ ※
高分子レオロジー	Rheology		浦山健治	2	講義	☆	☆				2				※ ※
液晶・高分子物性	Physical Properties of Liquid Crystals and Polymers		田中克史	2	講義	☆	☆				2				※ ※
環境と高分子	Human Environment and Polymers		橋本雅人	2	講義	☆	○				2				※ ※
有機材料設計	Molecular Design for Organic Materials		浅岡定幸・高崎 緑	2	講義	☆	○				2				※ ※
高分子構造学	Structures in Solid State Polymers		橋本雅人・櫻井伸一	2	講義	☆	○				2				※ ※
振動・波動	Oscillation and Wave Motion		藤原 進	2	講義	☆	☆			2					※ ※
統計物理学	Statistical Mechanics		八尾晴彦	2	講義	☆	☆			2					※ ※
シミュレーション物理学	Simulational Physics		藤原 進	2	講義	☆	☆				2				※ ※
ナノ材料物理化学	Physical Chemistry for Nano-materials		山雄健史・中西英行	2	講義	☆	○				2				※ ※
B群（材料化学デザインコース）															
無機化学Ⅱ	Inorganic Chemistry II		塩見治久・竹内信行	2	講義	●	☆			2				※3	※2 ※
無機化学演習	Exercise in Inorganic Chemistry		竹内信行・岡田有史・塩見治久・塩野剛司・朱文亮	2	講義・演習	☆	☆			2				無機化学Ⅰを履修済、かつ、無機化学Ⅱを履修済又は同時に履修すること。	
有機化学演習	Exercise in Organic Chemistry	化a	池上 亨・井本裕顕・和久友則	2	講義・演習	☆	☆			2					
		化b	森末光彦・本柳 仁・山田重之												
実験解析	Basic Mathematics for Chemistry		高廣克己・若杉隆	2	講義	☆	☆			2					※ ※
材料機器分析概論	Instrumental Analysis for Inorganic Materials		岡田有史・塩見治久・竹内信行・塩野剛司・朱文亮	2	講義	☆	☆				2				※ ※
無機材料科学Ⅰ	Inorganic Materials Science I		角野広平・塩野剛司	2	講義	☆	☆				2				※ ※
無機材料科学Ⅱ	Inorganic Materials Science II		PEZZOTTI Giuseppe・塩野剛司	2	講義	☆	○				2				※ ※
固体物性論	Materials Science		湯村尚史	2	講義	☆	☆				2				※ ※
分子量子化学	Molecular Quantum Chemistry		湯村尚史・本柳 仁	2	講義	☆	○				2				※ ※
固体熱力学	Solid State Thermodynamics		若杉 隆	2	講義	☆	○				2				※ ※
金属材料学	Metallic Materials		(白井泰治)	2	講義	☆	○				2			集中授業	※ ※

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履				
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次								
								前	後	前	後	前	後	前	後							
C群（分子化学デザインコース）																						
無機化学Ⅱ	Inorganic Chemistry II		塩見治久・竹内信行	2	講義	☆	☆							2				無機化学Ⅰを履修済であること。	※2	※		
無機化学演習	Exercise in Inorganic Chemistry		竹内信行・岡田有史・塩見治久・塩野剛司・朱文亮	2	講義・演習	☆	☆							2				無機化学Ⅰを履修済、かつ、無機化学Ⅱを履修済又は同時履修すること。				
有機化学演習	Exercise in Organic Chemistry	化a	池上 亨・井本裕頭・和久友則	2	講義・演習	●	☆							2				※3				
		化b	森末光彦・本柳 仁・山田重之																			
生化学Ⅰ	Biochemistry I		亀井加恵子	2	講義	☆	☆							2					※2	※		
有機化学Ⅲ	Organic Chemistry III		中 建介・井本裕頭	2	講義	☆	☆								2						※	
高分子材料化学	Polymer Materials Chemistry		坂井 亙・池田裕子	2	講義	☆	☆								2						※	
有機機器分析	Spectrometric Identification of Organic Compounds		金折賢二・山田重之	2	講義	☆	☆								2						※	
有機化学Ⅳ	Organic Chemistry IV		山田重之・櫻井庸明	2	講義	☆	○									2					※2	
有機反応化学	Organic Reactions		池上 亨・楠川隆博	2	講義	☆	○									2					※	
精密合成化学	Fine Synthetic Chemistry		清水正毅・今野 勉	2	講義	☆	○									2					※2	
精密材料化学	Precision Materials Chemistry		箕田雅彦・中 建介	2	講義	☆	○									2					※	
D群（機能物質デザインコース）																						
有機化学演習	Exercise in Organic Chemistry	化a	池上 亨・井本裕頭・和久友則	2	講義・演習	☆	☆							2								
		化b	森末光彦・本柳 仁・山田重之																			
生化学Ⅰ	Biochemistry I		亀井加恵子	2	講義	●	☆							2						※3	※2	※
生化学Ⅱ	Biochemistry II		北所健悟	2	講義	☆	☆								2						※	※
生化学Ⅲ	Biochemistry III		小堀哲生	2	講義	☆	○									2					※	※
応用分析化学	Practical Analytical Chemistry		前田耕治・吉田裕美	2	講義	☆	☆								2						※	※
機能分子化学Ⅰ	Functional Molecular Chemistry I		小堀哲生・和久友則・金折賢二	2	講義	☆	☆								2						※	※
機能分子化学Ⅱ	Functional Molecular Chemistry II		前田耕治・三宅祐輔・吉田裕美	2	講義	☆	○									2					※	※
生体分子工学	Biomolecular Engineering of Proteins		亀井加恵子・北所健悟	2	講義	☆	☆									2					※	※
化学工学Ⅱ	Chemical Engineering II		堀内淳一・熊田陽一	2	講義	☆	☆									2					※	※
生物化学工学	Biochemical Engineering		堀内淳一・熊田陽一	2	講義	☆	○									2					※	※
選択科目（共通）																						
材料工学特論	Advanced Materials Technology		若杉 隆・(宇尾基弘)・(木村将弘)	2	講義	○	○										2	集中授業			※	※
技術者倫理	Ethics of Engineering		(岩崎豪人)	2	講義	○	○									2					※2	
地域創生Tech Program																						
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	化a	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・寺澤昇久・井野晴洋・YU ANNIE・(崔童殷)	2	演習	×	●									8					第3クォーター	
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	化a	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	演習	×	○										8				第1クォーター	
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	化a	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE・吉田裕美・寺澤昇久	4	実習	×	●									20					第4クォーター	
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	化a	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	4	実習	×	○										20				第2クォーター	
ものづくりインターンシップⅢ	Monozukuri Internship III	化a	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	実習	×	○										10				第2クォーター	
卒業プロジェクト	Thesis Project	化a	応用化学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●									10	10					

※1 地域創生Tech Programの学生は、福知山キャンパス開講科目履修のために必要な単位数を満たしていない者のみ履修可

※2 地域創生Tech Programの学生のみ下履修可

※3 当該コースを選択した一般の学生は必修。なお、他コースの一般の学生については選択必修として取り扱う。

応用化学課程

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
数学	基礎解析 I	基礎解析 II	解析学 I	解析学 II	応用数値	数理応用演習	数理応用解析	数理応用代数学
	線形代数学 I	線形代数学 II	応用解析	応用幾何			数理応用幾何	テーラー・テイラー・テイラーの微積分
	数学演習 I	数学演習 II	数理統計					
生物学	生物学 I	生物学 II	生物学 I	生物学 II		生物学基礎実験A		
		資源生物と環境						
その他			インターンシップA	インターンシップB			地学実験	地学 I 地学 II
情報	情報処理演習		学術国際情報					
物理学	物理学 I	物理学 II	物理学基礎実験	量子力学				
	物理学 I 演習	物理学 II 演習						
化学	化学 I	化学 II	化学基礎実験	物理化学 I 物理化学 II 物理化学 III	物理化学演習			
		分析化学		無機化学 I 有機化学 I	有機化学 I 有機化学 II			
コース共通	応用化学序論 I	応用化学序論 II	応用化学実験 I	応用化学実験 II	材料工学特論			
			コースゼミ	技術者倫理				
A群 (高分子材料 デザインコース)	高分子物性	振動・波動	統計物理学	高分子材料化学	高分子材料化学	高分子材料化学	高分子材料化学	高分子材料化学
				フレイバー・サイエンス	有機材料設計	有機材料設計	有機材料設計	有機材料設計
				高分子分子物性	高分子分子物性	高分子分子物性	高分子分子物性	高分子分子物性
				高分子レオロジー	高分子レオロジー	高分子レオロジー	高分子レオロジー	高分子レオロジー
				液晶・高分子物性	液晶・高分子物性	液晶・高分子物性	液晶・高分子物性	液晶・高分子物性
				シミュレーション物理学	シミュレーション物理学	シミュレーション物理学	シミュレーション物理学	シミュレーション物理学
B群 (材料化学 デザインコース)	無機化学 II	無機化学演習	実験解析	有機材料科学 I	無機材料科学 II	無機材料科学 II	無機材料科学 II	無機材料科学 II
				固体物性論	固体熱力学	固体熱力学	固体熱力学	固体熱力学
				材料機器分析概論	金属材料学	金属材料学	金属材料学	金属材料学
				有機化学演習	分子量子化学	分子量子化学	分子量子化学	分子量子化学
C群 (分子化学 デザインコース)	有機化学演習	有機化学 II	有機化学 II	有機化学 III	有機化学 IV	有機化学 IV	有機化学 IV	有機化学 IV
				有機機器分析	有機反応化学	有機反応化学	有機反応化学	有機反応化学
				高分子材料化学	精密合成化学	精密合成化学	精密合成化学	精密合成化学
				生化学 I	精密材料化学	精密材料化学	精密材料化学	精密材料化学
D群 (機能物質 デザインコース)	有機化学演習	生化学 I	有機化学演習	化学工学 II	生物化学工学	生物化学工学	生物化学工学	生物化学工学
				生化学 II	生化学 III	生化学 III	生化学 III	生化学 III
				機能分子化学 I	機能分子化学 II	機能分子化学 II	機能分子化学 II	機能分子化学 II
				生体分子工学	生体分子工学	生体分子工学	生体分子工学	生体分子工学
課程専門								卒業研究

応用化学課程

科目区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
知的財産		プリントナーシップ概論				知的財産演習		
		知的財産概論 I		知的財産概論 II				
		特許法・実用新案法 I		特許法・実用新案法 II				
		民法概論 I		民法概論 II				
複合材料								
専門基礎								
課程専門								

科目履修の流れと卒業要件／応用化学課程 一般プログラム (2021年度入学生用)

大分類	小分類	1年次		2年次		3年次		4年次		履修単位数
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
言語教育科目	英語	●Interactive English A ①	●Interactive English B ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ①	●Career English Advanced(いずれかの学期) ①					12 ※1
		●Career English Basic ①	●Academic English ①	●Active English QLL(いずれかの学期) ①						
			Active English Listening&Speaking I (いずれかの学期) ①							
			Active English Listening&Speaking II (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading I (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading II (いずれかの学期) ①							
			Active English Project-Based Learning(いずれかの学期) ①							
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ①	ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ①	ドイツ語上級B ①		
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ①	フランス語中級B ①		
			フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	中国語初級基礎A ①	中国語初級基礎B ①				
工学系 教育科目	工学科学入門	●Interactive English A ①	●Interactive English B ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ①	●Career English Advanced(いずれかの学期) ①					10 ※2
		●Career English Basic ①	●Academic English ①	●Active English QLL(いずれかの学期) ①						
			Active English Listening&Speaking I (いずれかの学期) ①							
			Active English Listening&Speaking II (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading I (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading II (いずれかの学期) ①							
			Active English Project-Based Learning(いずれかの学期) ①							
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ①	ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ①	ドイツ語上級B ①		
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ①	フランス語中級B ①		
			フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	中国語初級基礎A ①	中国語初級基礎B ①				
人間教育科目	人と社会	●Interactive English A ①	●Interactive English B ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ①	●Career English Advanced(いずれかの学期) ①					22 ※3
		●Career English Basic ①	●Academic English ①	●Active English QLL(いずれかの学期) ①						
			Active English Listening&Speaking I (いずれかの学期) ①							
			Active English Listening&Speaking II (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading I (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading II (いずれかの学期) ①							
			Active English Project-Based Learning(いずれかの学期) ①							
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ①	ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ①	ドイツ語上級B ①		
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ①	フランス語中級B ①		
			フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	中国語初級基礎A ①	中国語初級基礎B ①				
基本教養科目	人と文化	●Interactive English A ①	●Interactive English B ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ①	●Career English Advanced(いずれかの学期) ①					2
		●Career English Basic ①	●Academic English ①	●Active English QLL(いずれかの学期) ①						
			Active English Listening&Speaking I (いずれかの学期) ①							
			Active English Listening&Speaking II (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading I (いずれかの学期) ①							
			Active English Reading II (いずれかの学期) ①							
			Active English Project-Based Learning(いずれかの学期) ①							
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ①	ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ①	ドイツ語上級B ①		
			ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ①	フランス語中級B ①		
			フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	中国語初級基礎A ①	中国語初級基礎B ①				

大分類	1年次		2年次		3年次		4年次		履修単位数
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
数学	☆基礎解析 I ②	☆基礎解析 II ②	☆解析学 I ②	☆解析学 II ②	☆応用数理解 ②		数理解習習1 Q ①	数理解習代教 ②	②
	☆線形代数 I ②	☆線形代数 II ②	☆統計数理 ②	☆応用線問 ②				数理解習代教 ②	②
	☆数学演習 I ②	☆数学演習 II ②	☆応用解析 ②					☆数理解習代教 ②	②
								☆数理解習代教 ②	②
物理学	☆物理学 I ②	☆物理学 II ②	●物理学基礎実験 (いせりかの学期) ②						
	☆物理学 I 演習 ②	☆物理学 II 演習 ②	量子力学 ②						
化学	●化学 I ②	●化学 II ②	●物理化学 I ②	●物理化学 II ②	●物理化学演習 ②	☆環境化学 ②			
		☆分析化学 ②	●有機化学 I ②	●有機化学 II ②	●有機化学 I ②				
			●無機化学 I ②	●無機化学 II ②	●無機化学 I ②				
生物学	☆生物学 I ②	☆生物学 II ②	●化学基礎実験 (いせりかの学期) ②						
		☆資源生物と環境 ②							
情報	●情報処理演習 ②								
その他									
専門教育プログラム科目									
専門教育科目			●応用化学論 I ②						
必修科目									
選択必修科目 A									
選択必修科目 B									
選択必修科目 C									
選択必修科目 D									
選択科目									
卒業研究必修									

134 ※5

90

34 ※4

注

- 科目名の右側の数字は、単位数を表している。
- *を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。
- *を付した科目は卒業要件に含まれない。
- *を付した科目は卒業要件に含まれない。
- 専門教育科目の最低修得単位数は、●6単位を要する。
- 1：言語教育科目の最低修得単位数は、●6単位を要する。
- 2：工学系教育科目の最低修得単位数は、「リサーチ」を経験し、区2単位及び「京の伝統文化と先端」区2単位を要する。
- 3：「人間教育科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立医科大学）連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。
- 4：専門基礎科目の最低修得単位数は、●24単位及び☆10単位を要する。
- 5：この単位数には、合計10単位を指定せず、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。

大分類	1年次			2年次		3年次		4年次		最低修得単位数
	前学期	後学期		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
専門導入科目	●基礎理解入門セミナー①									
数学	☆基礎解析Ⅰ②	☆基礎解析Ⅱ②	☆解析学Ⅰ②	☆解析学Ⅱ②	☆応用数理解②	☆応用数理解②	数理解応用演習(1Q)①	数理解応用代數②	数理解応用幾何②	1
	☆線形代数Ⅰ②	☆線形代数Ⅱ②	☆統計数理②	☆応用幾何②	☆統計数理②	☆統計数理②	☆数理解応用②	☆数理解応用幾何②	☆数理解応用幾何②	
物理学	☆数学演習Ⅰ②	☆数学演習Ⅱ②	☆数学演習Ⅰ②	☆数学演習Ⅱ②	☆数学演習Ⅰ②	☆数学演習Ⅱ②	☆物理化学基礎実験②	☆物理化学基礎実験②	☆物理化学基礎実験②	1
	☆物理学Ⅰ②	☆物理学Ⅱ②	☆物理学Ⅰ②	☆物理学Ⅱ②	☆物理学Ⅰ②	☆物理学Ⅱ②	☆物理化学基礎実験②	☆物理化学基礎実験②	☆物理化学基礎実験②	
化学	☆物理学Ⅰ演習②	☆物理学Ⅱ演習②	☆物理学Ⅰ演習②	☆物理学Ⅱ演習②	☆物理学Ⅰ演習②	☆物理学Ⅱ演習②	☆物理化学演習②	☆物理化学演習②	☆物理化学演習②	1
	●化学Ⅰ②	●化学Ⅱ②	☆分析化学②	☆分析化学②	☆分析化学②	☆分析化学②	☆物理化学演習②	☆物理化学演習②	☆物理化学演習②	
生物学	☆生物学Ⅰ②	☆生物学Ⅱ②	☆生物学Ⅰ②	☆生物学Ⅱ②	☆生物学Ⅰ②	☆生物学Ⅱ②	☆生物学基礎実験②	☆生物学基礎実験②	☆生物学基礎実験②	34 ※4
	●情報処理演習②	☆情報生物と環境②	☆情報処理演習②	☆情報生物と環境②	☆情報処理演習②	☆情報生物と環境②	●學術国際情報②	●學術国際情報②	●學術国際情報②	
その他							●スターシップA①	●スターシップA①	●スターシップA①	
繊維科学プログラム科目							☆インターンシップB②	☆インターンシップB②	☆インターンシップB②	12
							☆インターンシップC②	☆インターンシップC②	☆インターンシップC②	
知的財産							☆知的財産概論②	☆知的財産概論②	☆知的財産概論②	12
							☆知的財産実務②	☆知的財産実務②	☆知的財産実務②	
複合材料							☆複合材料概論②	☆複合材料概論②	☆複合材料概論②	12
							☆複合材料実務②	☆複合材料実務②	☆複合材料実務②	
必修科目							●応用化学講義Ⅰ②	●応用化学講義Ⅰ②	●応用化学講義Ⅰ②	12
							●応用化学講義Ⅱ②	●応用化学講義Ⅱ②	●応用化学講義Ⅱ②	
選択必修科目A							☆高分子物性②	☆高分子物性②	☆高分子物性②	6 (白コース科目) 4 (他コース科目及び選択科目A)
							☆振動・波動②	☆振動・波動②	☆振動・波動②	
選択必修科目B							☆統計物理学②	☆統計物理学②	☆統計物理学②	6 (白コース科目) 4 (他コース科目及び選択科目A)
							☆実験解析②	☆実験解析②	☆実験解析②	
選択必修科目C							☆無機化学Ⅱ②	☆無機化学Ⅱ②	☆無機化学Ⅱ②	6 (白コース科目) 4 (他コース科目及び選択科目A)
							☆無機化学演習②	☆無機化学演習②	☆無機化学演習②	
選択必修科目D							☆有機化学Ⅰ②	☆有機化学Ⅰ②	☆有機化学Ⅰ②	6 (白コース科目) 4 (他コース科目及び選択科目A)
							☆有機化学Ⅱ②	☆有機化学Ⅱ②	☆有機化学Ⅱ②	

(卒業要件)

大分類	小分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
専門教育科目	選択科目A					② 生化学Ⅲ	② ナノ材料物理化学 ②			
							高分子構造学 ②			
							環境と高分子 ②			
							有機材料設計 ②			
							無機材料化学Ⅱ ②			
							分子量子化学 ②			
							固体熱力学 ②			
							金属材料学 ②			
							有機化学Ⅳ ②			
							有機反応化学 ②			
	選択科目B						精密合成化学 ②			
							精密材料化学 ②			
							機能分子化学Ⅱ ②			
							生物化学Ⅰ ②			
							技術者倫理 ②	コースゼミ ②	材料工学特論 ②	
	選択科目						応用化学実験Ⅱ ②			
	卒業プロジェクト必修									⑧
										8

注・科目名の右側の数字は、単位数を表している。

●を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。

**を付した科目は卒業要件に含まれない。

※1：言語教育科目の最低修得単位数には、●6単位を含む。

※2：工学科学教養科目の最低修得単位数には、「リサーチと経営戦略」区分4単位及び「京の伝統文化と先端」区分2単位を含む。

※3：「人間教養科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。

※4：専門基礎科目の最低修得単位数には、●14単位及び☆20単位を含む。

※5：この単位数には、合計10単位を指定せず、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。

応用化学課程 地域創生Tech Program

履修規則別表第7

卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数 ■物質・材料科学域

授業科目区分 課程	全学共通科目											専門教育科目					備考									
	言語教育科目			工学科学教養科目				人間教養科目				専門導入科目	専門基礎科目					課程専門科目				総合計				
	英語必修	英語選択	言語科目合計	工学科学入門	科学技術と工学	ものづくりの技術	リーディングセッション	京の伝統文化	工学科学教養科目		基本教養科目		人間の教養科目		必修	選択必修		選択	専門基礎科目合計	J-1共通必修	必修		選択必修	卒業研究・卒業プロジェクト必修	課程専門科目合計	専門教育科目合計
									先導戦略	先端	人と文化	人と社会	人と自然	基本教養科目合計								体の科学				
応用化学課程	一般プログラム	3年次までに配当されている以下の必修科目の全単位 英語必修6科目、物理基礎実験、化学基礎実験、情報処理演習、学術国際情報、学術国際情報、コースゼミ、応用化学実験I、応用化学実験II(注5)																							112	*
	地域創生Tech Program	3年次までに配当されている以下の必修科目の全単位 英語必修6科目、地域課題導入セミナー、化学基礎実験、情報処理演習、学術国際情報、学術国際情報、応用化学実験I、地域創生課題セミナーI、ものづくりインターンシップI(注5)																							119	*

- 注1. 表中の数字は、最低限必要必修単位数を示す。
 注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。
 注3. 専門基礎科目の知的財産に関する授業科目は、一般プログラムにおいては、総合計には含まれない。
 注4. 「人間教養科目合計」には、3大学(京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学)連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。
 注5. 科目及びその名称は、入学時のもの。次年度以降、変更する場合は、掲示等に留意すること。

設計工学域

1. 学域の紹介

工学は、数学や物理学、化学、生物学などの基礎理論や自然原理の理解をもとに、社会に役立つ事物や安全で快適な環境を構築することを目的とする学問です。いま、グローバル化と都市化が進み、エネルギーや資源の問題、地球温暖化、超高齢化社会、災害に強い社会の構築など課題が顕在化しています。工学はこれらの課題解決のためにますます重要になりつつあります。

社会に役立つ事物や安全で快適な環境を企画・設計するためには、課題を発見し目的を明確にする必要があります。要求されている事項を理解せずには前に進めません。次に、実際に事物や環境を構築するには、どんな方法が使えるかを知ることが重要です。原理的な限界を理解しておくことも必須です。加えて、その方法が最善のものか、あるいは、むやみに複雑化していない自然な方策であるかという視点を常にもつ必要があります。個々の事物や環境の構築だけでなく、総合的な判断ができることが重要です。

設計工学域では、事物や環境を構築するための具体的な手法を修得し、有用さや安全性、快適さの視点で総合的な判断ができる技能をもつ高度専門技術者を育成します。本学域は、電子システム工学、機械工学、情報工学の3つの分野から構成されています。学部では、入学生は入学時に、電子システム工学、情報工学、機械工学の3つの課程に所属し、それぞれの分野で核となる専門知識を学び、実験や演習を通じて、専門知識の基盤を形成します。

2. 学域の専門基礎科目

「専門基礎科目」は各専門分野の基礎や背景を支える知の体系である科学 (science) を構成する数学、物理学、化学、生物学等の基礎的な内容から成ります。これらは自然界や人間社会を探究するための知的活動ですが、数学は科学と技術の共通の「言語」としての基本的な役割も担っています。「専門基礎科目」では、専門課程への準備と同時に、現代社会を豊かに生きるための基本的な素養を提供します。

数学：

数学はあらゆる現象を数量や図形間の関係としてとらえ、論理の力で問題を解明しようという学問です。

1年次では、「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「数学演習Ⅰ、Ⅱ」が提供されています。「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」では、まずⅠにおいて高校で学んだ1変数の微分積分学についてより統一的な高い立場から講義し、Ⅱで多変数の微分である偏微分法、また力学の運動方程式を始めとして多くの自然現象を解析するのに必要な微分方程式の基本的な取り扱いについて講義します。「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」では、自然科学や人文社会科学でも重要となる、多変量の見通しよい取扱いや、行列や行列式について講義します。「数学演習Ⅰ、Ⅱ」ではこれらの科目の演習を行います。原則として「基礎解

析Ⅰ、Ⅱ」に引き続くように配置され微積分学に重点を置いた演習を行います。

2年次、3年次、4年次では、多変数の積分である重積分を取り扱う「解析学Ⅰ」、確率統計の基礎を与える「統計数理」を始め、より進んだ常微分方程式の理論を取り扱う「応用解析」、力学や電磁気学の基礎となるベクトル解析を取り扱う「応用幾何」、複素数に微積分の概念を広げ流体力学などに応用をもつ複素関数論を取り扱う「数理解析」、振動解析や信号解析で重要なフーリエ・ラプラス解析を取り扱う「応用数理」など12科目から選択できます。

物理学：

力学、電磁気学は、ほとんどすべての工学分野で要求される科学的な考察と演繹の方法を学ぶための基礎科目です。その入り口となる「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」の講義では、微積分やベクトルなどの数学的手法を使って、物理現象の基本法則を記述し、それに基づいて定量的・定式的な推察や考察を行うことで、物体の運動や種々の電磁気現象を支配する規則、力やエネルギーや電磁場の概念などを正しく理解することを目標とします。「物理学Ⅰ演習」では「物理学Ⅰ」の講義内容の理解をより着実にし、問題解決のための応用力を養うことを目的として、実践的な解説と問題演習を行います。「力学」の講義では、「物理学Ⅰ」で学ぶ質点の力学を、質点系や剛体の力学へと段階的に発展させ、より一般的な力学現象の扱い方を修得するとともに、上級学年で学ぶ物理系科目を理解するための基礎力を得ることを目的としています。

「物理学実験法及び基礎実験」は、実際の物理現象を観察、測定し、理論との比較検討を行うことにより、現象の本質を探る力を養い、実験の方法、測定データの処理、レポートのまとめ方を修得することを目的としています。

「量子力学」は、原子、分子レベルの微視的世界の物理現象を説明する理論体系であり、「統計熱力学」は、この微視的世界と我々の回りの巨視的世界をつなぐ理論体系です。講義ではこれらの分野への入門として、その基礎的概念を修得し、微視的現象に関する理解を深め、具体的な問題への応用力を養うことを目的としています。

化学：

化学は、物質の構造とその性質、さらには物質間の相互作用や反応による変化を追求する自然科学です。私たち自身を含む世界中のあらゆる物質が対象となるため、化学は基盤科学の主要な一分野となっています。

「化学Ⅰ」では、あらゆる化学の基礎となる、原子の構造、周期表と元素、化学結合についてまず概説し、続いて化学と人間社会との密接な関係についても学びます。「化学Ⅱ」ではさらに、これらの知識を基にして化学と生命現象との関わり等について学んでいきます。また、「環境化学」では、環境汚染や地球環境に関する諸問題について化学の立場から概説します。

生物学：

「生物学Ⅰ、Ⅱ」は生物の基本単位である細胞の構造、遺伝、神経やホルモンのような調節の仕組み、動物、植物、微生物などの生命の多様性などについて概説する講義で、生命現象の基本的

仕組みと多様性の重要性について理解することを目的としています。

情報：

種々の媒体（メディア）を介して得られる多種多様な情報をコンピュータ上で処理（変換、伝達、表現および蓄積の総称）する基本的な方法について、「情報・データリテラシー概論」という講義で学びます。

3. インターンシップ

「インターンシップ A、B」は、それぞれ約1週間（45 時間）と2週間（90 時間）の期間、関連分野の企業等での職業体験（研修）を行うことにより、これらの分野での実践的な知識や技能を修得することを目的としています。また、将来、大学院に進学する場合、および職業を選択する場合の参考となる体験的知識の習得も目的としています。

専門基礎科目（設計工学域）

- 履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、無記入は他課程科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。

専門基礎科目（設計工学域）

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履						
						設計工学域		1年次	2年次	3年次	4年次									
						一般	地域	前後	前後	前後	前後									
基礎解析 I	Basic Calculus I	pa	(岩塚 明)	2	講義	●	●													
		pb	(柴山允瑠)			☆	☆													
		pc	(大倉弘之)				●		●											
		pd	(村井 実)				●		●											
基礎解析 II	Basic Calculus II	pa	(岩塚 明)	2	講義	☆	☆													
		pb	(柴山允瑠)			☆	☆													
		pc	(大倉弘之)				☆		☆											
		pd	(村井 実)				☆		☆											
線形代数学 I	Linear Algebra I	pa	(平良晃一)	2	講義	●	●													
		pb	(平良晃一)			☆	☆													
		pc	(清水翔之)				●		●											
		pd	(清水翔之)				●		●											
線形代数学 II	Linear Algebra II	pa	(某)	2	講義	☆	☆													
		pb	(某)			☆	☆													
		pc	(清水翔之)				☆		☆											
		pd	(清水翔之)				☆		☆											
		pe	奥山裕介			☆	☆	☆	☆											
数学演習 I	Exercises in Mathematics I	pa	(岩塚 明)	2	講義・演習	●	●													
		pb	(柴山允瑠)			☆	☆													
		pc	(大倉弘之)				○		○											
		pd	(村井 実)				○		○											
数学演習 II	Exercises in Mathematics II	pa	(岩塚 明)	2	講義・演習	☆	☆													
		pb	(柴山允瑠)			☆	☆													
		pc	(大倉弘之)				○		○											
		pd	(村井 実)				○		○											
解析学 I	Calculus I	pa	矢ヶ崎達彦	2	講義	☆	☆													
		pb	峯 拓矢			○	○													
		pc	奥山裕介				☆		☆											
解析学 II	Calculus II	pa	奥山裕介	2	講義	○	○	○	○											
		pb	井川 治				○		○											
統計数理	Mathematical Statistics	pa	磯崎泰樹	2	講義	○	○													
		pb	峯 拓矢			☆	☆													
		pc	朝田 衛				●		●											
応用解析	Applied Analysis	pa	峯 拓矢	2	講義	☆	☆													
		pb	矢ヶ崎達彦			○	○													
		pc	朝田 衛				☆		☆											
応用幾何	Applied Geometry	pa	矢ヶ崎達彦	2	講義	☆	○	☆	○											
		pb	峯 拓矢				☆		☆											
数理解析	Analysis in Mathematical Sciences	pa	奥山裕介	2	講義	☆	○	☆	○											
		pb	奥山裕介				☆		☆											
応用数理	Mathematics for Application	pa	磯崎泰樹	2	講義	○	○	○	○											
		pb	井川 治				☆		☆											

再履修者用
2021年度は開講
しない

maと同時開講

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分					週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						設計工学域					1年次		2年次					3年次		4年次	
						一般	地域	電子	情報	機械	前	後	前	後				前	後	前	後
数理応用代数	Algebra and its Applications	pa	朝田 衛	2	講義	○	○	○	○	○							2	下履修は、電子・機械の3回生のみを対象とし、履修希望者は担当教員の承認を得ること。	※	※	
数理応用幾何	Geometry and its Applications	pa	井川 治	2	講義	○	○	○	○	○							2	院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	※	※	
数理応用解析	Mathematical Analysis and its Applications	pa	武石拓也	2	講義	○	○	○	○	○							2	院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	※	※	
データサイエンスの数理	Mathematics for Data Science	pa	磯崎泰樹	2	講義	○	○	○	○	○							2	院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。	※	※	
数理応用演習	Exercises in Mathematics, Advanced	pa	井川 治・矢ヶ崎達彦・朝田 衛	1	講義・演習	○	○	○	○	○							2	第1クォーター、週1回8週開講。院・学部同時開講科目であり、学部科目として単位を取得した場合、学部及び大学院において、大学院の同名科目は履修できない。2021年度は開講しない。		※	
物理学																					
物理学 I	Physics I	pa	武田 実	2	講義	☆		☆									2				
		pb	裏 升吾				○		○												
		pc	(木曾田賢治)					☆			☆										
物理学 I 演習	Exercises in Physics I	pa	武田 実	2	講義・演習	☆		☆									2				
		pb	裏 升吾				○		○												
		pc	(木曾田賢治)					☆			☆										
物理学 II	Physics II	pa	一色俊之	2	講義			☆		☆						2					
		pb	一色俊之				○		○												
物理学実験法及び基礎実験	Laboratory Work in Basic Physics	pa	一色俊之・高橋 駿	2	講義・実験		●		●								4	課程により開講学期を指定			
		pb	萩原 亮・古田 潤																		
		pc	(沖 史也)																		
		pd	西尾弘司・蓮池紀幸・(横山友也)				●		●							4					
		pe	(沖 史也)																		
pf	三瓶明希夫・西尾弘司・外岡大志・坂根慎治			●		●						4									
力学	Mechanics	pa	萩原 亮	2	講義	☆	○	☆	○	☆						2			※		
量子力学	Quantum Mechanics	pa	三瓶明希夫	2	講義	☆	○	☆	☆	○	☆					2			※		
統計熱力学	Statistical Thermophysics	pa	一色俊之	2	講義	☆	○	☆	☆	○	☆					2			※		
化学・生物学																					
化学 I	Chemistry I	pa	中 建介	2	講義			○		○	2										
化学 II	Chemistry II	pa	麻生祐司	2	講義			○		○	2										
環境化学	Environmental Chemistry	pa	布施泰朗	2	講義			○		○							2				
生物学 I	Biology I	pa	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義			○	○	○	○	2									
生物学 II	Biology II	pa	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義			○	○	○	○	2									
情報																					
情報・データリテラシー概論	Introduction to Computer and Data Literacy	pa	野宮浩揮	2	講義		●		●		2										
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	pa	桑原教彰(辻愛里)	2	講義	×	×	×	○	○	○						4	第3クォーター 福知山キャンパス開講科目			
その他																					
インターンシップA	InternShip A	pa	課程長	1	実習	○		○									3	45時間(約1週間)を目安とする。	※	※	
		pb					○		○												
		pc					○		○												
インターンシップB	InternShip B	pa	課程長	2	実習	○		○									6	大学コンソーシアム 京都が提供するものを含む。90時間(約2週間)を目安とする。	※	※	
		pb					○		○												
		pc					○		○												

電子システム工学課程

1. 課程の紹介

本課程は、電気工学、電子工学を基礎とした幅広い学問体系をもつ課程です。現代社会の便利さや豊かさの実現に寄与している電気工学、電子工学を中心に、デバイス、通信、計測、エネルギー、制御に関する知識と技術の教育を行うことにより、現代の高度技術社会を人間がより豊かな方向に発展させるべく、専門的知識を備え、かつ広い視野をもつ創造性豊かな技術者・研究者の養成を目指しています。この目的に応じるため、下記の研究教育が行われています。

- ① 電気回路、電子回路の基礎理論と大規模集積回路（LSI）などに関する研究と教育
- ② 電子回路設計、薄膜電子工学、センサ工学などに関する研究と教育
- ③ オプトエレクトロニクス、光工学、光デバイス技術などに関する研究と教育
- ④ 電磁波工学、マイクロ波工学、ミリ波工学などに関する研究と教育
- ⑤ アナログ・デジタル信号処理などに関する研究と教育
- ⑥ 光ネットワークなどの通信システムおよび光信号処理に関する研究と教育
- ⑦ 電子物性、電子材料、半導体工学、電子デバイスなどに関する研究と教育
- ⑧ 核融合プラズマ科学、ナノ科学のためのプラズマ技術、ナノ量子デバイス理論などに関する研究と教育
- ⑨ 物性基礎、物性理論、統計力学などの物性科学の理論と応用などに関する研究と教育
- ⑩ 波動光学、電子光学の理論と応用、電子デバイスのナノ構造評価に関する研究と教育
- ⑪ 先端材料の光学特性、磁気特性などに関する研究と教育

2. 教育目標

電子、通信、電気、計測、制御工学分野に関する知識と技術について、理論と実践の両面からバランスよく修得し、社会を支える基幹産業で活躍する人材の育成を目指します。

3. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本課程の教育目標を実現するための教育プログラムは、以下の方針で編成されています。

* 3年次まで

- ① 電磁気学、電気回路、物理学、数学などの基礎科目を重視したカリキュラムにより、デバイス、エレクトロニクス、通信、エネルギー、制御、プログラミングと広範囲にわたる電子システム工学分野の基礎から応用までを系統的に習得できる力を身に付けられる教育プログラムを提供します。
- ② 講義、演習および学生実験を関連させ、理論と実践の両面から理解を深めることができる相補的教育を実施します。

* 4年次まで

③ 習得した知識を実際に研究開発の現場へ適用させる能力を、1年間にわたる卒業研究を通して修得させます。

4. 教育プログラムのしくみ

電気回路、電磁気学、数理計算、プログラミングなどの基礎となる課程専門科目は必修となっています。これらの必修科目は1年次と2年次に配当されています。さらに専門への基礎となる数学や物理学の専門基礎科目が必修および選択必修科目として、1年次と2年次に配当されています。

その他の課程専門科目は、1～4年次に、選択必修科目として25科目、選択科目として3科目が配当されています。実験科目の物理学実験法及び基礎実験（2年次配当）、電子システム工学実験（2年次後学期から3年次に配当）は必修科目として配当されます。これらは卒業研究（4年次の必修科目）を進めるための基礎力となるものです。

また、専門導入科目として電子システム工学セミナーⅠを必修科目として入学直後の1年次前学期に、さらに、電子システム工学セミナーⅡ、Ⅲを選択科目として3年次に配し、思考力、表現力、発表力を身につけ、少人数で教員と直接討論すると同時に、最先端の研究にふれる機会を設けています。

3年次終了時に、4年生となるための達成度試験を実施します。この試験の受験は4年生進級に必要なだけでなく、MOとしての大学院進学にも必要となります。TOEICの点数も達成度試験の点数に加味します。

4年次から卒業研究履修資格者（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）を対象として、卒業研究のための研究室配属を実施します。この配属は4年次の4月初旬に決定されます。卒業研究報告書の提出とその審査は後学期2月下旬に行われます。卒業研究では、学生自身が主体性をもつよう指導しています。なお、研究室配属においては、成績に加えて修得単位数も考慮しているので、GPAを上げるために受講科目を絞るといったことのないよう留意する必要があります。また、達成度試験の評価結果も研究室配属に考慮します。

履修計画の参考のために、「科目履修の流れと卒業要件」を課程専門科目の教科課程表の後に示します。また、専門科目間の関係図を課程のホームページに掲載しています。

5. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学部のディプロマ・ポリシーに加えて、電子システム工学課程では、電子システム工学分野に関する幅広い知識と技術に基づいた高度な専門性を身につけ、当該分野にブレークスルーをもたらす課題解決能力と課題探求能力に優れており、かつ、豊かな創造性と柔軟な思考力を備えた国際性のある人材としての素養を備えていることが認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

これらは、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第4「卒業認定に

必要な単位数」参照)を満たしていることと、卒業研究の成果によって判定されます。

6. 資格等

所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、「教員免許状(中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状(数学))」や「学芸員資格」が得られます。中学校教諭一種免許状の取得には、教育職員免許法に定める所定の単位の他に「介護等体験」が必要です。

また、所定の単位を修得し、本学を卒業して一定の実務経験を経れば、「技術検定(1級・2級)の受検資格」が得られます。技術検定(1級・2級)の詳細については、「Ⅷ. 技術検定の受検資格の取得について」を参照してください。

課程専門科目

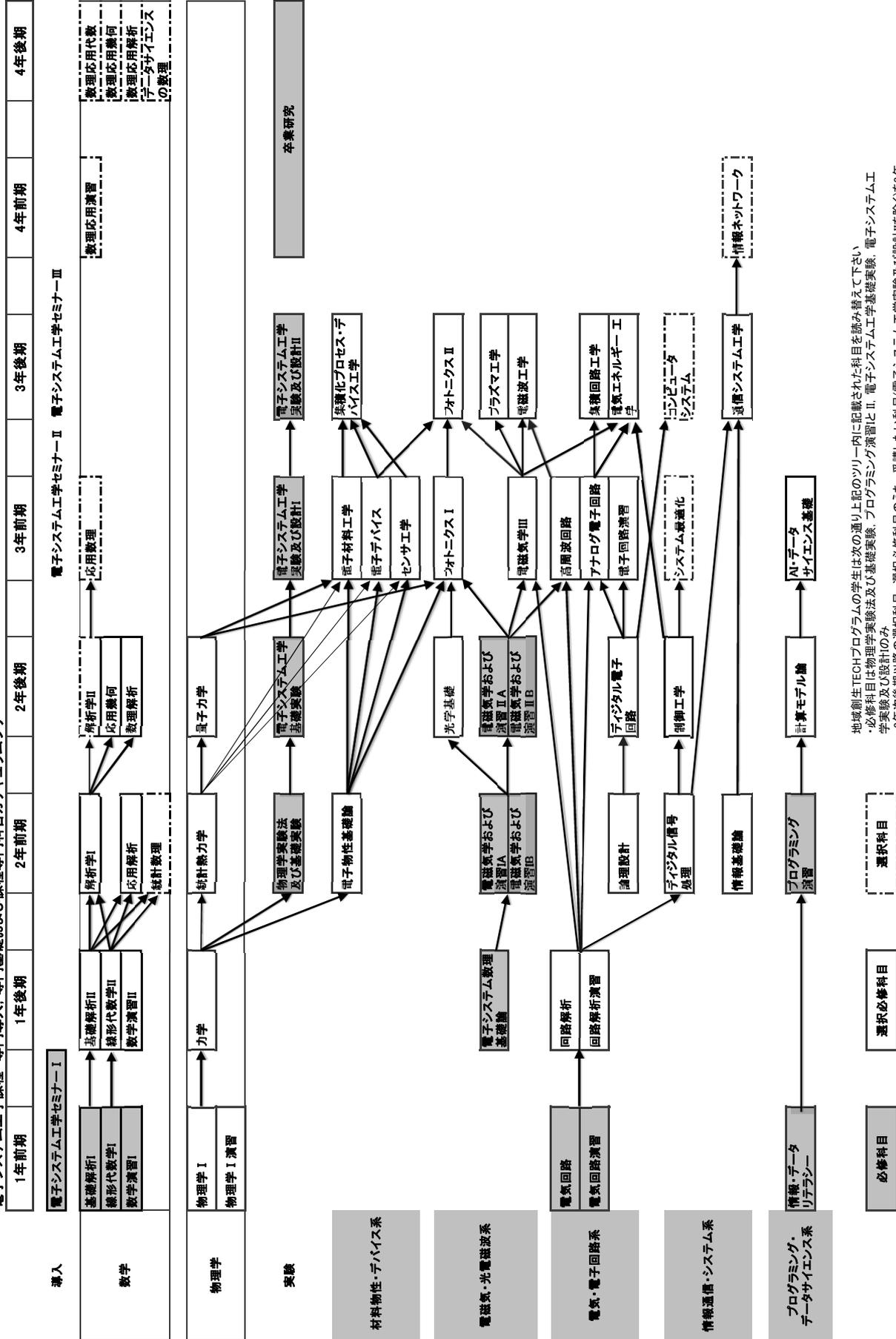
電子システム工学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

電子システム工学課程

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履	
						一般	地域	1年次 前後	2年次 前後	3年次 前後	4年次 前後				
電気回路	Electric Circuits		山下 馨	2	講義	●	☆	2							
電気回路演習	Exercises in Electric Circuits		上田哲也・田村安彦	2	講義・演習	●	☆	2							
電磁気学および演習ⅠA	Classical Electrodynamics I A and Exercise		粟辻安浩	2	講義・演習	●	☆		4					第1クォーター	
電磁気学および演習ⅠB	Classical Electrodynamics I B and Exercise		比村治彦	2	講義・演習	●	☆		4					第2クォーター	
電磁気学および演習ⅡA	Classical Electrodynamics II A and Exercise		山下兼一	2	講義・演習	●	☆			4				第3クォーター	
電磁気学および演習ⅡB	Classical Electrodynamics II B and Exercise		今田早紀	2	講義・演習	●	☆			4				第4クォーター	
電磁気学Ⅲ	Classical Electrodynamics III		上田哲也	2	講義	☆	☆			2					※
電子システム数理基礎論	Mathematical Methods in Electronics Engineering		三瓶明希夫・比村治彦	2	講義	●	☆	2							
情報・データリテラシー	Information and Data Literacy		井上純一・高橋 駿	2	演習	●	●	4							
プログラミング演習	Programming		古田 潤・黒澤 裕之・CARL FREDERIK	2	演習	●	●		4						
電子システム工学基礎実験	Introductory Laboratory in Electronic Systems		電子システム工学課程関係教員	2	実験	●	●			6					
電子システム工学実験及び設計Ⅰ	Laboratory in Electronic Systems Engineering I		電子システム工学課程関係教員	2	実験	●	●				6				
電子システム工学実験及び設計Ⅱ	Laboratory in Electronic Systems Engineering II		電子システム工学課程関係教員	2	実験	●	×					6			
回路解析	Linear Circuit Analysis		島崎仁司	2	講義	☆	☆	2							※
回路解析演習	Exercise for Linear Circuit Analysis		北村恭子	2	講義・演習	☆	☆	2							※
論理設計	Logic Design	電	平田博章	2	講義	☆	☆		2						※
デジタル電子回路	Digital Electronic Circuits	電	小林和淑	2	講義	☆	☆			2					※
アナログ電子回路	Analog Electronic Circuits		廣木 彰	2	講義	☆	☆				2				※
電子回路演習	Exercise for Electronic Circuits		山下 馨	2	講義・演習	☆	☆				2				※
集積回路工学	Integrated Circuits		小林 和淑	2	講義	☆	○				2				
デジタル信号処理	Digital Signal Processing	電	社 偉敏・實珍輝尚・西中浩之	2	講義	☆	☆		2						※
制御工学	Control Engineering	電	森 禎弘	2	講義	☆	☆			2					※
通信システム工学	Digital Communications		大柴小枝子	2	講義	☆	☆				2				※
高周波回路	Microwave Circuits		島崎仁司	2	講義	☆	☆			2					※
電気エネルギー工学	Electric Energy Science and Technology		門 勇一・黄 品諭	2	講義	☆	☆				2				※
電磁波工学	Electromagnetic Engineering		門 勇一	2	講義	☆	☆				2				※
プラズマ工学	Plasma Science and Technology		比村治彦	2	講義	☆	☆				2				※
光学基礎	Fundamentals of Optics		粟辻安浩	2	講義	☆	☆			2					※
フォトニクスⅠ	Photonics I		裏 升吾	2	講義	☆	☆			2					※
フォトニクスⅡ	Photonics II		山下兼一	2	講義	☆	☆				2				※
計算モデル論	Modeling for Numerical Analyses		廣木 彰	2	講義	☆	☆			2					※
電子物性基礎論	Electronic Science and Engineering		高橋和生	2	講義	☆	☆		2						※
電子デバイス	Electron Devices		吉本昌広・西中 浩之	2	講義	☆	☆			2					※
電子材料工学	Electronic Material Science		萩原 亮・今田早紀	2	講義	☆	☆			2					※
センサ工学	Sensor Engineering		野田 実	2	講義	☆	☆			2					※
集積化プロセス・デバイス工学	Processes of Integrated Circuits for their		野田 実・高橋和生	2	講義	☆	☆				2				※
システム最適化	Optimization	電	飯間 等	2	講義	○	☆			2					※
情報基礎論	Fundamentals of information theory		大柴小枝子	2	講義	☆	☆		2						※
コンピュータシステム	Computer Systems	電	平田博章	2	講義	○	☆				2				※
情報ネットワーク	Data Networks	電	樹田秀夫・永井孝幸・梅原大祐	2	講義	○	☆				2				※
AI・データサイエンス基礎	Fundamentals of AI and Data Science	電	北村恭子	2	講義・演習	☆	☆			2					
卒業研究	Thesis	電	電子システム工学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10		
地域創生Tech Program (福知山キャンパス開講科目)															
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	電	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・寺澤昇久・井野晴洋・YU ANNIE・(催事教)	2	演習	×	●					8			第3クォーター
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	電	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	演習	×	○					8			第1クォーター
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	電	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE・吉田裕美・寺澤昇久	4	実習	×	●					20			第4クォーター
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	電	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	4	実習	×	○					20			第2クォーター
ものづくりインターンシップⅢ	Monozukuri Internship III	電	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	実習	×	○					10			第2クォーター
卒業プロジェクト	Thesis Project	電	電子システム工学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●					10	10		

電子システム工学課程 専門導入、専門基礎および課程専門科目カリキュラムツリー



地域創生TECHプログラムの学生は次の通り上記のツリー内に記載された科目を読み替えて下さい。
 ・必修科目は物理学実験法及び基礎実験、プログラミング演習とⅡ、電子システム工学基礎実験、電子システム工学実験及び設計のみ
 ・3年次後期以降の選択科目、選択必修科目のうち、受講したい科目(電子システム工学実験及び設計)を除くを3年次前期までに履修して下さい。

(卒業要件)

大分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
専門導入科目	●電子システム工学セミナーⅠ ②				電子システム工学セミナーⅡ ①				2
数学	●基礎解析Ⅰ ②	●基礎解析Ⅱ ②	●解析学Ⅰ ②	●解析学Ⅱ ②	●解析学Ⅲ ②	●解析学Ⅳ ②	●解析学Ⅴ ②	●解析学Ⅵ ②	2
	●線形代数Ⅰ ②	●線形代数Ⅱ ②	●統計学Ⅰ ②	●統計学Ⅱ ②	●統計学Ⅲ ②	●統計学Ⅳ ②	●統計学Ⅴ ②	●統計学Ⅵ ②	2
	●数学演習Ⅰ ②	●数学演習Ⅱ ②	●数学演習Ⅲ ②	●数学演習Ⅳ ②	●数学演習Ⅴ ②	●数学演習Ⅵ ②	●数学演習Ⅶ ②	●数学演習Ⅷ ②	2
物理学	●物理学Ⅰ ②	●物理学Ⅱ ②	●物理学Ⅲ ②	●物理学Ⅳ ②	●物理学Ⅴ ②	●物理学Ⅵ ②	●物理学Ⅶ ②	●物理学Ⅷ ②	2
	●物理学Ⅰ演習 ②	●物理学Ⅱ演習 ②	●物理学Ⅲ演習 ②	●物理学Ⅳ演習 ②	●物理学Ⅴ演習 ②	●物理学Ⅵ演習 ②	●物理学Ⅶ演習 ②	●物理学Ⅷ演習 ②	2
その他									2
必修科目	●電気回路 ②	●電子システム概論Ⅰ ②	●電子回路Ⅰ ②	●電子回路Ⅱ ②	●電子回路Ⅲ ②	●電子回路Ⅳ ②	●電子回路Ⅴ ②	●電子回路Ⅵ ②	24
	●電圧回路演習 ②	●電圧回路演習Ⅱ ②	●電圧回路演習Ⅲ ②	●電圧回路演習Ⅳ ②	●電圧回路演習Ⅴ ②	●電圧回路演習Ⅵ ②	●電圧回路演習Ⅶ ②	●電圧回路演習Ⅷ ②	24
選択必修科目	●情報・チャリテラシー ②	●情報・チャリテラシーⅡ ②	●情報・チャリテラシーⅢ ②	●情報・チャリテラシーⅣ ②	●情報・チャリテラシーⅤ ②	●情報・チャリテラシーⅥ ②	●情報・チャリテラシーⅦ ②	●情報・チャリテラシーⅧ ②	24
	●電気回路演習Ⅱ ②	●電気回路演習Ⅲ ②	●電気回路演習Ⅳ ②	●電気回路演習Ⅴ ②	●電気回路演習Ⅵ ②	●電気回路演習Ⅶ ②	●電気回路演習Ⅷ ②	●電気回路演習Ⅷ ②	24
課程専門科目	●電子回路Ⅰ ②	●電子回路Ⅱ ②	●電子回路Ⅲ ②	●電子回路Ⅳ ②	●電子回路Ⅴ ②	●電子回路Ⅵ ②	●電子回路Ⅶ ②	●電子回路Ⅷ ②	32
	●電子回路Ⅰ演習 ②	●電子回路Ⅱ演習 ②	●電子回路Ⅲ演習 ②	●電子回路Ⅳ演習 ②	●電子回路Ⅴ演習 ②	●電子回路Ⅵ演習 ②	●電子回路Ⅶ演習 ②	●電子回路Ⅷ演習 ②	32
選択科目									
卒業研究必修									8

134
※5

90

注

- 科目名の右側の数字は、単位数を表している。
- を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。
- ※1：言語教育科目の最低修得単位数には、●6単位を含む。
- ※2：工芸科学教育科目の最低修得単位数には、「リサーチ」区分2単位及び「京の伝統文化と先端」区分2単位を含む。
- ※3：「人間教育科目合計」には、3大学（京都工業繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。
- ※4：専門基礎科目の最低修得単位数には、●8単位及び☆1.2単位を含む。
- ※5：この単位数には、合計1.0単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。

電子システム工学課程 一般プログラム

情報工学課程

1. 課程の紹介

“ICT(Information and Communication Technology)” は、国内外を問わず、現代の情報社会において、欠かすことができません。製造業における設計・加工システム、航空機や電車などの交通機関の運行制御システム、経済活動での電子商取引システムなど、様々なシステムがICTによって支えられています。本課程では、ICTについての専門的な知識と技能を身につけることができます。また、技術や社会の変化に対応するために、適切な情報収集・分析能力を身につけることができます。そして、他者と協働するためのコミュニケーション能力、さらには、技術者としての倫理も身につけることができます。ICTを自在に使いこなして、豊かな情報社会を切り拓いていきましょう。

2. 教育目標

製造・サービスなどのさまざまな産業の根幹を支えるICT分野でリーダーシップを取って活躍する人材、および、ICTを活用したシステムの開発やサービスの創出・提供によって豊かな情報社会の構築に貢献する人材の育成です。

また、地域創生 Tech Program では、上記に加えて、ICTに関する専門知識を駆使し、地域産業の活性化や地域課題の解決をグローバルな視点で行える人材の育成を目指します。

3. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得し課程の教育目標を達成するための教育プログラムは、以下の方針で編成されています。

- (1) ICTに関する知識と技能を修得するために、ICTを扱うための基礎を学ぶコンピュータ科学（CS）と、基礎を応用して新しいシステムの創出を目指すコンピュータ工学（CE）の両方をカバーしています。
- (2) 理論と実践的技法を修得するように、講義と実験・演習を密接に連携させています。
- (3) コミュニケーション能力を向上させるための方策の一つとして、実験・演習科目等でグループ活動を取り入れています。
- (4) 講義と実験・演習科目は、卒業研究を除いて、3年次までに配当されています。4年次に大学院科目を履修し、大学院進学後の時間を研究、インターンシップ、あるいは海外留学などに利用し、知識・技能の深化あるいはコミュニケーション力などの技術者素養の向上を行うことを想定しています。

なお、教育プログラムは11科目群から構成されます。これらの課程専門科目間の関連は「専門科目のカリキュラムツリー」に示します。

4. 教育プログラムのしくみ

1年次には、必修の専門導入科目として「情報工学セミナー」と「情報工学概論」を入学直

後の前期に担当しています。「情報工学セミナー」は専門分野の教員と少人数で直接討論できる場として設定しています。また、情報系基礎科目（「情報・データリテラシー概論」、「プログラミングⅠ」、「ソフトウェア演習Ⅰ」）が必修科目として、さらに専門への基礎科目としての数学（「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「数学演習Ⅰ、Ⅱ」）が選択必修科目として担当されています。数学については、この段階では情報工学の専門分野の勉強とのつながりが把握しにくいかもしれませんが、段階的な積み上げを必要とする科目であり、3、4年次に専門の本格的な勉強が始まると、その必要性が痛感されます。このため1年次からしっかりと勉強しておくことが期待されます。たとえば Google によるページランク付けの仕組みを理解するためには、線形代数で学ぶ行列の固有ベクトルの知識が欠かせません。この他に、基礎科目である「離散数学」、「エレクトロニクス」、「システム論」が選択必修科目として提供されます。

2年次では「プログラミングⅡ」、「ソフトウェア演習Ⅱ」、「情報システムプログラミング」、3年次では「ネットワークプログラミング」、「言語処理プログラミング」が必修科目として担当されます。また、2、3年次には、専門基礎科目の「統計数理」と多くの課程専門科目が選択必修科目として担当され、さらに実験科目（「プロジェクト実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」、「物理学実験法及び基礎実験」）は必修科目として担当されます。これらは卒業研究（4年次の必修科目）を進めるための基礎となるものです。特に、「プロジェクト実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」では、ディプロマ・ポリシーに掲げる本課程卒業生が身につけるべき能力を獲得するために、チームによる対話型、発表型、探求型実習を段階的かつ系統的に行います。

なお、地域創生 Tech Program では、地域の課題を把握し、それに情報工学の専門知識をいかに活かしていくかを実践的に学ぶために、3年次後期から4年次にかけて「地域創生課題セミナー」や「ものづくりインターンシップ」といった科目が必修科目として担当されます。

課程専門科目ではありませんが、1年次には言語教育科目としての英語（「Interactive English」、「Career English Basic」、「Academic English」）が必修科目として担当されています。また、本学の大学院博士前期課程（修士課程）進学には TOEIC の受験が必要ですが、TOEIC 等の問題形式を利用した速読・速聴の訓練を行う科目「Career English Intermediate」、「Career English Advanced」も2年次向けに開設されています。これらは、4年次の卒業研究や大学院に進学しての研究、就職後に研究開発業務を進めるにあたって必須となる英語能力（読み／書き／聞き／話す能力）の土台を形成するものです。専門教育の観点からも大変重要なものですので着実な修得が期待されます。

4年次の4月初めに、学生に事前にガイダンスを行い、3年次後学期までの成績等に基づき本学大学院情報工学専攻へ進学するための推薦入試推薦資格の有無を判定します。この判定結果と本人からの希望に基づいて、本学大学院情報工学専攻の3×3特別推薦入試に対する課程からの推薦者を決定します。TOEIC のスコアの提出は、推薦資格の有無の判定には不要ですが、3×3特別推薦入試出願時には必要となります。本学大学院進学希望者に対しては、学部4年

次を実質上の「MO（エムゼロ）」として修士課程と合わせて3年間一貫した教育プログラムを提供します。

4年次から卒業研究履修資格者（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）を対象として、卒業研究のための研究室配属を実施します。卒業研究は、大学における学習・研究の最終的総合的集約の意義があり、学生が主体的力量を発揮する重要な場です。また、卒業研究により、単に与えられた問題を解決するだけでなく、問題点を自ら発見し、課題を設定する力を身につけることができます。本課程では、基本的に情報工学課程を担当する教員の指導のもとに、学生が自ら選んだ研究テーマに基づいて研究を行います。卒業研究の配属は、4年次の4月初旬に決定され、卒業研究報告書の提出とその審査は後学期2月下旬に行われます。

卒業研究を行うための配属先となる主な研究室は以下のとおりです。

- 情報知能システム
- 知能制御
- 画像工学
- 視覚情報
- コミュニケーションシステム
- 情報セキュリティ
- 分散システム
- 教育情報システム
- コンピュータシステム
- ソフトウェア工学
- マルチメディアデータ工学
- インタラクティブ知能
- 人間情報技術
- ヒューマンインタフェース
- 認知行動科学

卒業研究を満足に遂行できるかどうかは、3年次までに修得した授業科目に依存しますから、履修科目の選択は慎重に考える必要があります。授業科目の履修にあたっては、学ぶ主体が学生自身であることを十二分に自覚する必要があります。

履修計画の参考のために、「専門科目のカリキュラムツリー」と「科目履修の流れと卒業要件」を課程専門科目の教科課程表の後に示します。

5. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学部のディプロマ・ポリシーに加えて、情報工学課程では、製造・経済・知的生産活動、あるいは個人や組織の活動など、国内外における社会のあらゆる場面を支えているICTの最新技

術を理論と実践の両面からバランスよく修得し、国内外で活躍できる技術者としての素養を身に付けていることが認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

修得する具体的事項を以下に示します。

- (1) エンジニアリングデザイン能力：限られた人的、物的、時間的資源の制約の下で、社会の要求を解決するために、リーダーシップを持って他者と協働し新しいシステムを創出できる。
- (2) 専門知識と応用力：コンピュータ科学(CS)およびコンピュータ工学(CE)分野の専門知識をもち、それに基づいてハードやソフトを分析、構築することができる。
- (3) コミュニケーション能力：国内外の異なる文化や技術を持つ人々との共同作業のため、文化や背景の異なる他人や組織を相手として、論理的な文章の記述、口頭発表、討論ができる。
- (4) 学習習慣と情報収集・分析力：技術の爆発的進歩、変化への対応のため、さらにそれらによる将来の社会変化に適応できるため、継続的な学習習慣を持ち、ICT を活用した効率的な情報収集や情報分析を行うことができる。
- (5) 技術者教養・倫理：日本および諸外国の文化理解に基づいて、技術者の社会的責任を認識し、倫理的に行動できる。

これらは、課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照）を満たしていることと、卒業研究の成果によって判定されます。

6. 資格等

所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、「教員免許状（中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状(数学)、高等学校教諭一種免許状(情報)）や「学芸員資格」が得られます。中学校教諭一種免許状の取得には、教育職員免許法に定める所定の単位の他に「介護等体験」が必要です。

また、所定の単位を修得し、本学を卒業して一定の実務経験を経れば、「技術検定(1級・2級)の受検資格」が得られます。技術検定(1級・2級)の詳細については、「Ⅷ. 技術検定の受検資格の取得について」を参照してください。

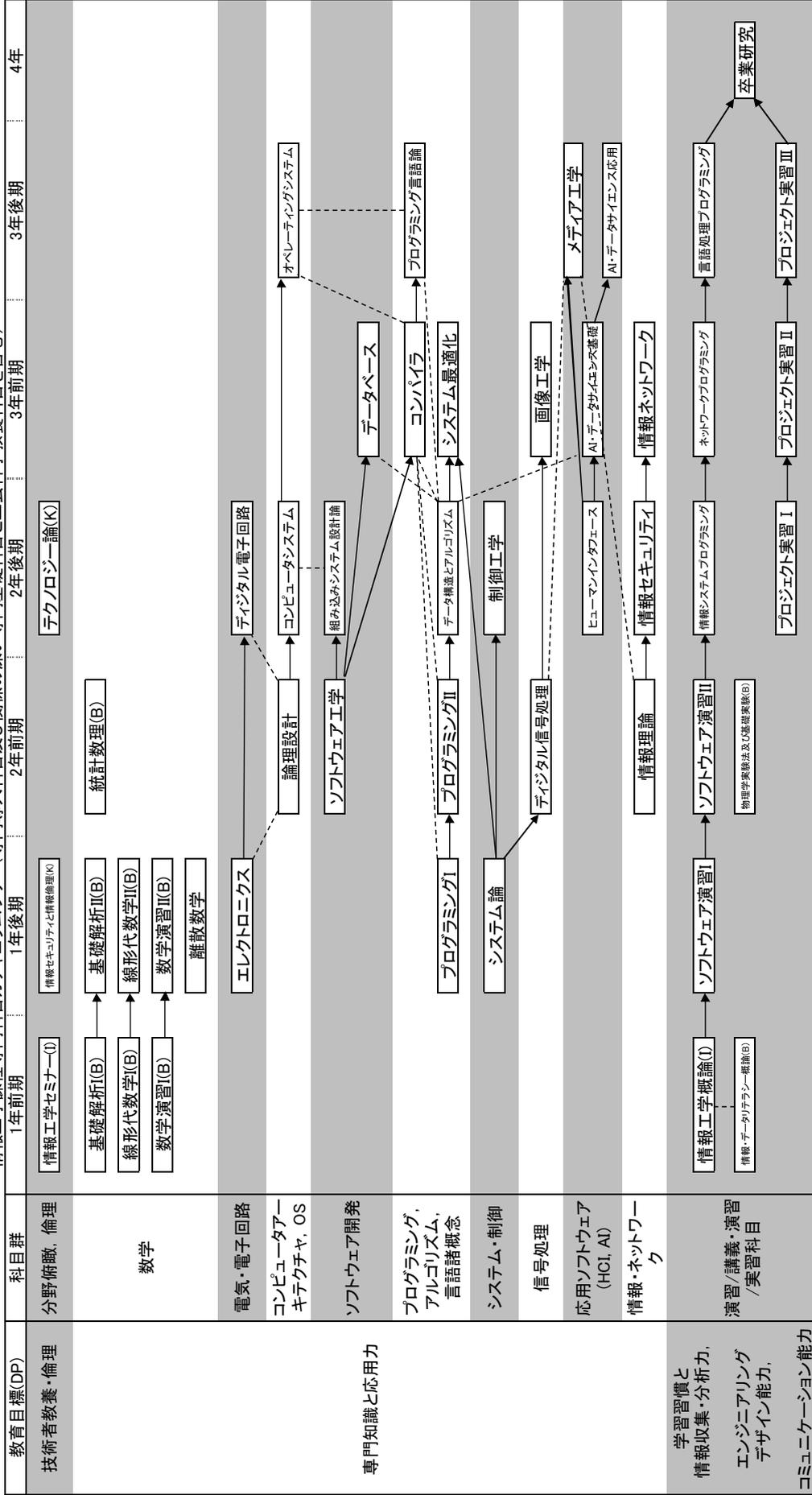
課程専門科目
情報工学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

情報工学課程

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履
						一般	地域	1年次 前後	2年次 前後	3年次 前後	4年次 前後			
プログラミングⅠ	Programming I		荒木雅弘	2	講義	●	●	2						
プログラミングⅡ	Programming II		岡 夏樹	2	講義	●	●		2					
データ構造とアルゴリズム	Data Structures and Algorithms		岡 夏樹	2	講義	☆	☆			2				※
システム最適化	Optimization	情	飯間 等	2	講義	☆	☆				2			※
論理設計	Logic Design	情	平田博章	2	講義	☆	☆		2					※
コンピュータシステム	Computer Systems	情	平田博章	2	講義	☆	☆			2				※
オペレーティングシステム	Operating Systems		布目 淳	2	講義	☆	☆				2			※
ソフトウェア工学	Software Engineering		水野 修・崔 恩滄	2	講義	☆	☆		2					※
組み込みシステム設計論	Design Methodology for Embedded Systems		福澤理行	2	講義	○	○			2				※
データベース	Databases		實珍輝尚・野宮浩揮	2	講義	☆	☆				2			※
コンパイラ	Compiler		辻野嘉宏	2	講義	☆	☆				2			※
プログラミング言語論	Programming Languages		辻野嘉宏	2	講義	○	○				2			※
ヒューマンインタフェース	Human Interface		澁谷 雄・西崎友規子	2	講義	☆	☆			2				※
AI・データサイエンス基礎	Fundamentals of AI and Data Science	情	荒木雅弘	2	講義	○	○				2			※
AI・データサイエンス応用	Application of AI and Data Science		荒木雅弘	2	講義	○	○				2		2022年度より開講	※
メディア工学	Media Technology		實珍輝尚	2	講義	○	○				2			※
離散数学	Discrete Mathematics		矢ヶ崎達彦	2	講義	☆	☆	2						※
情報理論	Information Theory		梅原大祐・稲葉宏幸	2	講義	☆	☆		2					※
情報セキュリティ	Information Security		稲葉宏幸・樹田秀夫	2	講義	☆	☆			2				※
情報ネットワーク	Data Networks	情	樹田秀夫・永井孝幸・梅原大祐	2	講義	☆	☆				2			※
システム論	Systems Approach		飯間 等・森 禎弘	2	講義	☆	☆	2						※
制御工学	Control Engineering	情	森 禎弘	2	講義	○	○			2				※
デジタル信号処理	Digital Signal Processing	情	杜 偉薇・實珍輝尚・西中浩之	2	講義	○	○		2					※
画像工学	Image Engineering		福澤理行・杜 偉薇	2	講義	○	○				2			※
エレクトロニクス	Electronics		福澤理行	2	講義	☆	☆	2						※
デジタル電子回路	Digital Electronic Circuits	情	小林和淑	2	講義	○	○			2				※
プロジェクト実習Ⅰ	Project-based Learning I		情報工学課程関係教員	2	実験	●	●			6				
プロジェクト実習Ⅱ	Project-based Learning II		情報工学課程関係教員	2	実験	●	●				6			
プロジェクト実習Ⅲ	Project-based Learning III		情報工学課程関係教員	2	実験	●	×					6		
ソフトウェア演習Ⅰ	Software Exercise I		澁谷 雄・杜 偉薇・SIRIARAYA PANOTE	2	演習	●	●	4						
ソフトウェア演習Ⅱ	Software Exercise II		水野 修・澁谷 雄・岡 夏樹・布目 淳	2	演習	●	●		4					
情報システムプログラミング	Information System Programming		實珍輝尚・野宮浩揮	2	講義・演習	●	☆			2				
ネットワークプログラミング	Network Programming		稲葉宏幸・田中一晶	2	講義・演習	●	☆				2			
言語処理プログラミング	Programming Language Processing		辻野嘉宏・水野 修	2	講義・演習	●	☆				2		地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※
卒業研究	Thesis	情	情報工学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×					10	10	
地域創生Tech Program (福山キャンパス開講科目)														
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	情	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・寺澤昇久・井野晴洋・YU ANNIE・(准履修)	2	演習	×	●					8		第3クォーター
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	情	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	演習	×	○					8		第1クォーター
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	情	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE・吉田裕美・寺澤昇久	4	実習	×	●				20			第4クォーター
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	情	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	4	実習	×	○				20			第2クォーター
ものづくりインターンシップⅢ	Monozukuri Internship III	情	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	実習	×	○				10			第2クォーター
卒業プロジェクト	Thesis Project	情	情報工学課程関係教員	8	卒業研究等	×	●					10	10	

情報工学課程専門科目カリキュラムツリー(専門導入科目及び関係の深い専門基礎科目と工学科学教養科目を含む)



(1): 専門導入科目

(K): 関係の深い工学科学教養科目
実線矢印は望ましい履修順序を示す

(B): 関係の深い専門基礎科目
点線は関係の深い科目を表す

無印: 情報工学課程専門科目
演習・実習科目, 数学科目と他科目との関係線は省略されている

科目履修の流れと卒業要件／情報工学課程 一般プログラム（2021年度入学生用）

(卒業要件)

大分類	小分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数			
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期				
言語教育科目	英語	●Interactive English A ① ●Academic English Basic ① ●Multicultural English ①	●Interactive English B ① ●Academic English ① ●Multicultural English ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ●Career English Advanced(いずれかの学期) Active English CLIL(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking I(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking II(いずれかの学期) ① Active English Reading I(いずれかの学期) ① Active English Reading II(いずれかの学期) ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ●Career English Advanced(いずれかの学期) Active English CLIL(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking I(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking II(いずれかの学期) ① Active English Reading I(いずれかの学期) ① Active English Reading II(いずれかの学期) ①					12 ※1			
		ドイツ語初級基礎A ① ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語初級基礎A ① ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ① ドイツ語中級B ①	ドイツ語中級A ① ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ① ドイツ語上級B ①	ドイツ語上級A ① ドイツ語上級B ①						
		フランス語初級基礎A ① フランス語初級基礎B ①	フランス語初級基礎A ① フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ① フランス語中級B ①	フランス語中級A ① フランス語中級B ①	フランス語上級A ① フランス語上級B ①	フランス語上級A ① フランス語上級B ①						
		中国語初級基礎A ① 中国語初級基礎B ①	中国語初級基礎A ① 中国語初級基礎B ①	中国語中級A ① 中国語中級B ①	中国語中級A ① 中国語中級B ①								
		工学科学入門 科学技術と環境・倫理	☆国際理解 ☆人権教育 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆KITSスタンダード ☆学術・キャリア概論 ☆環境と法 ☆生命倫理と環境倫理 ☆テクノロジーと社会	☆KITSスタンダード ☆学術・キャリア概論 ☆環境と法 ☆生命倫理と環境倫理 ☆テクノロジーと社会	☆テクノロジーと社会 ☆テクノロジーと社会	☆テクノロジーと社会 ☆テクノロジーと社会						
		ものづくりと技術戦略	☆リサーチ・開発 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リサーチ・開発 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リサーチ・開発 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リサーチ・開発 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リサーチ・開発 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学						
		リーダーシップと経営戦略	☆リーダーシップ概論 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リーダーシップ概論 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リーダーシップ概論 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リーダーシップ概論 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学	☆リーダーシップ概論 ☆地域環境論 ☆現代科学と倫理 ☆エネルギー科学						
		京の伝統文化と先端	☆京都の自然 ☆京都の文学 I ☆近代京と三大学 ☆現代京都論 ☆京の産業技術史	☆京都の歴史 ☆京都の文化 ☆京都の歴史 II ☆京都の文化 II ☆京の生活文化史(いずれかの学期)	☆京都の歴史 ☆京都の文化 ☆京都の歴史 II ☆京都の文化 II ☆京の生活文化史(いずれかの学期)	☆京都の歴史 ☆京都の文化 ☆京都の歴史 II ☆京都の文化 II ☆京の生活文化史(いずれかの学期)	☆京都の歴史 ☆京都の文化 ☆京都の歴史 II ☆京都の文化 II ☆京の生活文化史(いずれかの学期)						
		人間教育科目	☆法学 ☆心理学 ☆現代教育論 ☆国際政治 ☆現代社会とジェンダー	☆憲法 ☆政治学 ☆経済学入門 ☆現代社会とジェンダー ☆社会学 II	☆現代社会と心 ☆現代医療の人間性 ☆社会科学の学び方 ☆現代社会とジェンダー ☆社会学 II	☆経営哲学 ☆経営学 ☆社会学 α ☆社会学 α	☆経営哲学 ☆経営学 ☆社会学 α ☆社会学 α						2
		基本教育科目	☆日本近代精神史 ☆美術と芸術 ☆西洋文学論 ☆人と自然と数学 α ☆化学概論 I ☆生物科学講話 ☆生物学的人間学 ☆医療人類学 ☆時間生物学特論	☆個性の美談哲学 ☆アリアの歴史と文化 ☆西洋文化論 ☆人と自然と数学 β ☆人と自然と物理学 ☆生命科学講話 ☆生命科学 I ☆生命科学 II ☆京の歴史と文化	☆ヨーロッパの歴史と文化 ☆日本史 ☆ラテン語 ☆東西文化史 ☆西洋文化論 ☆人と自然と数学 β ☆人と自然と物理学 ☆生命科学講話 ☆生命科学 I ☆生命科学 II ☆京の歴史と文化	☆フランス語圏の文化とジャズ ☆西学概論 ☆地球の科学 ☆人と自然と物理学 ☆生命科学講話 ☆生命科学 I ☆生命科学 II ☆京の歴史と文化	☆舞台芸術論 ☆映画で学ぶ英語と文化 ☆映画で学ぶ英語と文化 ☆映画で学ぶ英語と文化						2
体の科学	☆スポーツ科学 I ②	☆スポーツ科学 II ②	☆生涯スポーツ(いずれかの学期) ②	☆生涯スポーツ(いずれかの学期) ②	☆生涯スポーツ(いずれかの学期) ②					2			

大分類	1年次			2年次		3年次		4年次		最低修得単位数
	前学期	後学期		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
専門基礎科目	専門導入科目 ●情報工学概論 ②									4
	☆基礎解析Ⅰ ②	☆基礎解析Ⅱ ②		解析学Ⅰ ②	解析学Ⅱ ②	応用数理 ②		数理応用演習Ⅰ① ①	数理応用代数 ②	
	☆線形代数Ⅰ ②	☆線形代数Ⅱ ②		☆統計数理 ②	応用幾何 ②				数理応用幾何 ②	
専門基礎科目	☆数学演習Ⅰ ②	☆数学演習Ⅱ ②		応用解析 ②	数理解析 ②				数理応用解析 ②	22 ※4
	☆数学演習Ⅱ ②								データサイエンスの数理 ②	
	物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ ②		●物理学Ⅰ及び基礎実験 統計熱力学 ②	量子力学 ②					
専門基礎科目	物理学Ⅰ ②	物理学Ⅱ ②		統計熱力学 ②	量子力学 ②					20
	物理学Ⅱ ②									
	情報 ●情報・データリテラシー概論 ②			統計熱力学 ②	量子力学 ②					
課程専門科目	化学・生物学 その他 ②	生物学Ⅰ ②	生物学Ⅱ ②	生物学Ⅰ ②	生物学Ⅱ ②	インターンシップA ①	インターンシップB ②			24
		新先端フロンティア ②		●ソフトウェア概説Ⅰ ②	●ソフトウェア概説Ⅱ ②	●ネットワークプログラミング ②	●ネットワークプログラミング ②			
		●ソフトウェア概説Ⅰ ②	●ソフトウェア概説Ⅱ ②	●ソフトウェア概説Ⅰ ②	●ソフトウェア概説Ⅱ ②	●ソフトウェア概説Ⅲ ②	●ソフトウェア概説Ⅳ ②			
課程専門科目		☆離散数学 ②	☆離散数学 ②	☆論理設計 ②	☆論理設計 ②	☆システム最適化 ②	☆システム最適化 ②			8
		☆システム論 ②	☆システム論 ②	☆ソフトウェア工学 ②	☆ソフトウェア工学 ②	☆データベース ②	☆データベース ②			
		☆エレクトロニクス ②	☆エレクトロニクス ②	☆情報理論 ②	☆情報理論 ②	☆コンパイル ②	☆コンパイル ②			
卒業研究必修				デジタル信号処理 ②	組み込みシステム設計 ②	画像工学 ②	画像工学 ②			8
				制御工学 ②	制御工学 ②	プログラム言語 ②	プログラム言語 ②			
				デジタル電子回路 ②	デジタル電子回路 ②	AI・データサイエンス基礎 ②	AI・データサイエンス応用 ②		●卒業研究 ⑧	

(卒業要件)

134 ※5

90

注・科目名の右側の数字は、単位数を表している。
 ●を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。
 ※1：言語教育科目の最低修得単位数には、●6単位を含む。
 ※2：工学教養科目の最低修得単位数には、「リーダシップと経営概論」区分2単位及び「京の伝統文化と先端」区分2単位を含む。
 ※3：「人間教養科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。
 ※4：専門基礎科目の最低修得単位数には、●4単位及び☆10単位を含む。
 ※5：この単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。

情報工学課程 一般プログラム

科目履修の流れと卒業要件／情報工学課程 地域創生Tech Program (2021年度入学生用)

(卒業要件)

大分類	小分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数		
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期			
言語教育科目	英語	●Interactive English A ① ●Academic English Basic ① ●Academic English Advanced ①	●Interactive English B ① ●Academic English ① ●Academic English Advanced ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ① ●Career English Advanced(いずれかの学期) ① Active English CLIL(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking I(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking II(いずれかの学期) ① Active English Reading I(いずれかの学期) ① Active English Reading II	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ① ●Career English Advanced(いずれかの学期) ① Active English CLIL(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking I(いずれかの学期) ① Active English Listening&Speaking II(いずれかの学期) ① Active English Reading I(いずれかの学期) ① Active English Reading II							
		ドイツ語初級基礎A ① ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語初級基礎A ① ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ① ドイツ語中級B ①	ドイツ語中級A ① ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ① ドイツ語上級B ①	ドイツ語上級A ① ドイツ語上級B ①					
		フランス語初級基礎A ① フランス語初級基礎B ①	フランス語初級基礎A ① フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ① フランス語中級B ①	フランス語中級A ① フランス語中級B ①	フランス語上級A ① フランス語上級B ①	フランス語上級A ① フランス語上級B ①					
		中国語初級基礎A ① 中国語初級基礎B ①	中国語初級基礎A ① 中国語初級基礎B ①	中国語中級A ① 中国語中級B ①	中国語中級A ① 中国語中級B ①							
		☆工学科学基礎 ① ☆キャリア教育基礎 ② ☆地域連携演習 ② ☆国際化と情報社会 ② ☆ものづくりと生産的科教育 ②	☆国際理解 ① ☆人権教育 ② ☆現代科学と倫理 ② ☆工ネルギー科学 ②	☆KISTスタンダード ① ☆実験・キャリア実践 ② ☆地域連携演習 ② ☆現代科学と倫理 ② ☆工ネルギー科学 ②	☆KISTスタンダード ① ☆実験・キャリア実践 ② ☆地域連携演習 ② ☆現代科学と倫理 ② ☆工ネルギー科学 ②	☆キャリア教育基礎 ① ☆人権教育 ② ☆現代科学と倫理 ② ☆工ネルギー科学 ②	☆キャリア教育基礎 ① ☆人権教育 ② ☆現代科学と倫理 ② ☆工ネルギー科学 ②					
		リーダーシップと経営戦略	リーダーシップ実践 I ② リーダーシップ実践 II ② ☆SDGsをまなぶ ②	リーダーシップ実践 I ② リーダーシップ実践 II ② ☆SDGsをまなぶ ②	リーダーシップ実践 I ② リーダーシップ実践 II ② ☆SDGsをまなぶ ②	リーダーシップ実践 I ② リーダーシップ実践 II ② ☆SDGsをまなぶ ②	リーダーシップ実践 I ② リーダーシップ実践 II ② ☆SDGsをまなぶ ②					
		京の伝統文化と先端	☆京都の自然 ② ☆京都の歴史 I ② ☆京都の歴史 II ② ☆京都の産業技術史 ②	☆京都の歴史 I ② ☆京都の歴史 II ② ☆京都の歴史 III ② ☆京都の産業技術史 ②	☆京都の歴史 I ② ☆京都の歴史 II ② ☆京都の歴史 III ② ☆京都の産業技術史 ②	☆京都の歴史 I ② ☆京都の歴史 II ② ☆京都の歴史 III ② ☆京都の産業技術史 ②	☆京都の歴史 I ② ☆京都の歴史 II ② ☆京都の歴史 III ② ☆京都の産業技術史 ②					
		人と社会	☆法学 ② ☆心理学 ② ☆現代教育論 ② ☆国際政治 ① ☆社会学 I ② ☆現代社会とジェンダー ②	☆憲法 ② ☆政治学 ② ☆社会学入門 ② ☆現代正義論 ② ☆社会学 II ②	☆現代社会と心 ② ☆現代医療の人間観 ② ☆社会学の学び方 ② ☆現代正義論 ② ☆社会学 II ②	☆現代社会と心 ② ☆現代医療の人間観 ② ☆社会学の学び方 ② ☆現代正義論 ② ☆社会学 II ②	☆現代社会と心 ② ☆現代医療の人間観 ② ☆社会学の学び方 ② ☆現代正義論 ② ☆社会学 II ②					
		基本教養科目	☆日本近代精神史 ② ☆美術と芸術 ② ☆西洋文学論 ② ☆人と自然と数学 α ② ☆化学概論 I ② ☆生物科学概論 I ② ☆生物学的人間学 ② ☆医療人類学 ② ☆スポーツ科学 I ②	☆西洋文化論 ② ☆現代社会とジェンダー ② ☆日本近代精神史 ② ☆美術と芸術 ② ☆西洋文学論 ② ☆人と自然と数学 α ② ☆化学概論 I ② ☆生物科学概論 I ② ☆生物学的人間学 ② ☆医療人類学 ② ☆スポーツ科学 I ②	☆ヨーロッパの歴史と文化 ② ☆日本史 ② ☆日本近代文学 ② ☆文芸創作論 ② ☆西洋文化論 ② ☆人と自然と数学 β ② ☆人と自然と物理学 ② ☆生命科学講話 ② ☆生命科学 II ② ☆京都の歴史と市民 ② ☆人間生物学特論 ② ☆キャンパス・ヘルス・環境 ②	☆ヨーロッパの歴史と文化 ② ☆日本史 ② ☆日本近代文学 ② ☆文芸創作論 ② ☆西洋文化論 ② ☆人と自然と数学 β ② ☆人と自然と物理学 ② ☆生命科学講話 ② ☆生命科学 II ② ☆京都の歴史と市民 ② ☆人間生物学特論 ② ☆キャンパス・ヘルス・環境 ②	☆舞台芸術論 ② ☆映画で学ぶ英語と文化 ② ☆映画で学ぶドイツ語と文化 ② ☆映画で学ぶスペイン語と文化 ②	☆舞台芸術論 ② ☆映画で学ぶ英語と文化 ② ☆映画で学ぶドイツ語と文化 ② ☆映画で学ぶスペイン語と文化 ②				
		体の科学	☆スポーツ科学 I ②	☆スポーツ科学 II ②	☆スポーツ科学 I ② ☆スポーツ科学 II ②	☆スポーツ科学 I ② ☆スポーツ科学 II ②	☆スポーツ科学 I ② ☆スポーツ科学 II ②					

12

※1

22

※3

(卒業要件)

大分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
専門導入科目	●情報工学セミナー② ●情報工学概論②								5
数学	☆基礎解析Ⅰ②	☆基礎解析Ⅱ②	解析学Ⅰ②	解析学Ⅱ②	応用数理②		数理応用演習Ⅰ(Q)①	数理応用代数②	22 ※4
	☆線形代数Ⅰ② ☆数学演習Ⅰ②	☆線形代数Ⅱ② ☆数学演習Ⅱ②	応用解析②	応用幾何②				数理応用幾何② データサイエンスの数理②	
物理学	物理学Ⅰ②	物理学Ⅱ②	●量子力学及び原子物理 統計力学②	量子力学②					22 ※4
	●情報・データリテラシー概論 物理学Ⅰ演習②	力学②							
情報 化学・生物学 その他									22 ※4
	生物学Ⅰ② 新先端バイオ科学②	生物学Ⅱ②			インターンシップA① インターンシップB②				
知的財産			IPマネジメント概論②	☆知的財産概論Ⅱ②	☆知的財産演習①				22 ※4
			☆知的財産論Ⅰ② ☆特許法・実用新案法② ☆民法概論Ⅱ② ☆民法概論Ⅰ②						
複合材料									22 ※4
必修科目									18
			●ソフトウェア演習Ⅰ② ●プログラミングⅠ②	●ソフトウェア演習Ⅱ② ●プログラミングⅡ②	●ソフトウェア演習Ⅲ② ●ソフトウェア演習Ⅳ②	●ソフトウェア演習Ⅴ② ●ソフトウェア演習Ⅵ②	●ソフトウェア演習Ⅶ② ●ソフトウェア演習Ⅷ②	●ソフトウェア演習Ⅸ② ●ソフトウェア演習Ⅹ②	
選択必修科目			☆離散数学② ☆システム論② ☆エレクトロニクス②	☆論理設計② ☆ソフトウェア工学② ☆情報理論②	☆ネットワークプログラミング② ☆システム最適化② ☆データベース② ☆コンパイラ②	☆ネットワークプログラミング② ☆システム最適化② ☆データベース② ☆コンパイラ②	☆ネットワークプログラミング② ☆システム最適化② ☆データベース② ☆コンパイラ②	☆ネットワークプログラミング② ☆システム最適化② ☆データベース② ☆コンパイラ②	26
選択科目									8
卒業プロジェクト必修									8

134
※5

90

注・科目名の右側の数字は、単位数を表している。
 ●を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。
 ※1：言語教育科目の最低修得単位数には、●6単位を含む。
 ※2：工学系教育科目の最低修得単位数には、「リサーチ」及び「経営概論」区分4単位及び「京の伝統文化と先端」区分2単位を含む。
 ※3：「人間教育科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。
 ※4：専門基礎科目の最低修得単位数には、●4単位及び☆10単位を含む。
 ※5：この単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。ただし、地域創生TechProgramにおいては、数学科目から6単位以上習得すること。

情報工学課程 地域創生Tech Program

機械工学課程

1. 課程の紹介

機械工学課程では、21 世紀の課題であるエネルギー問題と地球環境問題に正面から取り組んでいます。機械工学は産業革命に端を発する伝統ある工学分野であり、「ものづくり」において欠くことのできない分野でもあります。とりわけ現代社会においては、機械工学が必要とされている領域は機械や化学の製造業のみならずバイオ・環境・資源といったこれまで異分野とされていた領域まで広がりを見せています。そのために、機械工学の重要性は従来にも増して高まっています。このような背景のもと、本学の機械工学課程の教育および研究は機械工学、ひいては「ものづくり」の進展に寄与することを目的としています。そこで、私たちには、まず、現状把握のための計測・分析、そして、様々な物理現象のメカニズムの力学的な解明が必要となります。次に、得られた知見を応用した、クリーンエネルギーや資源循環型材料を利用した機械・機器やシステムの開発、さらに、それらが本来の機能を果たすための制御機構の構築などが必要になると考えられます。

本課程では、これらのテーマの具体的な実現に向けて理論と実験の両面を考慮しつつ、さらに、自分自身で課題を見出し、それを解決できる「自己デザイン能力」を有する高度専門技術者の養成を目指して有機的な教育・研究活動を行っています。

2. 教育目標

幅広い基礎的知識の上に立った高度な専門性と豊かな創造力を持ち、さらに技術が普遍性を有するかどうかを的確に判断でき、しかも科学技術の発展の方向や時代と社会の変化の動向をいち早く正確に把握することのできる優れた先見性、地球的視野に立った行動力、豊かな人間尊重の精神を備えた国際性のある人材の育成を目指します。

3. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

教育目標に示した人材を育成するため、以下の学習・教育到達目標を定めています。

【学習・教育到達目標】

A. 豊かな教養と地球的視点を備え、技術者の社会的責任を認識できる。

- (1) スポーツや芸術に慣れ親しみ、人間性豊かな思考のできる教養を備える。
- (2) 地球的視点で物事を考える素養と能力を有する。
- (3) 科学技術の発展とそれが自然環境、生命、社会などに及ぼす効果や影響を理解できる。

B. 幅広い基礎学力と専門知識を備える。

- (1) 数学・物理・情報技術などの基礎学力を有する。
- (2) 伝統的機械工学の専門知識を修得している。
- (3) 幅広い専門知識を応用して、時代や社会の変化と要求に対応した新たな機械システムを構築できる能力を有する。

C. 国際的に通用する表現力と論理性を備える。

- (1) 国際的な場でのコミュニケーション能力を有する。
- (2) 日本語によって論理的な記述、発表、討論ができる。

D. 自律的に判断し、問題を解決する能力を有する。

- (1) 継続的に学習し、能力開発を自発的に行うことができる。
- (2) 種々の条件の下で問題解決の可能性を追求し、計画的に目標を達成することができる。
- (3) チームを構成してリーダーシップを発揮できる。

上記の各目標に対して達成度総合評価基準が定められています。この基準を達成するために、達成度評価対象が定められ、その達成度評価方法と評価基準が規定されています。

4. 教育プログラムのしくみ

エネルギー／材料・加工／知能機械システムをキーワードに、次の4つの系を中心に教育プログラムを構成しており、学生各自が自分の興味に沿った授業科目を選択し履修できるようになっています。

熱工学・流体工学系：エネルギー変換や熱・流動現象を主題とする教育を行います。授業科目は、「熱力学」、「熱エネルギー輸送現象」、「流体力学」、「計算力学」などです。

材料強度学系：力に対する材料の物性と強度を主題とする教育を行います。授業科目は、「工業材料学」、「材料強度学」、「材料力学」、「機械構造解析学」などです。

材料加工学系：各種材料の加工法の開発、加工機構の解明、機械設計法などを主題として教育を行います。授業科目は、「切削・研削加工学」、「塑性加工学」、「材料加工プロセス」、「機械設計学」などです。

計測・制御工学系：計測・信号解析、システムの制御、機械振動の解析などを主題として教育を行います。授業科目は、「計測基礎学」、「システム制御理論」、「ロボティクス」、「機械力学」、「防振システム工学」などです。

上記4つの系に共通して要求される基礎知識は、数学と物理学であり、特に最近では数学的、あるいは、数理物理的な考え方や手法が機械工学の教育・研究に取り入れられる傾向にあります。このような事情に対応するために、「基礎解析」、「線形代数学」、「解析学」、「統計数理」、「工業力学Ⅰ・Ⅱ」、「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」、「物理学実験法及び基礎実験」など、幅広い科目が準備されています。また、専門科目の中で代表的な基礎科目である「熱力学」、「流体力学」、「材料力学」、「機械力学」は講義と演習を一体化し、学習の効率化を図るとともに、将来、どの機械専門分野に進む場合でも重要な授業科目として必修としています。さらに、機械関係の技術者として必要な資質を備えるため、「機械工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「機械加工法及び実習」、「機械製図法Ⅰ・Ⅱ」、「創造設計製図演習」、「データサイエンス」、「卒業研究」などの必修科目を設けています。

3年次までは、機械工学全般にわたる素養を具備することを主目的とし、4年次では卒業研究履修資格者（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）を対象として、卒業研究のための研究室配属を実施します。学生は、卒業研究を実施することによって、さらに専門知識を積み重ね、また問題解決能力やデザイン能力を養うこととなります。卒業研究では、学生自身が主体性をもつよう指導しています。この研究室配属は3年次の11月中旬に決定され、4年次の卒業研究までの間に研究に必要な基礎知識を各研究室で学びます。3年次末には、専門的知識の学修度合を計るための達成度試験を実施します。この成績に基づいて、本学大学院の3×3特別推薦入試に対する課程からの推薦者を決定します。なお、研究室配属については、基本的に学生の希望と成績に基づいて行われますが、詳細については3年次の後学期に開催される説明会で示されます。

履修計画の参考のために、「科目間相互関係図」と「科目履修の流れと卒業要件」を課程専門科目の教科課程表の後に示します。

5. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

学部のディプロマ・ポリシーに加えて、機械工学課程では、幅広い基礎的知識の上に立った高度な専門性と豊かな創造力を持ち、さらに技術が普遍性を有するかどうかを的確に判断でき、しかも科学技術の発展の方向や時代と社会の変化の動向をいち早く正確に把握することのできる優れた先見性、地球的視野に立った行動力、豊かな人間尊重の精神を備えた国際性を身に付けていることが認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

学位授与の可否は、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照）を満たしているかどうかと、卒業研究の成果によって判定されます。

6. 資格等

本課程の教育プログラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定(平成17年認定、認定プログラム名：機械工学課程)を受けており、本課程の卒業生は、国家試験技術士第一次試験が免除され、直接「修習技術者」として実務修習に入ることができます。その後、実務修習プログラムにしたがって4年以上の経験を積むと、国家試験技術士第二次試験の受験資格を得ることができます。また、所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、「教員免許状（中学校教諭一種免許状および高等学校教諭一種免許状(数学)）」、「学芸員資格」が得られます。中学校教諭一種免許状の取得には、教育職員免許法に定める所定の単位の他に「介護等体験」が必要です。

このほかに、所定の単位を修得し、本学を卒業して一定の実務経験を経れば、「技術検定(1級・2級)の受験資格」が得られます。技術検定(1級・2級)の詳細については、「Ⅷ. 技術検定の受験資格の取得について」を参照してください。

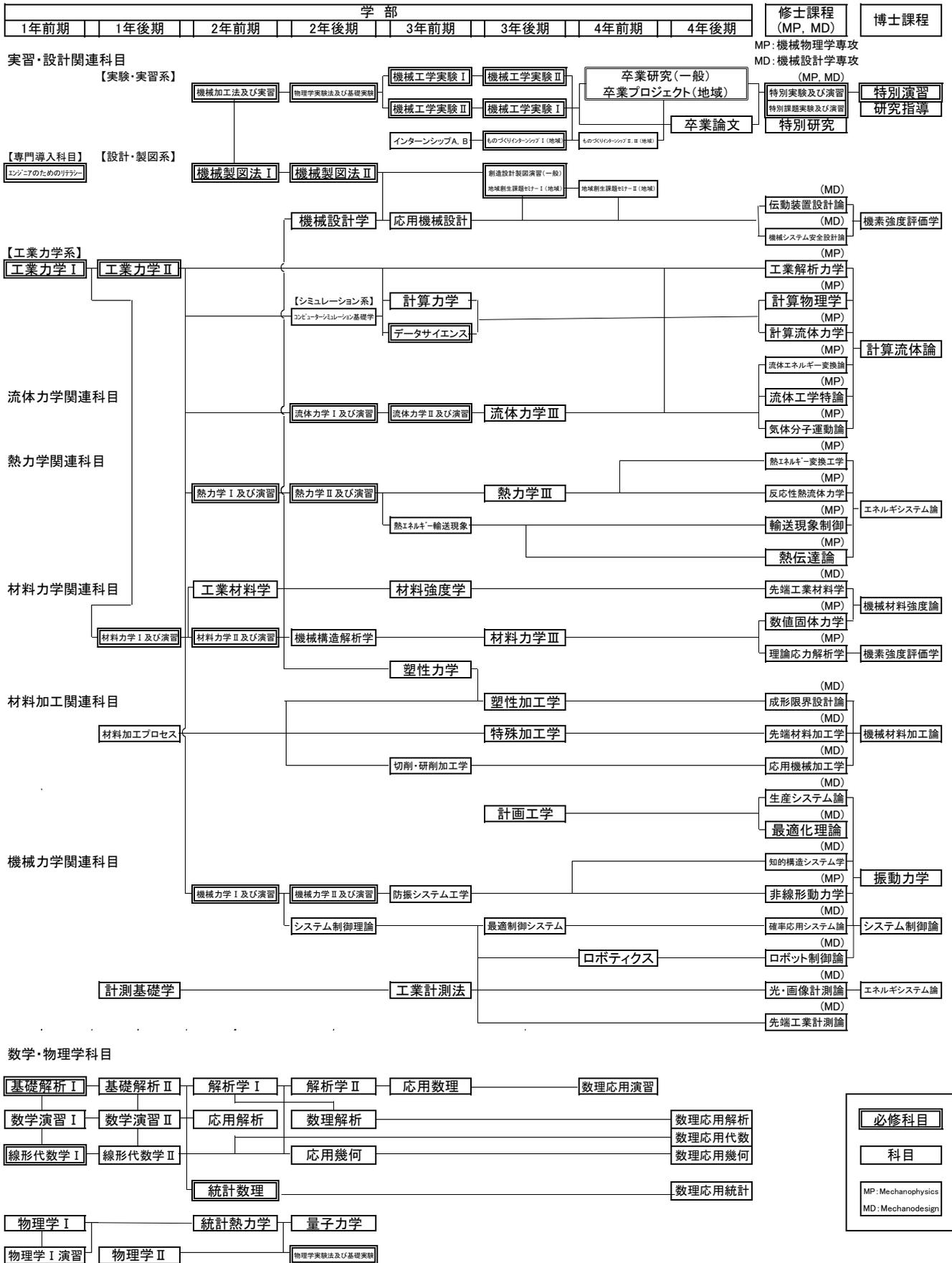
課程専門科目
機械工学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

機械工学課程

授業科目	英文授業科目	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履			
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次						
								前後	前後	前後	前後						
工業力学Ⅰ	Engineering Mechanics I	a	森脇一郎	2	講義	●	●	2								※	
		b															
工業力学Ⅱ	Engineering Mechanics II	a	機械工学課程関係教員	2	講義	●	●	2									※
		b															
材料力学Ⅰ及び演習	Strength of Materials I and Exercise		高木知弘	2	講義	●	●	2									※
材料力学Ⅱ及び演習	Strength of Materials II and Exercise		荒木栄敬	2	講義	●	●		2								※
熱力学Ⅰ及び演習	Thermodynamics I and Exercise		北川石英	2	講義	●	●		2								※
熱力学Ⅱ及び演習	Thermodynamics II and Exercise		西田耕介	2	講義	●	●			2							※
機械力学Ⅰ及び演習	Kinematics and Dynamics of Mechanical Systems I and Exercise		射場大輔	2	講義	●	●			2							※
機械力学Ⅱ及び演習	Kinematics and Dynamics of Mechanical Systems II and Exercise		増田 新	2	講義	●	●			2							※
流体力学Ⅰ及び演習	Fluid Dynamics I and Exercise		森西晃嗣	2	講義	●	●			2							※
流体力学Ⅱ及び演習	Fluid Dynamics II and Exercise		西田秀利	2	講義	●	●				2						※
機械加工法及び実習	Machining Processes and Machinshop Practice		機械工学課程関係教員	2	講義・実習	●	●			3							
データサイエンス	Data Science	機a	機械工学課程関係教員	1	演習	●	●					2					
		機b															
機械製図法Ⅰ	Mechanical Drawing I		機械工学課程関係教員	2	講義・演習	●	●			2							
機械製図法Ⅱ	Mechanical Drawing II		機械工学課程関係教員	2	講義・演習	●	●				2						
創造設計製図演習	Exercise in Creative Design	a	機械工学課程関係教員	2	演習	●	×					4					
		b															
機械工学実験Ⅰ	Mechanical Engineering Laboratory I	a	機械工学課程関係教員	1	実験	●	●					4					
		b					×						4				
機械工学実験Ⅱ	Mechanical Engineering Laboratory II	a	機械工学課程関係教員	1	実験	●	×						4				
		b										4					
		c				×	●				4						
計測基礎学	Fundamentals of Measurement Technology		村田 滋	2	講義	○	○	2									※
材料加工プロセス	Introduction to Material Processing		山口桂司	2	講義	○	○	2									※
工業材料学	Engineering Materials		森田辰郎	2	講義	○	○		2								※
切削・研削加工学	Mechanics of Cutting & Grinding		江頭 快・山口桂司	2	講義	○	○				2						※
コンピュータシミュレーション基礎学	Introduction to Computer Simulation		山川勝史	2	講義	○	○			2							※
材料力学Ⅲ	Strength of Materials III		荒木栄敬	2	講義	○	○					2					※
材料強度学	Fracture and Strength of Materials		森田辰郎	2	講義	○	○					2					※
機械構造解析学	Theory of Structural Analysis of Machine		高木知弘	2	講義	○	○			2							※
工業計測法	Industrial Instrumentation		田中洋介	2	講義	○	○				2						※
システム制御理論	Control Theory of Dynamical Systems	機	澤田祐一	2	講義	○	○				2						※
機械設計学	Mechanical Engineering Design		射場大輔・森脇一郎	2	講義	○	○				2						※
熱力学Ⅲ	Thermodynamics III		北川石英・西田耕介	2	講義	○	○					2					※
熱エネルギー輸送現象	Transport Phenomena of Thermal Energy		某	2	講義	○	○					2		2021年度は開講せず			※
流体力学Ⅲ	Fluid Dynamics III		山川勝史	2	講義	○	○					2					※
防振システム工学	Vibration of Mechanical Systems		増田 新	2	講義	○	○					2					※
最適制御システム	Optimal Control Systems		澤田祐一	2	講義	○	○						2				※
塑性力学	Engineering Plasticity		飯塚高志	2	講義	○	○					2					※
特殊加工学	Non-Traditional Machining		江頭 快	2	講義	○	○					2					※

機械工学課程科目間相互関係図



科目履修の流れと卒業要件／機械工学課程 一般プログラム（2021年度入学生用）

（卒業要件）

大分類	小分類	1年次		2年次		3年次		4年次		履修取得 単位数	
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
言語教育科目	英語	●Interactive English A ①	●Interactive English B ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ①						12 ※1	
		●Career English Basic ①	●Academic English ①	●Career English Advanced(いずれかの学期) ①							
				Active English CLIL (いずれかの学期) ①							
				Active English Listening&Speaking I (いずれかの学期) ①							
				Active English Listening&Speaking II (いずれかの学期) ①							
				Active English Reading I (いずれかの学期) ①							
				Active English Reading II (いずれかの学期) ①							
				Active English Writing I (いずれかの学期) ①							
				Active English Writing II (いずれかの学期) ①							
				Active English Project-Based Learning(いずれかの学期) ①							
工学系学 科教育科目	ドイツ語	ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ①	ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ①	ドイツ語上級B ①			2	
		ドイツ語初級発展A ①	ドイツ語初級発展B ①								
		フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ①	フランス語中級B ①	フランス語上級A ①	フランス語上級B ①				
		フランス語初級発展A ①	フランス語初級発展B ①								
		中国語初級基礎A ①	中国語初級基礎B ①	中国語中級A ①	中国語中級B ①						
		中国語初級発展A ①	中国語初級発展B ①								
		☆工学科学基礎 ①	☆国際理解 ①	☆KITスタンダード ①							
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆学業・キャリア戦略論 ②							
		☆A地球環境論 ②	☆B現代科学と倫理 ②	☆A環境と法 ②	☆B生命倫理と情報倫理 ②	☆Bテクノロジー論 ②	☆A読書マナメント ①				
		☆A国際論と情報倫理 ②	☆Aエシカル・科学 ②	☆ものづくりとデザイン論 ②	☆情報セキュリティ・情報管理 ②	☆ものづくり加工実習 ②					
工学系学 科教育科目	リーダーシップ と経営戦略	☆リーダーシップ基礎Ⅰ ②	☆リーダーシップ実践Ⅰ ②							2	
		☆リーダーシップ基礎Ⅱ ②	☆リーダーシップ実践Ⅱ ②								
		☆知的財産論 ②	☆SDGsをまなぶ ②								
		☆京都の文学Ⅰ ②	☆京都の自然 ②	☆京都の農林業 ②	☆文化遺産としての京都 ②	☆京都の伝統工芸と美 ②	☆京都の伝統工芸・取組と美 ②				
		☆京都の歴史Ⅰ ②	☆京都の文学Ⅱ ②	☆京都の文化 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化財学 ②	☆京都の伝統工芸・取組と美 ②				
		☆現代京都論 ②	☆京都の歴史Ⅱ ②	☆京都の経済 ②	☆京都の歴史と文化 ②	☆文化財学 ②	☆京都の伝統工芸・取組と美 ②				
		☆京都の産業技術史 ②	☆京都の文化と文化財 ②				☆英語で楽しむ読書 ②				
			☆京都の生活文化史(いずれかの学期) ②								
			☆学 ②	☆世間はいま ①	☆憲法 ①	☆現代社会と心 ②	☆経済学 ②	☆経営哲学 ②			
			☆心理学 ②	☆医療と社会 ②	☆政治学 ②	☆現代医療の人間性 ②	☆経済学入門 ②	☆社会学入門 ②			
人間 教育科目	人と社会	☆現代教育論 ②	☆発達心理学 ②	☆発達心理学 ②	☆現代教育の学び方 ②	☆社会学α ②				2	
		☆国際政治 ②	☆国際政治 ①	☆現代社会とジェンダー ②	☆現代社会とジェンダー ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
		☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②	☆社会学Ⅰ ②	☆社会学Ⅱ ②						
基本教 養科目	人と文化	☆日本近代精神史 ②	☆感性の実践哲学 ①	☆哲学 ②	☆ヨーロッパの歴史と文化 ②	☆フランス語圏の文化とソポニスム ②	☆舞台芸術論 ②			2	
		☆美術芸術 ②	☆アジアの歴史と文化 ②	☆歴史学 ②	☆日本史 ②	☆社会学α ②	☆社会学α ②				
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆西洋文化論 ②						
体の科学	人と自然	☆人と自然と地学α ②	☆物理学Ⅰ ②	☆物理学Ⅰ ②	☆物理学Ⅰ ②	☆物理学Ⅰ ②	☆物理学Ⅰ ②			2	
		☆人と自然と地学β ②	☆人と自然と物理学 ②	☆人と自然と物理学 ②	☆人と自然と物理学 ②	☆人と自然と物理学 ②	☆人と自然と物理学 ②				
		☆化学概論Ⅰ ②	☆化学概論Ⅱ ②	☆生命科学概論Ⅰ ②	☆生命科学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
		☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
		☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
		☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
		☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
		☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
		☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
		☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②	☆生物学概論Ⅰ ②	☆生物学概論Ⅱ ②				
体の科学	☆Cスポーツ科学Ⅰ ②	☆Cスポーツ科学Ⅰ ②	☆Cスポーツ科学Ⅰ ②	☆Cスポーツ科学Ⅰ ②	☆Cスポーツ科学Ⅰ ②	☆Cスポーツ科学Ⅰ ②	☆Cスポーツ科学Ⅰ ②			2 ※3	
		☆Cスポーツ科学Ⅱ ②	☆Cスポーツ科学Ⅱ ②	☆Cスポーツ科学Ⅱ ②	☆Cスポーツ科学Ⅱ ②	☆Cスポーツ科学Ⅱ ②	☆Cスポーツ科学Ⅱ ②	☆Cスポーツ科学Ⅱ ②			

科目履修の流れと卒業要件／機械工学課程 地域創生Tech Program (2021年度入学生用)

(卒業要件)

大分類	小分類	1年次		2年次		3年次		4年次		履修取得 単位数
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
言語教育科目	英語	●Interactive English A ①	●Interactive English B ①	●Career English Intermediate(いずれかの学期) ①						12 ※1
		●Career English Basic ①	●Academic English ①	●Career English Advanced(いずれかの学期) ①						
				Active English CLIL (いずれかの学期) ①						
				Active English Listening&Speaking I (いずれかの学期) ①						
				Active English Listening&Speaking II (いずれかの学期) ①						
				Active English Reading I (いずれかの学期) ①						
				Active English Reading II (いずれかの学期) ①						
				Active English Writing I (いずれかの学期) ①						
				Active English Writing II (いずれかの学期) ①						
				Active English Project-Based Learning(いずれかの学期) ①						
工学系学 科教育 科目	ドイツ語	ドイツ語初級基礎A ①	ドイツ語初級基礎B ①	ドイツ語中級A ①	ドイツ語中級B ①	ドイツ語上級A ①	ドイツ語上級B ①			
		ドイツ語初級演習A ①	ドイツ語初級演習B ①							
	フランス語	フランス語初級基礎A ①	フランス語初級基礎B ①	フランス語中級A ①	フランス語中級B ①	フランス語上級A ①	フランス語上級B ①			
		フランス語初級演習A ①	フランス語初級演習B ①							
	中国語	中国語初級基礎A ①	中国語初級基礎B ①	中国語中級A ①	中国語中級B ①					
		中国語初級演習A ①	中国語初級演習B ①							
	工学科学入門	☆工学科学基礎 ①	☆国際理解 ①	☆KITスタダート ①						※2
		☆キャリア教育基礎 ①	☆人権教育 ②	☆学業・キャリア戦略論 ②						
	科学技術と健康・倫理	☆A地球環境論 ②	☆B現代科学と倫理 ②	☆A環境と法 ②	☆B生命倫理と情報倫理 ②	☆Bテクノロジー論 ②	☆A読書マナメント ①			
		☆A環境と健康の共生 ②	☆Aエシカル科学 ②		☆B生命倫理と法 ②	☆Bテクノロジーと情報倫理 ②				
ものづくり と技術戦略										
リーダーシップ と経営戦略									4	
京の伝統文化 と先端									2	
人間 教養 科目	人と社会	☆法学 ②	☆世界はいま ①	☆憲法 ①	☆現代社会と心 ②	☆経済学 ②	☆経済学 ②			2
		☆心理学 ②	☆医療と社会 ②	☆政治学 ②	☆現代医療の人間性 ②	☆経済学 ②	☆経済学 ②			
	人と文化	☆現代教育論 ②	☆発達心理学 ②	☆発達心理学入門 ②	☆社会科学の学び方 ②	☆観光学α ②				2
		☆国際政治 ②	☆国際政治 ①	☆国際政治 ①	☆現代正義論 ②					
	人と自然	☆社会学I ②	☆社会学I ②	☆社会学II ②	☆現代正義論 ②					2
		☆近代社会とジェンダー ②	☆社会学II ②	☆社会学II ②	☆現代正義論 ②					
	基本教養 科目	☆日本近代精神史 ②	☆感性の実践哲学 ①	☆哲学 ②	☆ヨーロッパの歴史と文化 ②	☆フランス語圏の文 化とソポニスム ②	☆舞台芸術論 ②	☆舞台芸術論 ②		2
		☆美術芸術 ②	☆アジアの歴史と文化 ②	☆歴史学 ②	☆日本史 ②	☆フランス語圏の文 化とソポニスム ②	☆舞台芸術論 ②	☆舞台芸術論 ②		
	人と自然	☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆東西文化交流史 ②	☆文芸創作論 ②				2
		☆西洋文学論 ②	☆西洋文学論 ②	☆西洋文化論 ②	☆東西文化交流史 ②	☆文芸創作論 ②				
体の科学	☆人と自然と健康α ②	☆物理学I ②	☆物理学I ②	☆自然と健康β ②	☆生体行動科学 ②	☆医学概論 ②	☆医学概論 ②		2 ※3	
	☆人と自然と健康β ②	☆化学概論I ②	☆化学概論I ②	☆人と自然と物理学 ②	☆生体行動科学 ②	☆医学概論 ②	☆医学概論 ②			
体の科学	☆生物学概論I ②	☆生命科学講話 ②	☆生命科学講話 ②	☆健康体力科学 ②					2	
	☆生物学概論II ②	☆生命科学講話 ②	☆生命科学講話 ②	☆健康体力科学 ②						
体の科学	☆医療人類学 ②	☆医療人類学 ②	☆医療人類学 ②	☆医療人類学 ②					2	
	☆医療人類学 ②	☆医療人類学 ②	☆医療人類学 ②	☆医療人類学 ②						
体の科学	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②					2	
	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②						
体の科学	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②					2	
	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②	☆キャリアデザイン論 ②						

(卒業要件)

大分類	1年次		2年次		3年次		4年次		最低修得単位数	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期		
専門導入科目	② ●オンライン授業科目(60分授業) ●基礎課題導入セミナー①								3	
数学	●基礎解析① ●線形代数Ⅰ② ●微分積分Ⅰ② ●数学演習Ⅰ②	② ●基礎解析Ⅱ② ●線形代数Ⅱ② ●数学演習Ⅱ②	② ●解析学Ⅰ② ●統計学② ●応用解析②	② ●解析学Ⅱ② ●応用線形代数② ●数学解析②	② ●応用数学Ⅰ② ●応用数学Ⅱ② ●数学解析②	② ●応用数学Ⅲ② ●応用数学Ⅳ② ●数学解析②	② ●応用数学Ⅴ② ●応用数学Ⅵ② ●数学解析②	② ●応用数学Ⅶ② ●応用数学Ⅷ② ●数学解析②	② ●応用数学Ⅸ② ●応用数学Ⅹ② ●数学解析②	3
物理学	●物理学Ⅰ② ●物理学Ⅱ②	② ●物理学Ⅲ② ●物理学Ⅳ②	② ●統計熱力学②	② ●量子力学②	② ●物理学Ⅴ② ●物理学Ⅵ②	② ●物理学Ⅶ② ●物理学Ⅷ②	② ●物理学Ⅸ② ●物理学Ⅹ②	② ●物理学Ⅺ② ●物理学Ⅻ②	② ●物理学Ⅼ② ●物理学Ⅽ②	3
化学・生物学 情報・その他	●化学Ⅰ② ●生物学Ⅰ②	② ●化学Ⅱ② ●生物学Ⅱ②	② ●スポーツバイオメカニクス②	② ●量子力学②	② ●物理学Ⅴ② ●物理学Ⅵ②	② ●物理学Ⅶ② ●物理学Ⅷ②	② ●物理学Ⅸ② ●物理学Ⅹ②	② ●物理学Ⅺ② ●物理学Ⅻ②	② ●物理学Ⅼ② ●物理学Ⅽ②	3
知的財産	●知的財産概論Ⅰ② ●知的財産概論Ⅱ②	② ●知的財産概論Ⅲ② ●知的財産概論Ⅳ②	② ●知的財産概論Ⅴ② ●知的財産概論Ⅵ②	② ●知的財産概論Ⅶ② ●知的財産概論Ⅷ②	② ●知的財産概論Ⅸ② ●知的財産概論Ⅹ②	② ●知的財産概論Ⅺ② ●知的財産概論Ⅻ②	② ●知的財産概論Ⅼ② ●知的財産概論Ⅽ②	② ●知的財産概論Ⅾ② ●知的財産概論Ⅿ②	② ●知的財産概論ⅰ② ●知的財産概論ⅱ②	3
複合材料	●複合材料Ⅰ② ●複合材料Ⅱ②	② ●複合材料Ⅲ② ●複合材料Ⅳ②	② ●複合材料Ⅴ② ●複合材料Ⅵ②	② ●複合材料Ⅶ② ●複合材料Ⅷ②	② ●複合材料Ⅸ② ●複合材料Ⅹ②	② ●複合材料Ⅺ② ●複合材料Ⅻ②	② ●複合材料Ⅼ② ●複合材料Ⅽ②	② ●複合材料Ⅾ② ●複合材料Ⅿ②	② ●複合材料ⅰ② ●複合材料ⅱ②	3
必修科目	●工業力学Ⅰ② ●材料力学Ⅰ及び演習② ●材料力学Ⅱ及び演習② ●機械力学Ⅰ及び演習② ●機械力学Ⅱ及び演習② ●機械図法Ⅰ② ●機械図法Ⅱ② ●機械加工法Ⅰ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅱ② ●材料力学Ⅲ及び演習② ●材料力学Ⅳ及び演習② ●機械力学Ⅲ及び演習② ●機械力学Ⅳ及び演習② ●機械図法Ⅲ② ●機械図法Ⅳ② ●機械加工法Ⅱ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅰ及び演習② ●材料力学Ⅰ及び演習② ●材料力学Ⅱ及び演習② ●機械力学Ⅰ及び演習② ●機械力学Ⅱ及び演習② ●機械図法Ⅰ② ●機械図法Ⅱ② ●機械加工法Ⅰ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅱ② ●材料力学Ⅲ及び演習② ●材料力学Ⅳ及び演習② ●機械力学Ⅲ及び演習② ●機械力学Ⅳ及び演習② ●機械図法Ⅲ② ●機械図法Ⅳ② ●機械加工法Ⅱ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅲ② ●材料力学Ⅴ及び演習② ●材料力学Ⅵ及び演習② ●機械力学Ⅴ及び演習② ●機械力学Ⅵ及び演習② ●機械図法Ⅴ② ●機械図法Ⅵ② ●機械加工法Ⅲ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅳ② ●材料力学Ⅶ及び演習② ●材料力学Ⅷ及び演習② ●機械力学Ⅶ及び演習② ●機械力学Ⅷ及び演習② ●機械図法Ⅶ② ●機械図法Ⅷ② ●機械加工法Ⅳ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅴ② ●材料力学Ⅸ及び演習② ●材料力学Ⅹ及び演習② ●機械力学Ⅸ及び演習② ●機械力学Ⅹ及び演習② ●機械図法Ⅸ② ●機械図法Ⅹ② ●機械加工法Ⅴ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅵ② ●材料力学Ⅺ及び演習② ●材料力学Ⅻ及び演習② ●機械力学Ⅺ及び演習② ●機械力学Ⅻ及び演習② ●機械図法Ⅺ② ●機械図法Ⅻ② ●機械加工法Ⅵ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	② ●工業力学Ⅶ② ●材料力学Ⅼ及び演習② ●材料力学Ⅽ及び演習② ●機械力学Ⅼ及び演習② ●機械力学Ⅽ及び演習② ●機械図法Ⅼ② ●機械図法Ⅽ② ●機械加工法Ⅶ② ●工業材料学② ●材料加工プロセス②	35
選択科目										20
卒業プロジェクト必修										8

注

- 科目名の右側の数字は、単位数を表している。
- を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。
- ※1：言語教育科目の最低修得単位数には、●6単位を含む。
- ※2：科学技術と環境・倫理の最低修得単位数には☆A2単位及び☆B2単位を含む。
- ※3：体の科学の最低修得単位数には、☆C2単位を含む。
- ※4：「人間教養科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。
- ※5：専門基礎科目の最低修得単位数には、●8単位及び☆14単位を含む。
- ※6：この単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。

機械工学課程 地域創生Tech Program

履修規則別表第7

卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数

■設計工学域

授業科目区分 課 程	全学共通科目														専門教育科目					備 考	
	言語教育科目				人間教養科目						専門基礎科目				課程専門科目						総合計
	英語 必修	選択	言語教育科目合計		工学科学教養科目		基本教養科目				選択 必修	選択 必修	専門基礎科目合計		必修	選択 必修	卒業 研究・ 卒業 プロジェクト 必修	課程 専門 科目 合計	専門 教育 科目 合計		
			工学 科学 入門	科学 技術と 環境・ 倫理	もの つくりと 技術 戦略	リー ダー シップ 経営 戦略	京の 伝統 文化 と 先端	工学 科学 教養 科目 合計	人と 社会	人と 自然			基本 教養 科目 合計	体 の 科 学							人間 教養 科目 合計 (注3)
電子システム工学課程	一般 プログラム	6	10	2	6						4	16	2	8	12	20	24	24	70	110*	*を付した単位数には、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program												3	14							
情報工学課程	一般 プログラム	6	10	2	8						4	18	4	8	8	18	20	20	70	114*	*を付した単位数には、合計10単位を限度として、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。 (†)数学科目から6単位以上修得すること。
	地域創生 Tech Program			2	10							20	4	4	8	18	18	22	70	114*	
機械工学課程	一般 プログラム	6	10	2	6						6	20	2	8	8	18	27	31	65	110*	*を付した単位数には、特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。
	地域創生 Tech Program			☆A より 2	☆B より 2						☆C より 2	2	4	2	2	2	2	2	65	110*	

注1. 表中の数字は、最低限必要な修得単位数を示す。
 注2. 教職関係科目及び学芸員科目は、総合計には含まれない。
 注3. 「人間教養科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立医科大学、京都府立医科大学）連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。

デザイン科学域

1. 学域の紹介

本学草創の「工芸」を基とし発展してきたこの学問領域は、未来に起点をおき、空間と感性と事象を先導的に変革させていく新たな建築学とデザイン学の2専攻で構成されます。地球規模で考えながら、京都という場でしか掘り得ない能力を磨くこと、これを〈KYOTO デザイン〉と銘打っています。〈KYOTO デザイン〉とは、

- ① 生きた伝統と先進的マインドで生活を革新するデザイン力(Hybrid)
- ② 持続する京都で構想される未来起点の再生・価値創造力(Revitalization)
- ③ グローバルな知が揺籃される京都で可能なボーダーを超越した起業力(Catalysis)

の能力開発を目指すものです。このデザインマインドにより、環境における空間的広がりと時間的厚みを未来に向けて高次元に統合し構想する人材を育成します。

その基礎となる課程においては、実習課題は、1年次前学期には、共通のデザイン・建築学基礎教育を受け、デザイン学・建築学の全体的な視野を獲得し、1年次後学期からは、デザイン系実習と建築設計実習とに分かれ、それぞれの専門分野での基礎的な知識・技能を学びます。課題の内容は、デザイン・建築ともきわめて幅広いものとなりますが、いずれも実習による作業が伴います。1年次から学生個人の実習スペースが確保されており、学生は自ら課題に取り組みつつ、他課題を選択した学生の実習プロセスも間近で経験することができます。

課程で定める所定の科目を所定の単位数以上修得し卒業すれば、二級建築士試験および木造建築士試験の受験資格が与えられます。また、建築課題コースに進んだ者が、課程の定める一級建築士に必要な所定の科目を所定の単位数以上取得し卒業すれば、一級建築士試験の受験資格が得られます。さらに、美術工芸資料館との連携と所定科目の履修によって学芸員資格を取得することもできます。

なお、この学域の大学院博士前期課程には、時代に応じて変化する社会的課題にデザイン思考により対応できる人材の育成と学芸員養成を主とするデザイン学専攻、建築設計と都市・建築再生の方法研究する建築学専攻の2専攻があります。これらの専攻の入試英語においては、TOEICのスコアが採用されています。大学院進学を考えている人は十分な準備とTOEICの受験を心がけておいてください。

大学院博士後期課程は、前期課程2専攻の上にそれぞれデザイン学専攻、建築学専攻が設置されています。

2. 学域の専門基礎科目

「専門基礎科目」のうち、数学、物理学、化学・生物学の科目群は、各専門分野の基礎や背景を支える知の体系である科学(science)を構成する分野の基礎的な内容から成ります。これらは自然

界や人間社会を探究するための知的活動ですが、数学は科学と技術の共通の「言語」としての基本的な役割も担っています。これらの科目群では、専門課程への準備と同時に、現代社会を豊かに生きるための基本的な素養を提供します。

また、「専門基礎科目」のうち、造形基礎の科目群は絵画実習であり、建築・デザイン両分野で必要となる、描写と表現の基本的技術の習得を目的としています。

さらに、その他の科目群は、インターンシップ A、B からなり、建築・デザイン分野の企業等での業務を体験することにより、造形科学に関わる将来の専攻や職業に関連した実践的な知識や技能を修得する機会を提供します。

数学：

数学はあらゆる現象を数量や図形間の関係としてとらえ、論理の力で問題を解明しようという学問です。

1年次では、「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」、「数学演習Ⅰ、Ⅱ」が提供されています。「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」では、まずⅠにおいて高校で学んだ1変数の微分積分学についてより統一的な高い立場から講義し、Ⅱで多変数の微分である偏微分法、また力学の運動方程式を始めとして多くの自然現象を解析するのに必要な微分方程式の基本的な取り扱いについて講義します。「線形代数学Ⅰ、Ⅱ」では、自然科学や人文社会科学でも重要となる、多変量の見通しよい取扱いや、行列や行列式について講義します。「数学演習Ⅰ、Ⅱ」ではこれらの科目の演習を行います。原則として「基礎解析Ⅰ、Ⅱ」に引き続くように配置され微積分学に重点を置いた演習を行います。

2年次では確率統計の基礎を与える「統計数理」が提供されています。

物理学：

力学、電磁気学は、ほとんどすべての工学分野で要求される科学的な考察と演繹の方法を学ぶための基礎科目です。その入り口となる「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」の講義では、微積分やベクトルなどの数学的手法を使って、物理現象の基本法則を記述し、それに基づいて定量的・定式的な推察や考察を行うことで、物体の運動や種々の電磁気現象を支配する規則、力やエネルギーや電磁場の概念などを正しく理解することを目標とします。「力学」の講義では、「物理学Ⅰ」で学ぶ質点の力学を、質点系や剛体の力学へと段階的に発展させ、より一般的な力学現象の扱い方を修得するとともに、上級学年で学ぶ物理系専門基礎科目を理解するための基礎知識を得ることを目的としています。

「量子力学」は、原子、分子レベルの微視的世界の物理現象を説明する理論体系であり、「統計熱力学」は、この微視的世界と我々の回りの巨視的世界をつなぐ理論体系です。講義ではこれらの分野への入門として、その基礎的概念を修得し、微視的現象に関する理解を深め、具体的な問題への応用力を養うことを目的としています。

化学：

化学は、物質の構造とその性質、さらには物質間の相互作用や反応による変化を追求する自然

科学です。私たち自身を含む世界中のあらゆる物質が対象となるため、化学は基盤科学の主要な一分野となっています。

「化学Ⅰ」では、あらゆる化学の基礎となる、原子の構造、周期表と元素、化学結合について概説し、続いて化学と人間社会との密接な関係についても学びます。「化学Ⅱ」ではさらに、これらの知識を基にして化学と生命現象との関わり等について学んでいきます。また、「環境化学」では、環境汚染や地球環境に関する諸問題について化学の立場から概説します。

生物学：

「生物学Ⅰ、Ⅱ」は生物の基本単位である細胞の構造、遺伝、神経やホルモンのような調節の仕組み、動物、植物、微生物などの生命の多様性などについて概説する講義で、生命現象の基本的仕組みと多様性の重要性について理解することを目的としています。

造形基礎：

「絵画実習」は、画材を用いた描写と表現の実技からデザインの基礎となる諸能力を養成するもので、自然環境や人間、モデルを深く観察し、表現を開拓し、描写を探求する実習を行います。

情報：

種々の媒体（メディア）を介して得られる多種多様な情報をコンピュータ上で処理（変換、伝達、表現および蓄積の総称）する基本的な方法について、「情報リテラシー概論」という講義で学びます。

3. インターンシップ

「インターンシップ A、B」は、それぞれ約1週間（45 時間）と2週間（90 時間）の期間、建築・デザイン分野の企業等での職業体験（研修）を行うことにより、これらの分野での実践的な知識や技能を修得することを目的としています。また、将来、大学院に進学する場合、および職業を選択する場合の参考となる体験的知識の習得も目的としています。

専門教育科目
デザイン科学域

専門導入科目（デザイン科学域）

履修区分欄の●は必修科目、×は履修不可科目を示す。

専門導入科目（デザイン科学域）

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目 名	ク ラ ス	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	履修区分		週授業時間数								備 考	合 格 再 履
						デザイン科学域											
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次			
						デザ 建築	デザ 建築	前	後	前	後	前	後	前	後		
ソーシャルインタラクションデザイン概論	Introduction to Social Interaction Design		デザイン・建築学課程 関係教員	2	講義	●	●	2									
デザイン・建築基礎実習	Basic of Architecture and Design		デザイン・建築学課程 関係教員	2	実習	●	●	6									
地域課題導入セミナー	Introduction seminar with regional challenges	da	大谷章夫・桑原教彰・井 野晴洋・YU ANNIE・ (崔童殷)	1	演習	×	●	2									集中授業

専門基礎科目（デザイン科学域）

- 履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、*は卒業要件外科目、×は履修不可科目であることを示す。
- クラス欄に表示のある科目については、毎年度配布する「クラス配当表」に従い、履修すること。

専門基礎科目（デザイン科学域）

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履				
						デザイン科学域		1年次		2年次					3年次		4年次	
						一般	地域	前	後	前	後				前	後	前	後
数 学																		
基礎解析Ⅰ	Basic Calculus Ⅰ	da	(佐々木建祀郎)	2	講義	☆	☆	2										
		db	武石拓也	2	講義	☆	☆	2										
基礎解析Ⅱ	Basic Calculus Ⅱ	da	(佐々木建祀郎)	2	講義	☆	☆	2										
線形代数学Ⅰ	Linear Algebra Ⅰ	da	(神 貞介)	2	講義	☆	☆	2										
		db	奥山裕介	2	講義	☆	☆	2										
線形代数学Ⅱ	Linear Algebra Ⅱ	da	(神 貞介)	2	講義	☆	☆	2										
		db	奥山裕介	2	講義	☆	☆	2							再履修者用 2021年度は開講しない			
数学演習Ⅰ	Exercises in Mathematics Ⅰ	da	(佐々木建祀郎)	2	講義・演習	☆	☆	2										
		db	武石拓也	2	講義・演習	☆	☆	2										
数学演習Ⅱ	Exercises in Mathematics Ⅱ	da	(佐々木建祀郎)	2	講義・演習	☆	☆	2										
統計数理	Mathematical Statistics	da	磯崎泰樹	2	講義	☆	☆		2						※			
物理学																		
物理学Ⅰ	Physics Ⅰ	da	萩原 亮	2	講義	☆	☆	2										
物理学Ⅱ	Physics Ⅱ	da	一色俊之	2	講義	☆	☆	2										
力学	Mechanics	da	(播磨 弘)	2	講義	☆	☆	2							※			
統計熱力学	Statistical Thermophysics	da	一色俊之	2	講義	☆	☆		2						※ ※			
量子力学	Quantum Mechanics	da	三瓶明希夫	2	講義	☆	☆			2					※ ※			
化学・生物学・その他																		
化学Ⅰ	Fundamental Chemistry Ⅰ	da	中 建介	2	講義	☆	☆	2										
生物学Ⅰ	Biology Ⅰ	da	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2										
化学Ⅱ	Fundamental Chemistry Ⅱ	da	麻生祐司	2	講義	☆	☆	2										
生物学Ⅱ	Biology Ⅱ	da	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	☆	☆	2										
新先端ファイブ科学		da	先端ファイブ科学専攻関係教員	2	講義	○	○	2										
図学	Descriptive Geometry	da	岩本 馨 (LI ANDREW I KANG)	2	講義	☆	☆			2								
生体機能論	Functioning of the Human Body	da	芳田哲也	2	講義	☆	☆				2							
インターンシップA	InternShip A	da	デザイン・建築学課程長	1	実習	○	○				3			45時間（約1週間）を目安とする。	※			
インターンシップB	InternShip B	da	デザイン・建築学課程長	2	実習	○	○				6			大学コンソーシアム京都が提供するものを含む。90時間（約2週間）を目安とする。	※			
スポーツバイオメカニクス	Sports Biomechanics	da	来田宣幸	2	講義	○	○		2						集中授業			
環境化学	Environmental Chemistry	da	布施泰朗	2	講義	☆	☆				2							
情報																		
情報リテラシー概論	Introduction to Computer Literacy		三村 充	2	講義	☆	☆	2										
先端情報工学概論	Introduction of Advanced Information Engineering	da	桑原教彰(辻愛里)	2	講義	×	○				4			第3クォーター 福知山キャンパス開講科目				
造形基礎																		
絵画実習	Drawing		(中塚裕子)・(木原千衣子)	1	実習	○	○	3										

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履								
						デザイン科学域		1年次				2年次							3年次				4年次			
						一般	地域	前		後		前		後					前		後		前		後	
						デザ建築	デザ建築																			
知的財産																										
アントレプレナーシップ概論	Introduction of Entrepreneurship	da	(小林弘樹)	2	講義	*	☆					2							集中授業							
知的財産概論Ⅰ	Introduction of Intellectual Property I	da	(小澤壯夫)	2	講義	*	☆					2														
知的財産概論Ⅱ	Introduction of Intellectual Property II	da	(齊藤真大)	2	講義	*	☆						2													
特許法・実用新案法Ⅰ	Patent Law & Utility Mode Law I	da	(喜多俊文)	2	講義	*	☆					2														
特許法・実用新案法Ⅱ	Patent Law & Utility Mode Law II	da	(本田史樹)	2	講義	*	☆						2													
知的財産演習	Exercise of Intellectual Property	da	(塩川信明)	1	演習	*	☆							2												
民法概論Ⅰ	Introduction of Code Civil I	da	(村尾太久)	2	講義	*	☆						2													
民法概論Ⅱ	Introduction of Code Civil II	da	(村尾太久)	2	講義	*	☆							2												
複合材料																										
繊維科学概論	Introduction to Textile Science	da	大谷章夫	1	講義	×	○								2				第3クォーター 福知山キャンパス開 講科目							
複合材料科学	Composite Materials Science	da	大谷章夫	2	講義	×	○								4				第3クォーター 福知山キャンパス開 講科目							
先端複合材料学	Advanced Composite Materials Science	da	大谷章夫	2	講義	×	○								4				第4クォーター 福知山キャンパス開 講科目							
複合材料基礎実験	Laboratory Work in Composite Materials	da	大谷章夫	1	実験	×	○								6				第3クォーター 福知山キャンパス開 講科目							
複合材料ものづくり実験	Manufacturing Processes for Composite Materials	da	大谷章夫	1	実験	×	○									6			第1クォーター 福知山キャンパス開 講科目							

デザイン・建築学課程

1. 課程の紹介

大量生産・大量消費のフロー型社会から、資源の活用に基づくストック型社会への転換が求められるようになった今日、新築建物のための技術だけが建築学で学ぶ技術ではなくなっており、社会の中でどのような建築物を作り、あるいは再生することが「持続可能な社会」を実現できる方法となるのか、そのための知識と技能を身に付けることが強く求められています。

そのため、課程の建築コースでは、工学技術を基礎としながらも、設計を主体とした教育を施します。また既存の建築や都市の再生を目指す建築設計に特化した都市・建築再生への基礎教育を施します。

一方、現代社会が直面する諸問題の解決には、人の意識と感性、社会・経済の構造、そしてミクロ・マクロの生活環境変化に対する深い理解とそれら知見の統合が必要となります。つまり、モノの造形を越えたより広い概念の「デザイン」とそれを実践できる人材が、今、そしてこれからの社会で強く求められています。課程のデザインコースでは工学的ものづくり基盤を活かし、未来価値を新たな方法論で創造できる人材育成や、デザイン・美術・建築などの過去現在価値に対する歴史・理論的洞察を行ないます。

2. 教育目標

歴史と先端が同居する京都という地の特性を活かして、〈KYOTO デザイン〉教育、すなわち地域に根ざすと同時に国際的な競争力のある都市・建築教育を行い、建築家、建築技術者、都市プランナー、修復建築家等の高い実践力を持つ人材を育成します。また、プロダクト、ヴィジュアル、スペース等ものづくりに関わる専門的デザイン能力をベースにしていますが、一方でこうしたものづくりに留まらず、産業構造の変化等を見据え、時代に応じて変化する社会的な課題に対し、「デザイン思考」の展開によって新たなサービスの創造や社会実装化に期待が向けられてきています。そのために異分野の専門家とも積極的に協働して、デザインの知識を活かしたイノベーション（Design Driven Innovation）を実現できる人材を養成します。

3. 教育プログラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）

建築設計教育として、建築をとりまく住環境・都市環境・自然環境、その共生に向けた生態学的知識や、環境コントロール技術をマネジメントするとともに、それらをより高い芸術性の中で取りまとめられる能力を修得させます。我が国の一級建築士資格のみならず建築実務における職能の国際推奨基準に対応しつつ、以下の方針に基づく高度な職能教育カリキュラムを編成しています。デザイン学では、デザイン理論とデザイン実習、さらにビジネスやテクノロジー系の理論や演習を通して、生活をデザインの力によって形成していく広範な知識と技術を修

得していきます。

4. 教育プログラムのしくみ

専門科目のカリキュラムは、必修の専門導入科目、専門基礎科目（選択必修科目と選択科目で構成されます）に加え、A群科目（建築系）、B群科目（デザイン系）、C群科目（芸術系）、D群科目（制作実習・演習）とE群科目（マネジメント&エンジニアリング系）の選択必修科目、幅広い分野にわたる選択科目、そして必修の卒業研究（卒業設計）があります。これらの科目をバランスよく学習すれば、21世紀社会の暮らしを心から豊かにする総合的造形力を、デザインや建築の実習とその基礎となる造形理論、人文社会科学、工学を学びながら、着実に身につけることができるように設計されており、将来、デザインや建築の専門家、またデザインマインドやビジネスマインドをもった実践家・技術者・研究者になる人にとって有益なプログラムとなっています。

本課程の特長は、他の国公立工科系大学に比して圧倒的に充実した実習教育にあると言えます。1年次前学期の「デザイン・建築基礎実習」では幅広く造形とマネジメントやエンジニアリングに関する基礎教育が提供されます。この実習を通して、デザイン・建築学の全体的な視野を獲得し、個々の学生が将来進むべき方向を明確にすることを目指しています。1年次後学期以降は、デザイン系あるいは建築系の実習を選択して履修することになります。1年次後学期は、デザイン系、建築系いずれかの「デザイン・建築表現演習」、加えてデザインコースでは「ソーシャルインタラクションデザイン演習」を、2年次の実習では、「プロジェクトデザインⅠ・Ⅱ」あるいは「建築設計実習Ⅰ・Ⅱ」のいずれかを、そして3年次は「プロジェクトデザインⅢ・Ⅳ」あるいは「建築設計実習Ⅲ・Ⅳ」のいずれかを行うこととなります（なお、二級建築士を希望する学生のために「建築設計製図Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」も用意されています）。

それぞれの実習・演習の特徴は以下のとおりです。

- ① デザイン実習：モノづくりの技術的・制度的な仕組みや社会実装化までを総合的に実践できる素養を身につけることを目的とした、デザイン、ビジネス、テクノロジーに関する教育プログラムを通して、身のまわりのモノや情報、生活・社会環境までの広い範囲を対象としたデザインに関する考え方や手法を習得していきます。
- ② 建築実習：小規模施設から都市設計に至るまでの建築設計課題を通して、建築意匠設計、建築保存・再生計画・設計、環境工学・建築設備設計、建築構造設計など、建築に関する様々な技術を習得していきます。

3年次の「プロジェクトデザインⅢ・Ⅳ」と「建築設計実習Ⅳ」、および4年次の「デザイン・建築学演習」では、デザイン・建築学の多数の専門分野ごとの実習課題が提供され、これらの中のいずれかの専門分野の課題に取り組むこととなります。各課題への割り当ては、学生の志望を重視して行われますが、効果的な指導を行うために課題毎の上限人数も設定されてお

り、希望通りにならないこともあります。また、卒業研究（卒業設計）は、原則的に、3年次後学期以降の指導教員のゼミで行うことになります。

また、実習課題や学生作品は、学生が主体で運営されている東1号館のギャラリーmocoやエレベータ・ホールで展示され、学生は自ら行う課題に加え、他課題を選択した学生の作品も見ることができます。課題講評会が公開で行われる場合もあります。さらに、卒業作品や卒業研究の内容は、学外で行う展覧会で公開しています。

3年次末には、専門的知識の学修度合をはかるための達成度試験を実施します。この成績とGPAを参考にして、本学大学院の3×3特別推薦入試に対する課程からの推薦者を決定します。3×3特別推薦入試に合格した学生は、学部4年次を「MO（エムゼロ）」とみなし修士課程の2年間と合わせた3年間の一貫したプログラムによる学修および研究を行います。

卒業研究を履修するための単位修得の要件（履修規則別表第7「卒業研究又は卒業プロジェクト履修のために必要な単位数」参照）には十分注意しておいてください。また、卒業後、建築士の受験資格を得るためには、建築士試験指定科目を履修する必要があります。

履修計画の参考のために、「実習課題の流れ」、「課程専門科目の分類」及び「科目履修の流れと卒業要件」を課程専門科目の教科課程表の後に示します。

5. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

デザイン・建築の制作・製作に関わる基本工学技術を踏まえ、アイデアをモノ・コトに展開する実現力（表現力）や経営的知識・工学的知識・技術といった基礎を身につけた上で、PBL教育の展開によってディレクション能力やコミュニケーション能力、マネジメント能力といった応用的能力に関する素養を身に付けていることが認められれば、学士（工学）の学位が授与されます。

具体的には、

1. デザインや建築の制作・製作のための基本技術を有している。
2. 柔軟な感性と創造力及びビジネスマインドを有している。
3. 科学的な思考力と判断力を有している。
4. デザイン、ビジネス、テクノロジーを横断した広い視野を有している。
5. 社会構造・生活環境・経済環境についての広範な知識を有している。

です。これらは、科目群毎に設定された課程の卒業に必要な条件（履修規則別表第4「卒業認定に必要な単位数」参照）を満たすとともに、卒業研究・制作における、持続的な取り組みの評価、公開審査などの試問を通して達成度と質疑回答能力によって判定されます。

6. 資格等

デザイン・建築学課程では、前述のように、必要な建築士試験指定科目の単位を修得すれば、卒業と同時に二級建築士試験および木造建築士試験の受験資格が得られます。また、建築課題

コースに進んだ者が、課程の定める一級建築士に必要な所定の科目を所定の単位数以上取得し卒業すれば、一級建築士試験の受験資格が得られます。また、社団法人商業施設技術者・団体連合会の指定講習会を受講すれば、卒業後、課程長の推薦によって「商業施設士補」の資格が得られます。このほかに、所定の単位を修得すれば、「学芸員資格」が得られます。

さらに、所定の単位を修得し、本学を卒業して一定の実務経験を経れば、「技術検定(1級・2級)の受験資格」が得られます。技術検定(1級・2級)の詳細については、「Ⅷ. 技術検定の受験資格の取得について」を参照してください。

課程専門科目

デザイン・建築学課程

履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目、×は履修不可科目を示す。

デザイン・建築学課程

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数				備考	下履修	合格再履		
						一般	地域	1年次	2年次	3年次	4年次					
								前後	前後	前後	前後					
基礎演習科目																
デザイン・建築表現演習	Exercise in Architecture and Design Representation		デザイン・建築学課程関係教員	3	演習	☆D	☆D	6						デザイン課題コースと建築課題コースにより内容が異なる		
ソーシャルインタラクションデザイン演習	Basic of Social Interaction Design		デザイン・建築学課程関係教員	3	演習	☆D	☆D	6								
建築実習科目																
建築設計実習Ⅰ	Architecture Design Studio I		建築設計実習関係教員	4	実習	☆D	☆D		12							
建築設計実習Ⅱ	Architecture Design Studio II		建築設計実習関係教員・(矢田朝士)・(坂東幸輔)	4	実習	☆D	☆D			12						
建築設計実習Ⅲ	Architecture Design Studio III		建築設計実習関係教員・(石崎智貴)・(大真真樹)	4	実習	☆D	☆D				12					
建築設計実習Ⅳ	Architecture Design Studio IV		建築設計実習関係教員	4	実習	☆D	○					12				
デザイン実習科目(PBL)																
プロジェクトデザインⅠ	Project Design I		デザイン実習関係教員	4	実習	☆D	☆D		12							
プロジェクトデザインⅡ	Project Design II		デザイン実習関係教員	4	実習	☆D	☆D			12						
プロジェクトデザインⅢ	Project Design III		デザイン実習関係教員	4	実習	☆D	☆D				12					
プロジェクトデザインⅣ	Project Design IV		デザイン実習関係教員	4	実習	☆D	○					12				
建築理論科目																
建築構造力学Ⅰ	Structural Mechanics I		満田衛資・金尾伊織・村本真・小島紘太郎	2	講義	☆A	☆A	2								※
建築構造力学Ⅱ	Structural Mechanics II		満田衛資・金尾伊織・村本真・小島紘太郎	2	講義	○	○		2							※
建築構造力学Ⅲ	Structural Mechanics III		満田衛資・金尾伊織・村本真・小島紘太郎	2	講義	○	○			2						※
建築計画Ⅰ	Architectural Planning : Synthetic Theory		阪田弘一・高木真人	2	講義	☆A	☆A		2							※
建築計画Ⅱ	Architectural Planning : Design Methodology		阪田弘一・高木真人	2	講義	☆A	☆A			2						※
環境調整Ⅰ	Building and Urban Physics I		芝池英樹	2	講義	☆A	☆A		2							※
環境調整Ⅱ	Building and Urban Physics II		芝池英樹	2	講義	○	○			2						※
建築構造設計Ⅰ	Structural Design I		金尾伊織・満田衛資・村本真・(細野久幸)・小島紘太郎	2	講義	○	○			2						※
建築構造設計Ⅱ	Structural Design II		金尾伊織・満田衛資・村本真・小島紘太郎	2	講義	○	○				2					※
都市史Ⅰ	Urban History I	da	岩本 馨	2	講義	☆A	☆A			2						※
		db	MARTINEZ,Alejandro	2	講義	☆A	☆A				2			留学生向け科目		※
都市史Ⅱ	Urban History II		小野芳朗・井戸美里	2	講義	☆A	☆A				2					※
都市史Ⅲ	Urban History III		大田省一・赤松加寿江	2	講義	☆A	☆A					2		地域創生Tech Programの学生のみ下履修可		※
建築構造	Building Structural System		長坂大・角田暁治・金尾伊織・満田衛資・村本真・小島紘太郎	2	講義	☆A	☆A		2							※
西洋建築史	History of European Architecture		西田雅嗣	2	講義	☆A	☆A		2							※
日本建築史	History of Japanese Architecture	da	清水重敦・登谷伸宏	2	講義	☆A	☆A			2						※
		db	MARTINEZ,Alejandro	2	講義	☆A	☆A				2			留学生向け科目		※
東洋建築史	History of Asian Architecture		大田省一	2	講義	☆A	☆A				2					※
近代建築史	History of Modern Architecture		西田雅嗣・松隈 洋・笠原一人	2	講義	☆A	☆A				2					※
造形材料	Building and Product Materials		中山利恵・村本真	2	講義	☆A	☆A			2						※
建築職能論	Architectural Professionalism		長坂大・角田暁治・木下昌大	2	講義	☆A	☆A				2					※

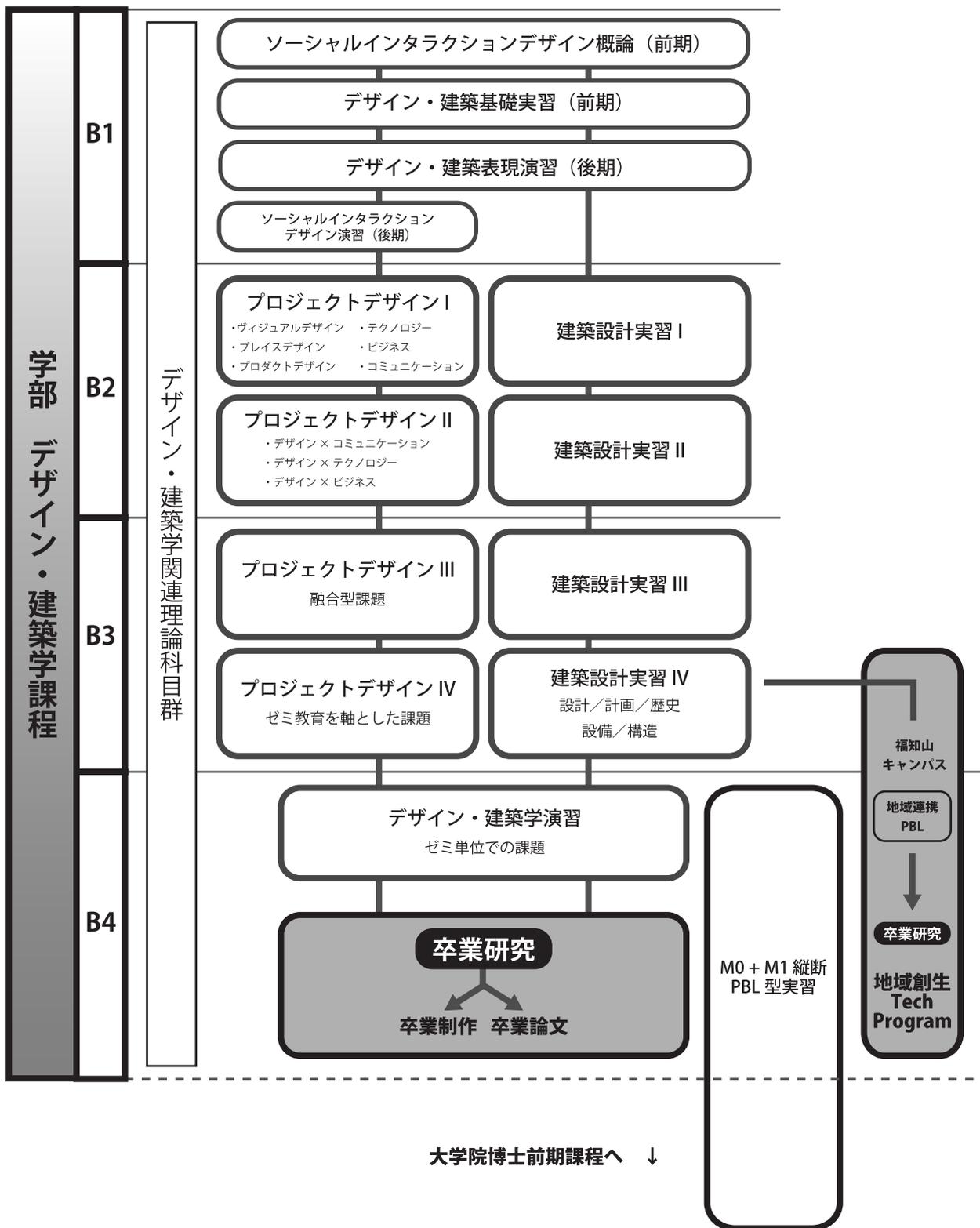
授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履		
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次						
								前	後	前	後	前	後	前	後					
環境デザイン論	Theory of Environmental Design		松隈 洋・登谷伸宏・赤松加寿江・中村 潔	2	講義	☆A	☆A						2					※	※	
景観論	Theory of Landscape		清水重敦・太田省一・赤松加寿江	2	講義	☆A	☆A						2						※	
建築設備	Building Equipment		(渡邊裕人)	2	講義	☆A	☆A						2						※	
住環境計画	Housing Environmental Design		(鈴木克彦)・阪田弘一	2	講義	☆A	○							2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※	※
都市・建築遺産論	Theory of Urban and Architectural Heritage		清水重敦・笠原一人・MARTINEZ,Alejandro	2	講義	☆A	☆A							2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※	※
空気調整設備	Air Conditioning Equipments		(畑 由起子)	2	講義	○	○							2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※	※
建築生産	Building Production		(辻本哲也)	2	講義	○	○							2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※	※
建築法規	Basic Building Code		(若林 悟)	2	講義	○	○							2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※	※
デザイン理論科目																				
製品技術論	Production Techniques for Design		多田羅景太・(某)	2	講義	☆B	☆B						2						※	
視覚デザイン論	Visual Communication Design		西村雅信	2	講義	☆B	☆B			2									※	
コンピューショナルデザイン	Computational Design		LI ANDREW KANG	2	講義	☆B	☆B			2								2021年度は開講しない	※	
ファシリティ計画論	Facility Programming		仲 隆介・松本裕司	2	講義	☆B	☆B			2									※	
デザイン史	History of Design		永井隆則	2	講義	☆B	☆B			2									※	
映像デザイン論	Media Design		池側隆之	2	講義	☆B	☆B						2						※	
工業デザイン論	Theory of Industrial Design		岡田栄造	2	講義	☆B	☆B						2						※	
室内意匠計画	Interior Design Planning		野口企由	2	講義	☆B	☆B						2						※	
視覚形成論	Theory of Visual Design		中野仁人	2	講義	☆B	○							2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※	※
デザイン方法論	Design Methodology		柳 勝彦	2	講義	☆B	○							2				地域創生Tech Programの学生のみ下履修可	※	※
芸術論科目																				
日本美術史	History of Japanese Art		井戸美里	2	講義	☆B	☆B	2											※	
西洋美術史	History of Western Art		永井隆則	2	講義	☆B	☆B		2										※	
感性論	Aesthetics		三木順子	2	講義	☆C	☆C			2								2021年度は開講しない	※	※
現代美術館学	Modern Museology		三宅拓也	2	講義	☆C	☆C						2					2021年度は開講しない	※	
写真・映画論	Theory of Photography and Film		三木順子	2	講義	☆C	☆C						2					集中授業 2021年度は開講しない	※	※
庭園美学論	Discourse on the Aesthetics of the Garden		(重森千青)	2	講義	☆C	☆C						2						※	※
博物館概論	Introduction to Museology		井戸美里	2	講義	○	○						2						※	※
現代芸術論	Theory of Contemporary Art		平芳幸浩	2	講義	☆C	☆C							2				集中授業	※	※
マネジメント論科目																				
企業経営学概論	Introduction to Corporate Business Administration		勝本雅和	2	講義	☆E	☆E	2											※	
マーケティング論	Theory of Marketing		(坂本和子)	2	講義	☆E	☆E			2								集中授業	※	
プロジェクトマネジメント	Project Management		(某)	2	講義	☆E	☆E						2						※	
会計・財務基礎	Introduction to Accounting and Corporate Finance		(某)	2	講義	☆E	☆E						2						※	
経営戦略論	Theory of Management Strategy		Park Jaehyun	2	講義	☆E	☆E						2						※	
事業企画論	Design Business Planning		(孝本浩基)	2	講義	☆E	☆E						2					集中授業	※	
ファシリティ経営論	Facility Development Planning		(柳父行二)・松本裕司	2	講義	☆E	☆E						2						※	

授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	履修区分		週授業時間数								備考	下履修	合格再履
						一般	地域	1年次		2年次		3年次		4年次				
								前	後	前	後	前	後	前	後			
デザインマネジメント	Design Management		木谷庸二	2	講義	☆E	○							2				※
市場参入論	Theory of Market Entry		勝本雅和	2	講義	☆E	○							2				※
エンジニアリング論科目																		
資源環境論	Resources and Environment		(川崎昌博)	2	講義	☆E	☆E	2									集中授業	※
エンジニアリング概説	Introduction to Engineering		小山恵美・佐藤哲也・北口紗織・SUSHI SUZUKI・津田和俊・三村 充	2	講義	☆E	☆E		2									※
ものづくりの統計学	Statistics for Manufacturing		横山敦士・勝本雅和	2	講義	☆E	☆E		2									※
生産工学	Production Engineering		(山田祐仁)	2	講義	☆E	☆E			2								※
材料工学	Materials Engineering		(田中勝久)	2	講義	☆E	☆E				2							※
人間情報科学	Human Information Science		小山恵美	2	講義	☆E	☆E					2						※
感覚工学	Sensory Engineering		佐藤哲也・北口紗織	2	講義	☆E	○						2					※
デザイン経営工学事例研究	Case study in Design Engineering & Management		(西村佳苗)・(富岡 慶)・(藤川義人)・(深井吉男)	2	講義	☆E	○							2		集中授業	※	
スキルアップ演習科目																		
CAD/CG実習	Practice in CAD/CG		佐藤哲也・三村 充	1	演習	○	○			2							集中授業	
デザインプラクティスⅠ	Design Practice I		デザイン実習関係教員・(廣澤寛)・(柴昂祐)・(市川靖史)	1	実習	○	○				3						プロジェクトデザイン選択者のみ	
デザインプラクティスⅡ	Design Practice II		デザイン実習関係教員・(三田地博史)・(濱田猛)・(田村正)	1	実習	○	○					3					プロジェクトデザイン選択者のみ	
デザインプラクティスⅢ	Design Practice III		デザイン実習関係教員・(廣澤寛)・(植葉香澄)・(柴昂祐)	1	実習	○	○						3				プロジェクトデザイン選択者のみ	
デザインプラクティスⅣ	Design Practice IV		デザイン実習関係教員・(市川靖史)	1	実習	○	○							3			プロジェクトデザイン選択者のみ	
情報処理演習	Exercises in Information Processing	da	三村 充	2	講義・演習	○	○				2							
建築環境工学演習	Experiments on Building and Urban Physics		芝池英樹	1	演習	○	○					2						
建築構造材料実験	Experimental Work in Structural Materials		金尾伊織・満田衛資・村本 真・小島紘太郎	1	実験	○	○						3					
建築測量演習	Practice of Field Survey		角田暁治・阪田弘一・高木真人・笠原一人・松田剛佐・岩本馨・登谷伸宏・中山利恵・三宅拓也・木下昌大	1	演習	○	○					2						
建築計画演習	Exercise in Architecture Planning		阪田弘一・高木真人	2	演習	○	○							4				
伝統建築演習	Studio in Traditional Japanese Architecture		清水重敦・登谷伸宏・松田剛佐・中山利恵・MARTINEZ,Alejandro	2	演習	○	○							4				
建築設計製図Ⅰ	Architecture Design Practice I		角田暁治	2	実習	○	○							6			二級建築士受験資格を希望する者のみ 集中授業	
建築設計製図Ⅱ	Architecture Design Practice II		角田暁治	2	実習	○	○							6			二級建築士受験資格を希望する者のみ 集中授業	
建築設計製図Ⅲ	Architecture Design Practice III		角田暁治	1	実習	○	○								3		二級建築士受験資格を希望する者のみ 集中授業	
研究指導																		
デザイン・建築学演習	Architecture and Design, Seminar		デザイン・建築学課程関係教員	6	演習	○	○									12	集中授業	
卒業研究																		
卒業研究	Graduation Work	da	デザイン・建築学課程関係教員	8	卒業研究等	●	×									10	10	
地域創生Tech Program (福知山キャンパス開講科目)																		
地域創生課題セミナーⅠ	Regional Creation Task Seminar I	da	大谷章夫・桑原教彰・吉田裕美・寺澤昇久・井野晴洋・YU ANNIE・(佐藤 聖)	2	演習	×	●							8			第3クォーター	
地域創生課題セミナーⅡ	Regional Creation Task Seminar II	da	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	演習	×	○							8			第1クォーター	
ものづくりインターンシップⅠ	Monozukuri Internship I	da	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE・吉田裕美・寺澤昇久	4	実習	×	●							20			第4クォーター	
ものづくりインターンシップⅡ	Monozukuri Internship II	da	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	4	実習	×	○							20			第2クォーター	
ものづくりインターンシップⅢ	Monozukuri Internship III	da	大谷章夫・桑原教彰・井野晴洋・YU ANNIE	2	実習	×	○							10			第2クォーター	
卒業プロジェクト	Thesis Project	da	デザイン・建築学課程関係教員・(谷口知弘)	8	卒業研究等	×	●									10	10	

建築士試験指定科目一覧表

二級・木造建築士 (単位数)	一級建築士 (単位数)	建築士試験 指定科目	単位数
①建築設計製図 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	建築設計実習Ⅰ 建築設計実習Ⅱ 建築設計実習Ⅲ 建築設計製図Ⅰ 建築設計製図Ⅱ 建築設計製図Ⅲ	4 4 4 2 2 1
②～④ 建築計画、 建築環境工学 又は建築設備 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	建築計画Ⅰ 建築計画Ⅱ 室内意匠計画 住環境計画 西洋建築史 日本建築史 近代建築史 東洋建築史 都市史Ⅰ 都市史Ⅱ 都市史Ⅲ 都市・建築遺産論 環境デザイン論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
	③建築環境工学 (2単位以上)	環境調整Ⅰ 環境調整Ⅱ 建築環境工学演習	2 2 1
	④建築設備 (2単位以上)	建築設備 空気調整設備	2 2
⑤～⑦ 構造力学、 建築一般構造 又は建築材料 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	建築構造力学Ⅰ 建築構造力学Ⅱ 建築構造力学Ⅲ	2 2 2
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築構造 建築構造設計学Ⅰ 建築構造設計学Ⅱ	2 2 2
	⑦建築材料 (2単位以上)	造形材料 建築構造材料実験	2 1
⑧建築生産(1単位以上)	⑧建築生産(2単位以上)	建築生産	2
⑨建築法規(1単位以上)	⑨建築法規(1単位以上)	建築法規	2
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	デザイン・建築表現演習 建築設計実習Ⅳ 建築測量演習 建築職能論 建築計画演習 景観論 伝統建築演習	3 4 1 2 2 2 2
単位総計と実務年数		註：建築士試験受験資格には、免許登録要件で必要となる実務経験年数に応じて、指定科目の単位取得が必要となる。 デザイン・建築学課程では二級・木造建築士は実務0年、一級建築士は実務2年となる単位数の取得を推奨する。	
実務0年：40単位以上 実務1年：30単位以上 実務2年：20単位以上	実務2年：60単位以上 実務3年：50単位以上 実務4年：40単位以上		

デザイン・建築学課程の実習課題のながれ



デザイン・建築学課程の「専門導入科目」及び「課程専門科目」の分類

		デザイン課題コース	建築課題コース
1回生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアデザイン概論 ・デザイン・建築基礎実習 ・日本美術史 ・資源環境論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアデザイン概論 ・デザイン・建築基礎実習
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋美術史 ・デザイン・建築表現演習 ・ソーシャルメディアデザイン演習 ・企業経営学概論 ・エンジニアリング概説 ・ものづくりの統計学 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築表現演習 ・建築構造力学Ⅰ
2回生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・感性論 ・製品技術論 ・視覚デザイン論 ・空間デザイン論 ・デザイン史 ・プロジェクトデザインⅠ ・デザインプラクティスⅠ ・マーケティング論 ・コンピュータグラフィックデザイン ・ファシリティ計画論 ・生産工学 ・プロジェクトマネジメント ・CAD/CG演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋建築史 ・建築計画Ⅰ ・環境調整Ⅰ ・建築構造 ・建築設計実習Ⅰ ・建築構造力学Ⅱ
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代美術館学 ・造形材料 ・映像デザイン論 ・工業デザイン論 ・プロジェクトデザインⅡ ・デザインプラクティスⅡ ・会計・財務基礎 ・材料工学 ・情報処理演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市史Ⅰ ・日本建築史 ・建築計画Ⅱ ・造形材料 ・建築設計実習Ⅱ ・環境調整Ⅱ ・建築構造力学Ⅲ ・建築構造設計学Ⅰ ・建築設計製図Ⅰ
3回生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館概論 ・室内意匠計画 ・人間情報科学 ・写真・映画論 ・プロジェクトデザインⅢ ・デザインプラクティスⅢ ・経営戦略論 ・事業企画論 ・ファシリティ経営論 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館概論 ・近代建築史 ・都市史Ⅱ ・景観論 ・建築機能論 ・東洋建築史 ・環境デザイン論 ・建築設備 ・建築設計実習Ⅲ ・建築環境工学演習 ・建築構造設計学Ⅱ ・建築構造材料実験 ・建築測量演習 ・建築設計製図Ⅱ ・庭園美学論
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代芸術論 ・視覚形成論 ・デザイン方法論 ・感覚工学 ・プロジェクトデザインⅣ ・デザインプラクティスⅣ ・デザインマネジメント ・市場参入論 ・デザイン経営工学事例研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・住環境計画 ・都市史Ⅲ ・建築設計実習Ⅳ ・建築計画演習 ・空気調整設備 ・建築生産 ・建築法規 ・建築設計製図Ⅲ ・都市・建築遺産論 ・伝統建築演習
4回生	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築学演習 ・卒業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・デザイン・建築学演習 ・卒業研究
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究

(卒業要件)

大分類	1年次		2年次		3年次		4年次		履修単位数
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	
専門導入科目	②								4
	②								
数学	②	②	②						建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
	②	②	②						
物理学	②	②	②	②	②				建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
	②	②	②	②	②				
化学・生物学 その他	②	②	②	②	②				建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
	②	②	②	②	②				
情報	②								建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
	②								
造形基礎	①								建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
選択必修科目A		②	②	②	②	②	②	②	建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
		②	②	②	②	②	②	②	
選択必修科目B		②	②	②	②	②	②	②	建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
		②	②	②	②	②	②	②	
選択必修科目C		②	②	②	②	②	②	②	建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
		②	②	②	②	②	②	②	
選択必修科目D		③	③	④	④	④	④	④	建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
		③	③	④	④	④	④	④	
選択必修科目E		②	②	②	②	②	②	②	建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
		②	②	②	②	②	②	②	
選択科目									建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
卒業研究必修								⑧	建築コースは、 デザイン コースは 6 ※4
								⑧	

134
※5

90

注・科目名の右側の数字は、単位数を表している。

●を付した科目は必修科目、☆を付した科目は選択必修科目である。

※1：言語教育科目の最低修得単位数には、●6単位を含む。

※2：工学部教養科目の最低修得単位数には、「リーディングと経営戦略」区分2単位及び「京の伝統文化と先端」区分2単位を含む。

※3：「人間教養科目合計」には、3大学（京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学）連携教養教育に係る単位互換制度で修得した単位を含めることができる。

※4：この単位数には、☆4（建築コース）、☆6（デザインコース）を含む。

※5：この単位数には、合計10単位を限度として特に科目を指定せず、修得単位を含めることができる。

デザイン・建築学課程 一般プログラム（建築・デザイン）

IV. 工芸科学部 繊維科学プログラム修了の認定について

「工芸科学部 繊維科学プログラムに関する専門教育科目」について所定の単位を修得し、本学を卒業すれば、繊維科学プログラム修了を認定いたします。

- ① 工芸科学部 繊維科学プログラムに関する専門教育科目は別表 1 及び別表 2 のとおりである。これらの科目は、繊維科学プログラム修了の認定を受けようとする者のために開設される専門教育科目であるが、修得した単位の内、各課程に開講されている専門教育科目については、該当する課程の卒業研究履修のために必要な単位、及び、卒業要件単位に含めることができる。
- ② 工芸科学部 繊維科学プログラム修了の認定を受けようとする者は、別表 1 及び別表 2 に示した科目から 12 単位を修得しなければならない。ただし、別表 1 から合計 4 単位以上を修得すること。

※繊維科学プログラムを修了すると「繊維科学プログラム修了」の認定証を発行する。

工芸科学部 繊維科学プログラムに関する専門教育科目

別表 1 (応用生物学域及び物質・材料科学域専門基礎科目、他学域学生の受講可)

授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数		備 考
			3～4年次		
			前学期	後学期	
サステナブルマテリアル	青木隆史 田中知成	2	2		3年次(下履修可)
繊維ナノ構造学	佐々木園 (山根秀樹)	2		2	3年次
繊維科学基礎	綿岡 勲	2	2		3年次(下履修可)
生物繊維材料学	綿岡勲 岡久陽子 麻生祐司	2		2	3年次(下履修可)
繊維プロセス工学	(松原富夫)他	2	2		4年次(下履修可)
繊維生産流通システム概論	(某)	2		2	4年次(下履修可)、集中授業
染色科学	安永秀計	2	2		3年次(下履修可)
クロージングサイエンス	鋤柄佐千子 奥林里子	2	2		4年次(下履修可)
繊維科学実験 ※	XU HUAIZHONG (山根秀樹)	2	4		4年次(下履修可)、集中授業 人数制限があるので単位取得計画 に留意すること。

※「繊維科学実験」は、7月～9月の間に集中で行います。また、設備等の都合により、受講者数を制限することがあります。

別表 2 (各課程に開講されている専門教育科目、他課程学生の受講可)

授 業 科 目	担当教員	単 位 数	週授業時間数		備 考
			1～4年次		
			前学期	後学期	
エンジニアリング 概説	小山恵美 佐藤哲也 北口紗織 SUSHI SUZUKI 津田和俊 三村 充	2		2	1年次 デザイン・建築学課程開講科目
マーケティング論	(坂本和子)	2	2		2年次 デザイン・建築学課程開講科目 集中授業
高分子化学	坂井 亙 本柳 仁 箕田雅彦 足立 馨	2		2	2年次 物質・材料科学域専門基礎開講科目
振動・波動	藤原 進	2		2	2年次(下履修可) 応用化学課程(高分子材料)開講科目
昆虫工学	小谷英治 高木圭子	2	2		3年次(下履修可) 応用生物学課程開講科目
植物生理学	半場祐子	2	2		3年次(下履修可) 応用生物学課程開講科目
ファイバーサイエ ンス	田中克史 高崎 緑	2	2		3年次(下履修可) 応用化学課程(高分子材料)開講科目
液晶・高分子物性	田中克史	2	2		3年次(下履修可) 応用化学課程(高分子材料)開講科目
高分子材料化学	坂井 亙 池田裕子	2	2		3年次(下履修可) 応用化学課程(高分子材料)開講科目
高分子レオロジー	浦山健治	2	2		3年次(下履修可) 応用化学課程(高分子材料)開講科目
高分子構造学	橋本雅人 櫻井伸一	2		2	3年次(下履修可) 応用化学課程(高分子材料)開講科目
感覚工学	佐藤哲也 北口紗織	2		2	3年次 デザイン・建築学課程開講科目

V. 教育職員免許状の取得について

所定の単位を修得し、本学を卒業すれば次の教育職員免許状を取得することができます。

※ 前学期に実施される教員免許状の取得に関するガイダンスに必ず出席すること。

課 程	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
応用生物学課程	理 科	理 科
応用化学課程	理 科	理 科
電子システム工学課程	数 学	数 学
情報工学課程	数 学	数 学
情報工学課程	—	情 報
機械工学課程	数 学	数 学

- ① 受けようとする免許状ごとに、所定の「教育の基礎的理解に関する科目等」【別表1】、「教科の指導法に関する科目」【別表2】、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」【別表3】及び「教科に関する科目」【別表4-①～⑥】の単位を修得しなければならない。（別表は次ページ以降に掲載）
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科の指導法に関する科目」は教育職員免許状を得ようとする者のために開設される科目で、修得した単位は卒業要件単位に含めることができない。
- ③ 「教育実習」は、原則として卒業予定年次に受講（実施）することになるが、その受講手続は前年度の5～6月頃から始まり、同時にガイダンスも実施される。
- ④ これらのガイダンスに欠席した者や、受講手続きを適正に行わなかった者については、「教育実習」を認めない。
- ⑤ 教職に関する連絡事項は、全て学生情報ポータルに掲載するので、特に注意すること。

「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「教科の指導法に関する科目」の種類および単位数

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目 名	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	週 授 業 時 間 数		配 当 年 次	備 考	
					前	後			
教育の基礎的理解に関する科目等	現代教師論	Study of Modern Teacher	塩屋葉子	2	講義		2	1	集中授業
	教育原論	Principle of Education	(齊藤大輔)	2	講義	2		1	集中授業
	教育心理学	Educational Psychology	(山口洋介)	1	講義		1	1	集中授業
	特別支援教育	Special needs education	(鳴海正也)	1	講義		1	1	集中授業
	教育社会学	Educational Sociology	塩屋葉子	2	講義	2		1	集中授業
	教育課程論	Study of Curriculum	塩屋葉子	2	講義	2		1	集中授業
	道徳教育の理論と方法	Study of Moral Education	(井上 専)	2	講義		2	1	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	Guidance Method of Extra-Curricular activities and Integrated study	(松本高直)	2	講義	2		1	集中講義
	教育方法論	Study of Teaching and Learning	(相澤伸幸)	2	講義		2	1	集中授業
	視聴覚教育概説	Outline of Audio-Visual Education	(渡部晃正)	2	講義		2	1	集中授業
	生徒指導	Student Guidance	(上野淳子)	2	講義	2		1	集中授業
	教育相談・進路指導論	Educational Counseling	(岩本脩平)	2	講義	2		1	集中授業
	教職実践演習(中・高)	Seminar on Educational Practice	塩屋葉子・(水山光春)・(田中曜次)・(岩本脩平)	2	演習		2	4	集中授業 「教育実習Ⅰ」又は「教育実習Ⅱ」の既習得を要す。 「教育実習Ⅲ」の既習得を要す。
教育実習Ⅰ	Teaching Practice I	塩屋葉子	4	実習	8		4	中学校教諭1種免許状取得の場合はこちらを履修。 5月から9月までの3週間以上(学外)(10月の実習の場合もある)	
教育実習Ⅱ	Teaching Practice II	塩屋葉子	2	実習	4		4	5月から9月までの2週間(学外)(10月の実習の場合もある)	
教育実習Ⅲ	Teaching Practice III	塩屋葉子	1	実習	2		4	集中授業	
教科の指導法に関する科目	数学教育法ⅠA	Teaching Method of Mathematics I A	井川 治	2	講義	2		2	
	数学教育法ⅠB	Teaching Method of Mathematics I B	朝田 衛	2	講義		2	2	
	数学教育法ⅡA	Teaching Method of Mathematics II A	(岩塚 明)	2	講義	2		3	集中授業
	数学教育法ⅡB	Teaching Method of Mathematics II B	(大倉弘之)	2	講義		2	3	集中授業
	理科教育法ⅠA	Teaching Method of Natural Science I A	(滋野哲秀)	2	講義	2		2	
	理科教育法ⅠB	Teaching Method of Natural Science I B	竹内信行・(高畑 哲)	2	講義		2	2	
	理科教育法ⅡA	Teaching Method of Natural Science II A	(木戸淑裕)	2	講義	2		3	集中授業
	理科教育法ⅡB	Teaching Method of Natural Science II B	竹内信行	2	講義		2	3	集中授業
	情報教育法Ⅰ	Teaching Method of Information Science I	辻野嘉宏・梅原大佑・荒木雅弘・森禎弘	2	講義	2		2	
情報教育法Ⅱ	Teaching Method of Information Science II	辻野嘉宏・梅原大佑・荒木雅弘・森禎弘	2	講義		2	2		

教育職員免許状取得関連日程

【1～4年次共通事項】

- 1月上旬 翌年度介護等体験説明会
- 2月上旬 翌年度介護等体験申請書提出期限

【2～4年次共通事項】

- 4月上旬 当該年度介護等体験（前期）の受入学校・施設決定
- 4月～9月 当該年度介護等体験（前期）実施
- 5月下旬 当該年度介護等体験（後期）説明会
- 6月中旬 当該年度介護等体験（後期）申請書提出期限
- 9月上旬 当該年度介護等体験（後期）の受入学校・施設決定
- 10月～3月 当該年度介護等体験（後期）実施

※ 介護等体験を行う都道府県によっては、このスケジュールによらないこともある。随時学生情報ポータルの掲示を確認すること。

※ 介護等体験は、中学校教諭一種免許状の取得に必要であり、高等学校教諭一種免許状のみの取得には不要。

※ 介護等体験は原則として、2年次以上で「教育原論」「教育心理学」「特別支援教育」を含む教育の基礎的理解に関する科目等を8単位以上修得している者を対象とする。

【3年次】

- 5月中旬 翌年度教育実習説明会（翌年度卒業見込者対象）
- 6月下旬 教育実習受講調（教育実習予備登録）提出期限
- 9月中旬 出身学校訪問結果報告期限
（京都市教育委員会等の斡旋を受ける者は不要）
- 11月中旬 内諾書（教育実習受入校発行）提出期限

【4年次】

- 4月上旬 卒業研究配属先決定
- 4月下旬 教育実習受講の最終意思確認期限
（4月上旬に教育実習受講調を一旦返却するので、指導教員の印をもらって再提出）
- 4月下旬 教育実習事前説明会
- 5月上旬 教育委員会斡旋分の教育実習校決定
（京都市立中学校出身者等）
- 5月上旬～6月下旬、9月上旬～9月中旬（受入先の学校によっては、この期間以外の時期に行うこともある）
教育実習実施
- 10月下旬 教育職員免許状授与一括申請説明会
- 11月中旬 教育職員免許状授与一括申請書類提出期限
- 3月下旬 教育職員免許状交付（学位記授与式当日）

教育実習受講資格について

- ① 教育実習を受講する者（次項に該当する編入学者を除く）は、教育の基礎的理解に関する科目等を6単位以上とあわせて、中学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法8単位、高等学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法4単位を取得していなければならない。
- ② 教員免許の課程認定を受けていない大学・短大及び高専からの編入学者については、基礎的理解に関する科目等を2単位以上とあわせて、中学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法8単位、高等学校教諭一種免許状の場合は、取得を希望する教科に係る教科教育法4単位取得していればよい。
- ③ 受講資格の確認は、教育実習予定年度の前年度後学期までの成績をもって行う。

【別表1】教育の基礎的理解に関する科目等の一覧表

全課程共通

○印は必修科目を表す。

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学部開設科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	中学校教諭 一種免許状	単位数	高等学校教諭 一種免許状	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原論	2	○ 教育原論	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		○ 現代教師論	2	○ 現代教師論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		○ 教育社会学	2	○ 教育社会学	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 教育心理学	1	○ 教育心理学	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育	1	○ 特別支援教育	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		○ 教育課程論	2	○ 教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	○ 道徳教育の理論と方法	2	道徳教育の理論と方法 ※注1	2
	総合的な学習の時間の指導法		○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	○ 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		○ 教育方法論 視聴覚教育概説	2 2	○ 教育方法論 視聴覚教育概説	2 2
	生徒指導の理論及び方法		○ 生徒指導	2	○ 生徒指導	2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		○ 教育相談・進路指導論	2	○ 教育相談・進路指導論	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	○ 教育実習Ⅰ ○ 教育実習Ⅲ	4 1	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ ○ 教育実習Ⅲ	4 2 1
	教職実践演習	2	○ 教職実践演習（中・高）	2	○ 教職実践演習（中・高）	2
合 計			27単位		23単位	

※注1・・・高等学校教諭一種免許状の場合、「道徳教育の理論と方法」2単位は、免許法に規定する「大学が独自に設定する科目」として合計59単位に算入しますが、「教育の基礎的理解に関する科目等」の23単位には含まれません。

【別表2】教科の指導法に関する科目の一覧表

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する本学部開設科目			
科目	各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状	単 位 数	高等学校教諭 一種免許状	単 位 数
教科の指導法 に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	数学教育法ⅠA	} ※注1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	数学教育法ⅠA	} ※注2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		数学教育法ⅠB		数学教育法ⅠB	
		数学教育法ⅡA		理科教育法ⅠA	
		数学教育法ⅡB		理科教育法ⅠB	
		理科教育法ⅠA		情報教育法Ⅰ	
		理科教育法ⅠB		情報教育法Ⅱ	
		理科教育法ⅡA		数学教育法ⅡA	
		理科教育法ⅡB		数学教育法ⅡB	
				理科教育法ⅡA	
				理科教育法ⅡB	
				理科教育法ⅡB	
合 計		8 単位		4 単位	

※注1・・・当該教科の指導法について8単位必修

※注2・・・当該教科の指導法について4単位必修

※注3・・・当該教科の指導法（ⅡA/ⅡB）は選択科目

【別表3】教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目の一覧表

教育の基礎的理解に関する科目等【別表1】及び教科の指導法に関する科目【別表2】には含まれませんが、下記の科目が必要となります。

教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目				
免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設専門科目		備考
科 目	単位数	授業科目	単位数	
日 本 国 憲 法	2	○憲法	2	
体 育	2	○スポーツ科学Ⅰ	2	2単位必修
		○スポーツ科学Ⅱ	2	
外国語コミュニケーション	2	○Interactive English A	1	
		○Interactive English B	1	
情報機器の操作	2	○情報処理演習	2	応用生物学・応用化学課程
		○プログラミング演習	2	電子システム工学課程
		○情報工学概論	2	情報工学課程
		○機械製図法Ⅱ	2	機械工学課程
合 計	8	本学の必要単位数	8	

- 中学校教諭一種免許状の取得には別途一週間程度の介護等体験が必要となります。（申込については学生情報ポータルで連絡しますので留意してください。）

教科に関する科目一覧表

応用生物学課程

【別表4-①】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 理 科	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 理 科
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
物理学	○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2)	物理学	○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2)
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 物理学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む)	化 学	○ 化 学Ⅰ(2) ○ 化 学Ⅱ(2) 物理化学Ⅰ(2) 物理化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 無機化学Ⅰ(2) 分析化学(2) 環境化学(2) 化学工学Ⅰ(2)
化 学	○ 化 学Ⅰ(2) ○ 化 学Ⅱ(2) 物理化学Ⅰ(2) 物理化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 無機化学Ⅰ(2) 分析化学(2) 環境化学(2) 化学工学Ⅰ(2)		
化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 化学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む)	生 物 学	○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 遺伝学(2) 細胞生物学(2) 微生物学(2) 動物生理学(2) 植物生理学(2) 生物化学Ⅰ(2) 生物化学Ⅱ(2)
生 物 学	○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 遺伝学(2) 細胞生物学(2) 微生物学(2) 動物生理学(2) 植物生理学(2) 生物化学Ⅰ(2) 生物化学Ⅱ(2)		
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 生物学基礎実験A(2) (コンピュータ活用を含む) 生物機能学・分子生物学実験Ⅰ(4) 生物機能学・分子生物学実験Ⅱ(4)	物理学実験 (コンピュータ活用を含む) 化学実験 (コンピュータ活用を含む) 生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	物理学基礎実験(2)※1 (コンピュータ活用を含む) 化学基礎実験(2)※2 (コンピュータ活用を含む) 生物学基礎実験A(2)※3 (コンピュータ活用を含む) 生物機能学・分子生物学実験Ⅰ(4) 生物機能学・分子生物学実験Ⅱ(4) 地学実験(2)※4 (コンピュータ活用を含む) ※1～4のうち、いずれか1つは必修
地 学	○ 地 学Ⅰ(2) ○ 地 学Ⅱ(2)		
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 地学実験(2) (コンピュータ活用を含む)	地学実験 (コンピュータ活用を含む)	
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	32単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-①】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-①】の合計(※)	59

(※) 別表3(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

応用化学課程

【別表4-②】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 理 科	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 理 科
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
物理学	○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2) 高分子物性(2) 統計物理学(2) 高分子分子物性(2) 高分子構造学(2) ナノ材料物理化学(2) 高分子レオロジー(2) 固体物性論(2) 固体熱力学(2) 量子力学(2)	物理学	○ 物理学Ⅰ(2) ○ 物理学Ⅱ(2) 高分子物性(2) 統計物理学(2) 高分子分子物性(2) 高分子構造学(2) ナノ材料物理化学(2) 高分子レオロジー(2) 固体物性論(2) 固体熱力学(2) 量子力学(2)
物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 物理学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む)		○ 化学Ⅰ(2) ○ 化学Ⅱ(2) 物理化学Ⅰ(2) 物理化学Ⅱ(2) 物理化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅳ(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 分析化学(2) 環境化学(2) 化学工学Ⅰ(2) 化学工学Ⅱ(2) 高分子化学(2) 無機材料科学Ⅰ(2) 無機材料科学Ⅱ(2) 有機機器分析(2) 有機反応化学(2) 精密合成化学(2) 精密材料化学(2) 応用分析化学(2) 生物化学工学(2)
化 学	○ 化学Ⅰ(2) ○ 化学Ⅱ(2) 物理化学Ⅰ(2) 物理化学Ⅱ(2) 物理化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅳ(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 分析化学(2) 環境化学(2) 化学工学Ⅰ(2) 化学工学Ⅱ(2) 高分子化学(2) 無機材料科学Ⅰ(2) 無機材料科学Ⅱ(2) 有機機器分析(2) 有機反応化学(2) 精密合成化学(2) 精密材料化学(2) 応用分析化学(2) 生物化学工学(2)	化 学	○ 化学Ⅰ(2) ○ 化学Ⅱ(2) 物理化学Ⅰ(2) 物理化学Ⅱ(2) 物理化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅲ(2) 有機化学Ⅳ(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 分析化学(2) 環境化学(2) 化学工学Ⅰ(2) 化学工学Ⅱ(2) 高分子化学(2) 無機材料科学Ⅰ(2) 無機材料科学Ⅱ(2) 有機機器分析(2) 有機反応化学(2) 精密合成化学(2) 精密材料化学(2) 応用分析化学(2) 生物化学工学(2)
化学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 化学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む)	生物学	○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 生化学Ⅰ(2) 生化学Ⅱ(2) 生化学Ⅲ(2) 生体分子工学(2)
生物学	○ 生物学Ⅰ(2) ○ 生物学Ⅱ(2) 生化学Ⅰ(2) 生化学Ⅱ(2) 生化学Ⅲ(2) 生体分子工学(2)	地学	○ 地 学Ⅰ(2) ○ 地 学Ⅱ(2)
生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 生物学基礎実験A(2) (コンピュータ活用を含む)	物理学実験 (コンピュータ活用を含む)	物理学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む)
地学	○ 地 学Ⅰ(2) ○ 地 学Ⅱ(2)	化学実験 (コンピュータ活用を含む)	化学基礎実験(2) (コンピュータ活用を含む)
地学実験 (コンピュータ活用を含む)	○ 地学実験(2) (コンピュータ活用を含む)	生物学実験 (コンピュータ活用を含む)	生物学基礎実験A(2) (コンピュータ活用を含む)
		地学実験 (コンピュータ活用を含む)	地学実験(2) (コンピュータ活用を含む) 上記のうち、いずれか1つは必修
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	32単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-②】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-②】の合計(※)	59

(※) 別表3(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

電子システム工学課程

【別表4-③】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 数 学	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 数 学
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理解応代数(2)	代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理解応代数(2)
幾何学	○ 応用幾何(2) 数理解応幾何(2)	幾何学	○ 応用幾何(2) 数理解応幾何(2)
解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理解応解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)	解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理解応解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)
「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)	「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)
コンピュータ	○ 情報・データリテラシー(2) コンピュータシステム(2) デジタル電子回路(2) 光学基礎(2) 論理設計(2)	コンピュータ	○ 情報・データリテラシー(2) コンピュータシステム(2) デジタル電子回路(2) 光学基礎(2) 論理設計(2)
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	28単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-③】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-③】の合計(※)	59

(※) 別表3(教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目)の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

情報工学課程（数学）

【別表4-④】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 数 学	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 数 学
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2) 情報セキュリティ(2)	代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2) 情報セキュリティ(2)
幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2) 離散数学(2) AI・データサイエンス基礎(2)	幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2) 離散数学(2) AI・データサイエンス基礎(2)
解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2) 数理解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)	解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2) 数理解析(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2)
「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)	「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)
コンピュータ	○ プログラミングⅠ(2) ○ プログラミングⅡ(2) コンピュータシステム(2) 論理設計(2)	コンピュータ	○ プログラミングⅠ(2) ○ プログラミングⅡ(2) コンピュータシステム(2) 論理設計(2)
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	28単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-④】の合計(※)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-④】の合計(※)	59

(※) 別表3（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

情報工学課程（情報）

【別表4-⑤】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 情 報
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
情報社会及び 情報倫理	○ 情報セキュリティと情報倫理(2) 情報リテラシー概論(2)
コンピュータ及び 情報処理 (実習を含む)	○ データ構造とアルゴリズム(2) ○ ソフトウェア演習Ⅰ(2) ○ ソフトウェア演習Ⅱ(2) ソフトウェア工学(2) プログラミング言語論(2)
情報システム (実習を含む)	○ コンパイラ(2) ○ 言語処理プログラミング(2) ○ オペレーティングシステム(2) AI・データサイエンス応用(2) データベース(2)
情報通信 ネットワーク (実習を含む)	○ 情報ネットワーク(2) ○ ネットワークプログラミング(2) 情報理論(2)
マルチメディア 表現及び技術 (実習を含む)	○ メディア工学(2) ○ 情報システムプログラミング(2) ヒューマンインタフェース(2)
情報と職業	○ テクノロジー論(2)
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	28単位以上
【別表1】、【別表2】及び 【別表4-⑤】の合計(※)	59

(※) 別表3（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）の単位数は含めることができません。

教科に関する科目一覧表

機械工学課程

【別表4-⑥】

○は必修科目を示す。

免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	中学校教諭 一種免許状 数 学	免許法施行規則に定める各科目に含めることが必要な事項	高等学校教諭 一種免許状 数 学
	本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。		本課程に開設する対応科目及び単位数 ()の中の数字は単位数を示す。
代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2)	代数学	○ 線形代数学Ⅰ(2) ○ 線形代数学Ⅱ(2) 数理応用代数(2)
幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2)	幾何学	○ 応用幾何(2) 数理応用幾何(2)
解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2)	解析学	○ 基礎解析Ⅰ(2) ○ 基礎解析Ⅱ(2) 解析学Ⅰ(2) 解析学Ⅱ(2) 数学演習Ⅰ(2) 数学演習Ⅱ(2) 数理解析(2) 応用数理(2) 応用解析(2) 数理応用解析(2)
「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)	「確率論、 統計学」	○ 統計数理(2) データサイエンスの数理(2)
コンピュータ	○ コンピュータミクロン基礎学(2) 計算力学(2) データサイエンス(1) 情報・データリテラシー(2)※1 コンピュータシステム(2)※2	コンピュータ	○ コンピュータミクロン基礎学(2) 計算力学(2) データサイエンス(1) 情報・データリテラシー(2)※1 コンピュータシステム(2)※2
教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	28単位以上	教科及び教科の指導法に関する科目の合計(※)	24単位以上
【別表1】、【別表2】及び【別表4-⑥】の合計(※3)	59	【別表1】、【別表2】及び【別表4-⑥】の合計(※3)	59

※1の科目は、電子システム工学課程において開講する。

※2の科目は、電子システム工学課程及び情報工学課程において開講する。

※3：別表3（教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目）の単位数は含めることができません。

VI. 学芸員資格の取得について

博物館や美術館等で資料の収集、保管、展示及び調査研究等の専門的業務に携わる職員になるためには、学芸員の資格が必要です。
 本学では、下に掲げる学芸員資格に関する科目の単位を修得し、卒業すれば、学芸員の資格を取得することができます。ただし、学芸員資格に関する科目は、学芸員の資格を得ようとする者のために開設される授業科目で、修得した単位は卒業要件単位に含めることができません。

学芸員資格取得のための授業科目の種類と単位数

- 履修区分欄の●は必修科目、☆は選択必修科目、○は選択科目を示す。
- 下履修欄に※がある授業科目については、配当年次より下級の学生の履修を認める。

授業科目	英文授業科目名	担当教員	単位数	授業形態	履修区分	週授業時間数								備考	下履修	
						1年次		2年次		3年次		4年次				
						前	後	前	後	前	後	前	後			
博物館概論	Introduction to Museology	井戸美里	2	講義	●					2						※
博物館学Ⅰ	Museology I	平芳幸浩・松隈 洋	2	講義	●					2						※
博物館学Ⅱ	Museology II	永井隆則・(岡 達也)	2	講義	●					2						※
文化財学	Study on Cultural Property	平芳幸浩・MARTINEZ,Alejandro	2	講義・演習	●		2								集中講義	
文化財保存科学	Conservation Science for Cultural Prererties	(佐々木良子)	2	講義	●					2						※
教育学概論	Introduction to Pedagogy	塩屋葉子	2	講義	●					2					集中講義	※
博物館教育論	Museum Education	塩屋葉子	1	講義	●						1				集中講義	※
生涯学習概論	Introduction to Career Learning	(國生 壽)	2	講義	●					2					集中講義	
博物館情報・メディア論	Museum Information Media Theory	三木順子・實珍輝尚	2	講義	●					2						
博物館実習	Exercises at Museum	松隈 洋・平芳幸浩・三宅拓也	3	実習	●							4	5		「博物館概論」「博物館学Ⅰ」「博物館学Ⅱ」「文化財学」「文化財保存科学」「教育学概論」「博物館教育論」「生涯学習概論」「博物館情報・メディア論」の既修得を要す。	
デザインマネジメント	Design Management	木谷庸二	2	講義	○						2					※
京の産業技術史	History of Industrial technology in Kyoto	(畑 智子)	2	講義	○	2										

Ⅶ. 知的財産に関する授業科目について

知財関係の国家資格として実務経験なしで受検できるものは、弁理士、三級知的財産管理技能士があります。知的財産に関する授業科目を10単位以上修得すると、二級知的財産管理技能士を受検できます。いずれも在学中から受検することができます。

二級知的財産管理技能士の詳細については（一社）知的財産教育協会HP（<http://ip-edu.org/>）を参照してください。

地域創生Tech Program以外の学生は、修得した単位を卒業要件単位に含めることができません。

下履修欄に※がある授業科目については、配当年次より下級の学生の履修を認める。

授 業 科 目	英 文 授 業 科 目 名	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	週 授 業 時 間 数								備 考	下 履 修	
					1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
知的財産概論Ⅰ	Introduction to Intellectual Property I	(小澤壮夫)	2	講義			2								
知的財産概論Ⅱ	Introduction to Intellectual Property II	(齊藤真大)	2	講義				2							
特許法・実用新案法Ⅰ	Patent Law & Utility Mode Law I	(喜多俊文)	2	講義			2								
特許法・実用新案法Ⅱ	Patent Law & Utility Mode Law II	(本田史樹)	2	講義				2							
知的財産演習	Exercise of Intellectual Property	(塩川信明)	1	演習					2						
民法概論Ⅰ	Introduction of Code Civil I	(村尾太久)	2	講義			2								
民法概論Ⅱ	Introduction of Code Civil II	(村尾太久)	2	講義				2							

Ⅷ. 技術検定の受検資格の取得について

なお、次に示す条件は2019年度入学生に適用されるものであり、2021年度入学生に適用される条件については、変更があり次第通知します。

本学では、次の課程を卒業し、所定の条件を満たすことにより、施工技術検定規則に定められている国土交通省所管の技術検定（1級・2級）の受検資格を得ることができます。

資格の詳細は、各資格の検定試験実施団体HPを参照してください。

- 建設機械施工…（一社）日本建設機械施工協会（<http://www.jcmanet.or.jp/>）
- 土木施工管理・管工事施工管理・造園施工管理・電気通信工事施工管理…（一財）全国建設研修センター（<http://www.jctc.jp/>）
- 建築施工管理・電気工事施工管理…（一財）建設業振興基金（<http://www.fcip-shiken.jp/>）

課程	技術検定		条件		
	区分	種目			
電子システム工学課程 （地域創生Tech Program 含む全学生）	1級	建設機械施工 建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種目に関し指導監督的実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験		
	2級	建設機械施工	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種別に関する6ヶ月以上の実務経験を含む、1年以上の実務経験		
建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理		①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種目に関する1年以上の実務経験			
情報工学課程 （地域創生Tech Program 含む全学生）	1級	建設機械施工 建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種目に関し指導監督的実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験		
	2級	建設機械施工	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種別に関する6ヶ月以上の実務経験を含む、1年以上の実務経験		
		建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種目に関する1年以上の実務経験		
機械工学課程 （地域創生Tech Program 以外）	1級	建設機械施工 建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理	卒業後、受検しようとする種目に関し指導監督的実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験		
	2級	建設機械施工	卒業後、受検しようとする種別に関する6ヶ月以上の実務経験を含む、1年以上の実務経験		
		建築施工管理	卒業後、受検しようとする種別に関する1年以上の実務経験		
		電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理	学科試験	条件なし。（卒業見込でも可）	
			実地試験	卒業後、受検しようとする種目（種別）に関する1年以上の実務経験	
機械工学課程 （地域創生Tech Program）	1級	建設機械施工 建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理	卒業後、受検しようとする種目に関し指導監督的実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験		
	2級	建設機械施工	卒業後、受検しようとする種別に関する6ヶ月以上の実務経験を含む、1年以上の実務経験		
		建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理	卒業後、受検しようとする種別に関する1年以上の実務経験		

デザイン・建築学課程 (地域創生Tech Program 含む全学生)	1級	建設機械施工 土木施工管理 建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理 造園施工管理	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種目に関し指導監督的実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験
	2級	建設機械施工	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種別に関する6ヶ月以上の実務経験を含む、1年以上の実務経験
		土木施工管理 建築施工管理 電気工事施工管理 管工事施工管理 電気通信工事施工管理 造園施工管理	①指定する科目を取得 ②卒業後、受検しようとする種目に関する1年以上の実務経験

技術検定（1級・2級）の受検資格を得るための指定科目

- ※ 機械工学課程は科目の指定はありません。
(卒業すれば取得単位に関する要件を満たしています。)
- ※ 指定されている課程以外の学生が、指定科目を修得しても、受検資格は得られません。

電子システム工学課程 …次に掲げる科目から11単位以上必要

電気回路	電気エネルギー工学
電気回路演習	電磁波工学
電磁気学および演習ⅠA	電子物性基礎論
電磁気学および演習ⅠB	電子材料工学
電磁気学および演習ⅡA	
電磁気学および演習ⅡB	
電磁気学Ⅲ	
電子システム数理基礎論	
回路解析	
回路解析演習	
論理設計	
ディジタル電子回路	
アナログ電子回路	
電子回路演習	
集積回路工学	
制御工学	
通信システム工学	
高周波回路	

情報工学課程 …次に掲げる科目のうち、A群から1科目以上、B群から11単位以上必要

A群	B群
化学概論Ⅰ	システム最適化
化学概論Ⅱ	論理設計
生物学概論Ⅰ	コンピュータシステム
生物学概論Ⅱ	オペレーティングシステム
基礎解析Ⅰ	制御工学
基礎解析Ⅱ	ディジタル信号処理
線形代数学Ⅰ	エレクトロニクス
線形代数学Ⅱ	ディジタル電子回路
数学演習Ⅰ	
数学演習Ⅱ	
統計数理	
物理学Ⅰ	
物理学Ⅰ 演習	

デザイン・建築学課程 …次に掲げる科目のうち、A群から1科目以上、B群から15単位以上、合計で20単位以上必要

A群	B群
化学概論Ⅰ	図学
化学概論Ⅱ	建築計画Ⅰ
生物学概論Ⅰ	建築計画Ⅱ
生物学概論Ⅱ	住環境計画
基礎解析Ⅰ	西洋建築史
基礎解析Ⅱ	東洋建築史
線形代数学Ⅰ	日本建築史
線形代数学Ⅱ	近代建築史
数学演習Ⅰ	建築構造力学Ⅰ
数学演習Ⅱ	建築構造
統計数理	造形材料
物理学Ⅰ	建築構造材料実験
物理学Ⅱ	建築生産
力学	建築法規
化学Ⅰ	建築設計実習Ⅰ
化学Ⅱ	建築設計実習Ⅱ
生物学Ⅰ	建築設計実習Ⅲ
生物学Ⅱ	建築設計実習Ⅳ
	製品技術論

Ⅸ. 自然再生士補の取得について

自然再生士は、損なわれた自然環境を様々な角度から分析し、構想、計画、設計、施工、管理という事業の各段階で行われる業務や活動において、この事業に係わる人々をリードし、事業全体をコーディネートするとともに、自ら担当する自然再生を実行する能力を有する者の資格です。

自然再生士補は、自然再生士が行う業務・活動を補佐し、自ら行う自然再生にかかわる業務・活動に際して、適切な調査、分析、処理、管理を行う能力を有する者の資格です。詳細は（一財）日本緑化センターHP（<http://www.jpgreen.or.jp/>）を参照してください。

本学応用生物学課程では、下に掲げる自然再生士補資格に関する科目を、所定の単位数修得し、卒業すれば、自然再生士補の資格を取得することができます。（応用生物学課程以外の学生が、所定の単位数を修得しても、資格は取得できません。）

また、自然再生士補資格取得後、1年間の実務経験を積むことにより、自然再生士の受験資格を得ることができます。

自然再生士補資格取得のための授業科目の種類と単位数

1. 演習・実験分野より3科目6単位数以上、および、講義分野より2科目4単位数以上、合計5科目10単位数以上の取得を要する。
2. 下履修欄に※がある授業科目については、配当年次より下級の学生の履修を認める。

分野	授業科目	英文授業科目名	クラス	担当教員	単位数	授業形態	週授業時間数								備考	下履修	
							1年次		2年次		3年次		4年次				
							前	後	前	後	前	後	前	後			
演習・実験	自然観察学	Field Observation and Survey of Living Nature		中元朋美・秋野順治・堀元栄枝・斎藤 準・都丸雅敏・長岡純治	1	講義・演習	2										
	生物学基礎実験A	Laboratory Work in Fundamental Biology A		応用生物学課程関係教員	2	実験			6								
	生物生産学実習	Field Work in Agriculture		中元朋美・秋野順治・堀元栄枝・長岡純治	2	講義・演習	4										
	生物機能学・分子生物学実験Ⅰ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology I		応用生物学課程関係教員	4	実験				12							
	生物機能学・分子生物学実験Ⅱ	Laboratory Work in Functional Biology & Molecular Biology II		応用生物学課程関係教員	4	実験					12						
	基礎研究・演習	Basic Research and Seminar		応用生物学課程関係教員	6	実験・演習							12			集中授業 全学共通科目と専門教育科目の総取得単位数が100以上であること。ただし、当該年度の3年次編入者については課程長の判断により履修を許可することがある。	
講義	地球環境論	Global Environmental Science		布施泰朗・(岩崎仁)	2	講義	2										
	環境マネジメント	Environmental Management		布施泰朗	1	講義				1						集中講義	
	資源生物と環境	Bioresource and Environment		秋野順治・中元朋美・堀元栄枝・半場祐子	2	講義	2										
	動物生理学	Animal Physiology		宮田清司	2	講義			2								
	植物生理学	Plant Physiology		半場祐子	2	講義				2							※
	昆虫生理学	Insect Physiology		斎藤 準	2	講義				2							※
	生物学Ⅱ	Biology II	応生	小谷英治・伊藤雅信・市川明・加藤容子・高木圭子・長岡純治	2	講義	2										
	環境化学	Environmental Chemistry	応生	布施 泰朗	2	講義					2						※
	生態分子化学	Ecological Chemistry		秋野順治	2	講義			2								※
	栽培環境学	Agro-Environmental Sciences		中元朋美・堀元栄枝	2	講義					2						※

X. 関係諸規則等

京都工芸繊維大学通則

昭和24年10月10日制定

最終改正 令和3年4月1日

第1章 総則

第1節 目的

第1条 本学は、工芸及び繊維に関する学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授し、研究することを目的とする。

第2節 学部、学科及び学生定員

第1条の2 本学に、工芸科学部を置く。

2 本学に、学生の教育上の区分として、次の学域を置く。

応用生物学域

物質・材料科学域

設計工学域

デザイン科学域

繊維学域

基盤教育学域

3 工芸科学部に、次の課程を置く。

応用生物学域

応用生物学課程

物質・材料科学域

応用化学課程

設計工学域

電子システム工学課程

情報工学課程

機械工学課程

デザイン科学域

デザイン・建築学課程

第1条の2の2 前条第3項の課程に、学位プログラムを置くことがある。

2 前項の学位プログラムについては、必要に応じて別に定める。

第1条の3 工芸科学部の学生定員は、次のとおりとする。

学 域	課 程	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
応用生物学域	応用生物学課程	50人	人	200人
物質・材料科学域	応用化学課程	169		676
設計工学域	電子システム工学課程	61		244
	情報工学課程	61		244
	機械工学課程	86		344
デザイン科学域	デザイン・建築学課程	156		624

4学域共通		50	100
合計	583	50	2,432

第3節 学年、学期及び休業日

第1条の4 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第2条 学年を分けて、次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は、教育研究評議会の議を経て、前学期及び後学期の期間を変更することができる。

第3条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業中でも授業を課することがある。

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

日曜日

春季休業 4月1日から4月4日まで

大学創立記念日 5月31日

夏季休業 8月6日から9月30日まで

冬季休業 12月24日から翌年1月6日まで

春季休業 2月19日から3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、学長は、教育研究評議会の議を経て、春季休業、夏季休業及び冬季休業の期間を変更することができる。

3 臨時休業日は、そのたびに定める。

第2章 学部学生

第1節 修業年限及び在学年限

第4条 工芸科学部の修業年限は、4年とする。

第4条の2 学生は8年を超えて在学することができない。ただし、第9条、第10条又は10条の2の規定により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

第1節の2 入学

第4条の3 工芸科学部への入学は、学年の始めとする。

第5条 工芸科学部に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業

程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの

(9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

第6条 工芸科学部への入学を志願する者は、入学願書に検定料及び別に指定する書類を添えて願出しなければならない。

第6条の2 前条に規定する入学志願者については、学力検査その他の方法により得られた内容、本学が適当と認める資料等を判定して、入学者の選抜を行う。

第7条 前条の入学者選抜の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに入学誓書その他本学の指定する書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者（入学料の免除又は徴収猶予の申請が受理された者を含む。）に入学を許可する。

第8条 日本の大学において教育を受ける目的をもって入国し、又は入国しようとする外国人で、工芸科学部に入学を志願する者があるときは、特別に選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項の外国人留学生は、工芸科学部の学生定員の枠外とすることがある。

3 第1項による入学選考については、同項に規定する入学志願者の能力、意欲、適性等を判定して行う。

第9条 次の各号のいずれかに該当する者については、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

(1) 本学を卒業した者

(2) 病気その他のやむを得ない事由により本学を退学した者

第10条 次の各号の一に該当する者で、編入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

(1) 大学を卒業した者又は1年以上在学した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者（学校教育法第90条の規定による大学入学資格を有する者に限る。第10条の2第3号において同じ。）

第10条の2 次の各号の一に該当する者で、第3年次に編入学を志願する者があるときは、選考の上、入学を許可する。

(1) 大学を卒業した者

(2) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(4) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者

第10条の3 前3条の規定により入学を許可された者の当該入学以前の既修得単位の取り扱いについては、教授会の議を経て、学部長が定める。

2 第9条及び第10条の規定により入学を許可された者の在学すべき年数については、教授会の議を経て、学部長が定める。

第11条 第6条及び第7条の規定は、第8条、第9条、第10条及び第10条の2の規定により入学を志願する者及び入学選考に合格した者に準用する。

第12条 削除

第2節 教育課程、授業及び単位

第13条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

第13条の2 教育課程及び授業に関することは、別に定める。

第13条の3 学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、1年間に履修科目として登録することができる単位数の制限を行う。

2 前項の規定は、第9条、第10条又は第10条の2の規定により入学を許可された者については、適用しない。

3 履修科目の登録の単位数の制限及びその取り扱いについては、別に定める。

第14条 一の授業科目に対する課程を修了した者には、単位を与える。

第15条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、インターンシップ等の実務を伴う実習については、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。

(4) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前3号に規定する基準を考慮して定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等については、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めることができる。

第16条 学生は、他の学域の授業科目を学修し、その単位を修得することができる。この場合において、当該学生は、所属学域長を経て当該学域長の許可を受けなければならない。

第16条の2 教育上有益と認められるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で、教授会の議を経て、工芸科学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認められるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における

学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会の議を経て、工芸科学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

3 前項により与えることのできる単位数は、第1項により工芸科学部において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

第16条の3 教育上有益と認められるときは、工芸科学部の第1年次に新たに入学した者が、入学前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、教授会の議を経て、工芸科学部における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 教育上有益と認められるときは、工芸科学部の第1年次に新たに入学した者が、本学に入学前に行った前条第2項に定める学修を、教授会の議を経て、工芸科学部における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、前条で修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 第1項及び第2項の場合において、第4条に定める修業年限を短縮することはできない。ただし、第38条に規定する科目等履修生として、本学において一定の単位を修得した者が工芸科学部に入学する場合において、当該単位の修得により工芸科学部の教育課程の一部を履修したと認められるときは、その単位数（学校教育法第90条の規定による大学入学資格を有した後、修得したものに限る。）及びその他の事項を勘案の上、教授会の議を経て、相当期間を第4条に定める修業年限の2分の1を超えない範囲において通算することができる。

第16条の4 教員の免許状授与の所要資格を得ようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 工芸科学部において当該所要資格を取得できる教員の普通免許状の種類及び教科は、次のとおりとする。

課 程	普通免許状の種類及び教科	
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状
応用生物学課程	理科	理科
応用化学課程	理科	理科
電子システム工学課程	数学	数学
情報工学課程	数学	数学 情報
機械工学課程	数学	数学

第16条の5 第8条により入学した外国人留学生に対しては、第13条の2に定めるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

第3節 休学

第17条 学生が疾病その他の事由により引き続き3月以上修学することができない場合は、医師の診断書又は詳細な事由書を添え、学部長を経て学長に願い出、その許可を得て休学することができる。

第18条 学長は、学部長の申出に基づき必要と認められた場合には、休学を命ずることがある。

第19条 休学は、引き続き1年以上にわたることはできない。ただし、特別の事由がある者

には、更に1年以内の休学を許可することがある。

第20条 休学期間中にその事由が止んだときは、学部長を経て学長に願い出、その許可を得て復学することができる。

第21条 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

2 休学期間は、第4条に定める修業年限及び第4条の2に定める在学年限に算入しない。

第4節 退学、転学、留学及び除籍

第22条 学生が退学しようとするときは、事由を詳記して学部長を経て学長に願い出、その許可を受けなければならない。

第23条 学生が他の大学に入学又は編入学をするときは、退学の手続きを経なければならない。ただし、他の大学に転学しようとするときは、事由を詳記し、学部長を経て学長に願い出、その許可を受けるものとする。

第23条の2 学生が外国の大学又は短期大学で修学することを志願するときは、学部長を経て学長に願い出、その許可を得て留学することができる。

2 前項により留学した期間は、第4条に定める修業年限に含めることができる。

3 第16条の2第1項の規定は、外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。

第24条 学生が次の各号の一に該当するときは、学長は、学部長の申出に基づいて除籍する。

- (1) 長期にわたって欠席し又は疾病その他の事由により成業の見込みがないと認められる場合
- (2) 第4条の2に定める在学年限を超えた場合
- (3) 入学料の免除を願い出て、全部又は一部許可されなかった者が納付すべき入学料を所定の期日までに納付しない場合
- (4) 授業料納付の義務を怠り督促を受けてもなお納付しない場合
- (5) 退学の手続きを経ないで、他の大学に入学又は編入学をした場合
- (6) 死亡した場合

第5節 卒業及び学位

第25条 卒業の要件となる単位の修得に関しては、別に定める。

第26条 工芸科学部に第4条に定める年数（第9条から第10条の2までの規定により入学した者については、それぞれの在学すべき年数とし、第16条の3第4項ただし書の規定により修業年限への通算を認められた者については、通算された期間を含む。）以上在学し、卒業の要件となる単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

第27条 前条による卒業者には、学士の学位を授与する。

2 学位には次の区分に従い専攻分野を付記する。

応用生物学課程の卒業者 農学

応用生物学課程の卒業者を除く全ての卒業者 工学

3 学位に関し必要な規定は、規則で定める。

第6節 学生証

第28条 学生は、本学所定の学生証の交付を受け、常に携帯しなければならない。

第7節 検定料、入学料及び授業料

第29条 検定料、入学料及び授業料の額、徴収方法その他の必要な事項は、国立大学法人京都工芸繊維大学における授業料その他の費用に関する規則（平成16年4月8日制定）に定

めるところによる。

第30条 退学し、転学し、除籍され、又は第37条の規定に基づき退学とされた者は、別に定める場合を除くほか、その期の授業料を納付しなければならない。

第31条 第37条の規定に基づき停学とされた者は、その期間中の授業料を納付しなければならない。

第32条 休学の許可を受け、又は休学を命じられたときは、月割計算により休学当月の翌月から、復学当月の前月までの授業料を免除する。ただし、許可又は命令の日が当該授業料の徴収時期後である場合を除く。

第33条 大規模な風水害等の災害を受けたと認められる者に係る検定料の納付については、検定料の全部を免除することがある。

2 検定料の免除に関し必要な規定は、規則で定める。

第34条 経済的理由によって入学料及び授業料の納付が困難であると認められ、かつ、学業優秀と認めるときその他やむを得ない事情があると認めるときは、入学料及び授業料の全部若しくは一部を免除し、又はその徴収を猶予することがある。

2 入学料及び授業料の免除及び徴収猶予に関し必要な規定は、規則で定める。

第35条 国費外国人留学生制度実施要項（昭和29年3月31日文科大臣裁定）に基づく国費外国人留学生については、検定料、入学料及び授業料を徴収しない。

第8節 賞罰

第36条 学生で他の模範となる行為のあった場合は、学長は、学部長の推薦に基づいて表彰することがある。

第37条 学生で本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反する行為のあった場合は、学長は、学長が指名する副学長の申出に基づいて懲戒する。

2 懲戒は、訓告、停学又は退学とする。

3 前項の退学は、次の各号に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 正当な理由がなくて出席常でない者
- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第3章 科目等履修生、研究生、特別聴講学生、特別受入学生及び国際交流学生

第38条 工芸科学部において、特定の授業科目を履修しようとする者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、教授会の議を経て、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生が履修し試験に合格した授業科目については、所定の単位を与える。

3 科目等履修生に関し必要な規定は、規則で定める。

第39条 工芸科学部において、特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、教育研究に支障のない場合に限り、学部教授会の議を経て、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関し必要な規定は、規則で定める。

第40条 削除

第41条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議に基づき、当該他の大学又は短期大学の学生を特別聴講学生として入学を許可し、工芸科学部の授業科目

を履修させ、単位を修得させることがある。

2 特別聴講学生に関し必要な規定は、規則で定める。

第41条の2 本学が実施する人材育成事業に際し、当該事業に関連する他の団体等（以下「関連団体等」という。）との協議に基づき、当該関連団体等の推薦する者を特別受入学生として入学を許可することがある。

2 特別受入学生は、特定の課題研究のほか、当該事業に関連する授業科目を履修することがある。

3 特別受入学生が履修し試験に合格した授業科目については、所定の単位を与える。

4 特別受入学生に関し必要な規定は、規則で定める。

第41条の3 本学が外国の大学又は研究機関と締結する国際交流協定及び学生交流覚書に基づき、当該外国の大学又は研究機関が派遣する学生を国際交流学生として入学を許可することがある。

2 国際交流学生は、特定の研究課題について研究指導を受け、又は授業科目を履修する。

3 国際交流学生が履修し試験に合格した授業科目については、所定の単位を与える。

4 国際交流学生に関し必要な規定は、規則で定める。

第42条から第45条まで 削除

第4章 削除

第46条から第48条まで 削除

第5章 大学院

第49条 本学に大学院を置く。

2 大学院に関し必要な規定は、規則で定める。

第50条 削除

第6章 削除

第51条 削除

第7章 削除

第51条の2 削除

第8章 削除

第52条 削除

第9章 寄宿舍及び国際交流会館

第53条 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関し必要な規定は、規則で定める。

第53条の2 本学に国際交流会館を置く。

2 国際交流会館に関し必要な規定は、規則で定める。

第10章 公開講座

第54条 本学に公開講座を開設することがある。

2 公開講座に関し必要な規定は、規則で定める。

附 則（略）

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

京都工芸繊維大学工芸科学部履修規則

平成18年4月3日制定
最終改正 令和3年4月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人京都工芸繊維大学通則(昭和24年10月10日制定。以下「通則」という。)第13条の2の規定に基づき、工芸科学部学生の履修等について必要な事項を定める。

(教育課程)

第1条の2 教育課程は、別表第10に掲げる教育研究上の目的に基づき、教授会の議を経て工芸科学部長の申出を踏まえ、学長が定める。

(履修区分)

第2条 教育上必要がある場合は、各課程に履修コースを置くことがある。

2 履修コースの選考の方法については、別に定める。

(授業科目及び単位)

第3条 教育課程の授業科目は、言語教育授業科目、人間教養授業科目及び専門教育授業科目に分ける。

2 各授業科目は、必修授業科目、選択必修授業科目及び選択授業科目に分ける。

3 授業科目の種類及び単位数は、それぞれ別表第1、別表第2及び別表第3のとおりとする。

第4条 各授業科目の単位は、通則第15条に定める基準によって計算する。

(卒業認定の要件)

第5条 卒業の認定を受けるために必要な単位の修得方法は、別表第4に定める単位を修得するものとする。

(授業時間割)

第6条 授業時間割は、学年又は学期の始めまでに学生に公示する。

(受講登録)

第7条 学生は、毎学期の始めにその学期に履修しようとする授業科目を、定められた期間内に受講登録をするものとする。ただし、当該授業科目担当教員の承認を必要とすることがある。

2 履修しようとする授業科目は、授業時間割の上で同一時間に重複して受講登録することはできない。

3 前学期及び後学期にわたり開講される授業科目(以下「通年授業科目」という。)は、前学期に受講登録するものとする。

4 一の授業科目の単位を分割して修得することはできない。

5 受講登録後の変更は認めない。ただし、やむを得ない事情による場合には、所定の期間内に限り認めることがある。

6 通年授業科目を1つの学期に履修し、休学又は授業の都合によって次学期に継続して履修できない場合は、担当教員の承認を得て、次年度以降において履修することができる。

第8条 学生は、学期ごとに定める期間に限り、受講登録した授業科目のうち、次に掲げる授業科目以外の授業科目については、履修の中止を申し出ることができる。

(1) 必修授業科目

(2) 演習(外国語授業科目を除く。)、実験、実習又は実技により行う授業科目(講義との併用を含む。)

2 前学期に前項の規定により履修を中止した授業科目の単位数については、5単位を限度に履修授業科目として登録した単位数から除外することができる。

第9条 通則第13条の3の規定に基づき、学生が1年間に履修授業科目として受講登録することのできる単位数は、別表第5のとおりとする。ただし、集中授業科目、単位互換による授業科目、教職関係授業科目、学芸員資格に関する授業科目、知的財産に関する専門基礎科目、卒業要件外科目及び日本語授業科目等の単位は、これに含まないものとする。

第10条 前年度の成績において、別表第6に定める成績を修めた学生については、10単位を限度として、前条に定める登録上限単位数を超えて履修授業科目の登録を認めることがある。

2 課程長が、教育上特に必要と認めた場合は、10単位を限度として、前条に定める登録上限単位数を超えて履修授業科目の登録を認めることがある。

第11条 学生が既に履修し合格した授業科目（教職関係授業科目、学芸員資格に関する授業科目及び単位互換による授業科目を除く）のうち再度履修する場合は、申請によりこれを認めることがある。

2 前項の規定により再度履修する授業科目（以下「再履修授業科目」という。）の成績は、再履修結果に基づく成績とし、再履修授業科目の受講登録が承認されると同時に再履修前の成績は失効する。

3 前項により卒業研究（地域創生 Tech Program の学生にあっては卒業プロジェクト。以下同じ。）着手の認定に影響をおよぼす場合は、これを認めない。

4 再履修授業科目の履修中止は認めない。

（外国人留学生の履修の特例）

第12条 外国人留学生の履修に関しては、第5条に定めるもののほか京都工芸繊維大学外国人留学生の教科課程等の特例に関する規則（平成18年4月1日制定）の定めるところによる。

（単位の修得・成績評価）

第13条 1つの授業科目の修了を認めるには、試験を行い、合格した者には所定の単位を与える。

2 授業科目によっては、試験以外の方法によってその成績を評価することができる。

3 卒業研究は、その審査により成績を評価する。

第14条 授業科目の成績評価は、S、A+、A、B+、B、C+、C、又はFをもって表し、S、A+、A、B+、B、C+及びCを合格とし、Fを不合格とする。なお、履修中止をW、認定を認と表記する。

2 前項に規定する各評価に対応する評点、ポイント及び評価の基準は、次のとおりとする。

評価	評点	ポイント	評価の基準
S	90点 ~ 100点	4.0	学習目標を十分に達成し、すべての面で特に優秀な成果をあげた。
A+	85点 ~ 89点	3.5	学習目標を十分に達成し、すべての面で優秀な成果をあげた。
A	80点 ~ 84点	3.0	学習目標を十分に達成し、ほとんどの面で優秀な成果を、一部において良好な成果をあげた。
B+	75点 ~ 79点	2.5	学習目標を達成し、一部において優秀な成果を、ほとんどの面で良好な成果をあげた。
B	70点 ~ 74点	2.0	学習目標を達成し、すべての面で良好な成果をあげた。

C+	65点 ~ 69点	1.5	学習目標を最低限達成し、一部において良好な成果をあげたが、ほとんどの面で合格となる最低限の成果にとどまった。
C	60点 ~ 64点	1.0	学習目標を最低限達成し、すべての面で合格となる最低限の成果であった。
F	60点未満	0.0	学習目標に達せず、ほとんどまたはすべての面で合格となる最低限の成果がなかった。

3 学生の学習意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資するため、第1項の成績に当該学年のGPA (Grade Point Average) (当該学生が受講登録をした全ての授業科目(第8条の規定により履修を中止したものを除く。)に係る1単位あたりの成績の平均値をいう。以下同じ。)及び入学後の累積のGPAを併記するものとする。

4 GPAは、次に掲げる算式により算出するものとする。なお、算出の対象となる授業科目は、単位互換による授業科目、教職関係授業科目、学芸員資格に関する授業科目及び単位認定授業科目を除く全授業科目とする。

$$GPA = \{ (S \text{の修得単位数} \times 4.0) + (A+ \text{の修得単位数} \times 3.5) + (A \text{の修得単位数} \times 3.0) + (B+ \text{の修得単位数} \times 2.5) + (B \text{の修得単位数} \times 2.0) + (C+ \text{の修得単位数} \times 1.5) + (C \text{の修得単位数} \times 1.0) \} \div \text{総登録単位数 (Fを含む。)}$$

(福知山キャンパス開講科目)

第14条の2 地域創生 Tech Program の学生が、3年次後学期以降に福知山キャンパスで開講される授業科目を履修しようとするときは、2年半以上在学(編入学者を除く。)し、後学期開始時点において、別表第11に定める単位を修得しているものとする。

(卒業研究)

第15条 卒業研究を履修しようとする者は、3年以上在学(編入学者を除く。)し、当該年度始めにおいて、別表第7に定める単位を修得しているものとする。

2 卒業研究は、在学第4年の後学期以後でなければ提出することができない。

3 卒業研究の単位は、他の所要の単位を修得した後でなければ与えない。

(学期試験)

第16条 学期試験(以下「試験」という。)は、当該授業科目授業終了の学期末に行う。ただし、授業科目によっては、別に試験期日を定めることがある。

2 前項による試験の授業科目及び実施日時等は、原則として試験開始の2週間前に公示する。

第17条 試験期間中であっても、授業を行うことがある。

第18条 学生は、第7条による受講登録をした授業科目について受験することができる。ただし、当該授業科目担当教員の承認を必要とすることがある。

2 受講登録をした授業科目であっても、出席不良と認められる場合は、受験を許可しないことがある。

第19条 不合格となった授業科目について、単位を修得しようとするときは、あらかじめ履修するものとする。

(追試験)

第20条 試験当日、病気その他やむを得ない事由により受験できなかった者については、本人の願い出により追試験を行うことがある。

2 前項による追試験を希望する者は、所定の願書に医師の診断書その他これに代わる証明書を添え、

当該授業科目担当教員の承認を得て、欠席した試験の日から1週間以内に学部長に願い出るものとする。

(再試験)

第21条 試験に不合格となった者に対する再試験は行わない。

(受験)

第22条 受験時には、学生証を監督者に提示するものとする。

2 受験者は、試験開始後30分を経過するまでは退室することができない。

3 試験開始後30分を経過した後の受験は認めない。

第23条 受験(レポート、論文等の課題を含む。)の際に不正行為を行ったと認められる者(授業科目の担当教員の指示に反してレポート、論文等の課題を作成した者を含む。)は、その学期に受講登録をした全ての授業科目の成績を不合格(判定外)とする。

(教職関係科目)

第24条 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)による免許状を受けようとする者のために、別表第8のとおり教職関係科目を置く。

(学芸員資格に関する科目)

第25条 博物館法(昭和26年法律第285号)による学芸員の資格を得ようとする者のために、別表第9のとおり学芸員資格に関する科目を置く。

(成績の公示)

第26条 各授業科目の評価は、当該学期の終わりに学生に通知する。

附 則(略)

- 別表第1 (略) (言語教育科目)
 別表第2 (略) (人間教養科目)
 別表第3 (略) (専門教育科目)
 別表第4 (略) (「卒業認定に必要な単位数」として別頁に記載)
 別表第5 (第9条関係)

課 程	登録上限単位数	備 考
応用生物学課程	50	
応用化学課程	50	
電子システム工学課程	50	
情報工学課程	50	
機械工学課程	50	
デザイン・建築学課程	50	

- 別表第6 (第10条関係)

課 程	前年度の成績
応用生物学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが3.5以上
応用化学課程	
電子システム工学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが2.5以上
情報工学課程	GPAが2.5以上
機械工学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが3.0以上
デザイン・建築学課程	受講登録した授業科目を全て合格し、かつ GPAが3.5以上

- 別表第7 (略) (「卒業研究履修のために必要な単位数」として別頁に記載)
 別表第8 (略) (教職関係科目)
 別表第9 (略) (学芸員資格に関する科目)
 別表第10 (略) (「教育研究上の目的」として別頁に記載)
 別表第11 (略) (「福知山キャンパス開講科目履修のために必要な単位数」として別頁に記載)

京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て要項

令和3年4月1日

工芸科学部長

工芸科学研究科長裁定

(趣旨)

第1 この要項は、京都工芸繊維大学の成績評価に対する異議申立て等に関し、必要な事項を定める。

(成績に対する確認)

第2 学生は、授業科目の成績について、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該成績が初めて発表された日から起算して7日以内に、その評価の適切性について確認を行うことができるものとする。

- (1) 成績の誤記入等、授業担当教員の誤りであると思われる場合
- (2) シラバス又は授業担当教員の説明等により周知している成績評価の基準及び方法に照らして、誤りがあると思われる場合
- (3) その他合理的又は客観的な根拠がある場合

(確認手続)

第3 学生は、成績評価の適切性についての確認(以下、「確認」という。)を行いたい場合は、授業担当教員に、直接確認を依頼するものとする。

- 2 授業担当教員に直接確認することができない場合は、学務課に「成績評価確認願」(様式1)を提出し、確認を依頼することができる。
- 3 第1項により学生から確認の依頼を受けた授業担当教員は、依頼を受けた日から起算して7日以内に、当該学生に、確認結果を直接回答しなければならない。
- 4 第2項により学生から学務課を通じて確認依頼を受けた授業担当教員は、依頼を受けた日から起算して7日以内に、「回答書」(様式1の2)により、学務課を通じて当該学生に、確認結果を回答しなければならない。
- 5 前項の規定にかかわらず、授業担当教員は学務課と協議の上、当該学生に、確認結果を直接、回答書によらず回答することができる。この場合において、授業担当教員は、学務課に学生への回答内容及び回答日を報告しなければならない。

(異議申立て)

第4 第3により確認を行った学生で、授業担当教員の回答に対し異議を申し立てる場合は、「成績評価異議申立書」(様式2)(以下「異議申立書」という。)を学務課を通じて学部長又は研究科長に提出するものとする。

(異議申立て受付期間)

第5 第4による異議申立ての受付期間は、当該成績が初めて発表された日から起算して、原則として14日以内とする。

(審査)

第6 学部長又は研究科長は、第4による異議申立書を受理した場合は、審査委員会を設置して審査を行うものとする。ただし、申立ての内容が第2第1項の各号に該当しない場合は、当該異議申立てを受理せずに却下するものとする。

- 2 学部長又は研究科長は、前項において、異議申立てを却下する場合は、学務課を通じて、速

やかに当該学生に文書により通知するものとする。

3 審査委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

(1) 学部長又は研究科長

(2) 当該科目を担当する課程長、専攻長又は学科目長 1名

(3) 学部長又は研究科長が指名するもの（前号に掲げる者を除く。） 1名

4 前項第1号に掲げる者が異議申し立ての対象となる授業科目の担当教員に含まれるときは、当該者の代わりに副学部長又は副研究科長がその任に当たるものとする。

5 第3項第2号に掲げる者が異議申し立ての対象となる授業科目の担当教員に含まれるときは、当該者の代わりに第3項第1号に掲げる者が別に指名する者をもって充てるものとする。

6 審査委員会は、当該学生と授業担当教員に対して意見聴取を行うとともに、授業担当教員に成績判定に用いた資料の提出を求め、異議申立書に基づき、審査を実施するものとする。

7 審査委員会は、必要に応じて授業担当教員の所属する課程、専攻等から意見を聴取することができる。

（審査結果の通知及び対応）

第7 審査委員会は、学務課を通じて、当該学生及び授業担当教員に審査結果を文書（様式3及び様式4）により通知するものとする。

2 審査の結果、成績の修正が適当と判定された場合は、授業担当教員は速やかに判定に従い、成績について変更する措置を講じなければならない。

3 審査結果に対し、学生は再審査を請求することはできない。

（その他）

第8 この要項に定めるもののほか、成績評価に対する異議申立てに関し必要な事項は、学部長及び研究科長が別に定める。

附 則

この要項は、令和3年4月1日から実施する。

京都工芸繊維大学外国人留学生の教科課程等の特例に関する規則

最終改正 平成21年1月8日

第1条 この規則は、京都工芸繊維大学通則第16条の5の規定に基づき、外国人留学生（以下「留学生」という。）に関する教科課程及び授業の特例について定める。

第2条 留学生に開設する日本語科目及び日本事情に関する科目（以下「日本語科目等」という。）並びに単位数は、次のとおりとする。

表1

授 業 科 目	単 位 数
日 本 語 I	1
日 本 語 II	1
日 本 語 III	1
日 本 語 IV	1
日 本 語 V	1
日 本 語 VI	1
日 本 語 VII	1
日 本 語 VIII	1

表2

授 業 科 目	単 位 数
日 本 事 情 I	2
日 本 事 情 II	2

2 留学生は、前項に規定する授業科目を履修し、単位を修得することができる。

第3条 留学生が前条の規定に基づき修得した単位は、以下の表により、京都工芸繊維大学工学部履修規則第5条の卒業要件単位に代えることができる。ただし、必修科目及び選択必修科目に代えることはできない。

学 部	表	卒業要件として認められる合計単位数	科目区分ごとの最大認定単位数	
			言語教育科目	人間教養科目
工 芸 学 部	表1	8	6	6
	表2	4	—	4

第4条 日本語科目等の単位数は、1単位を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するものとし、第2条第1項に規定する科目のうち、表1の科目については30時間の授業をもつて1単位とし、表2の科目については15時間の授業をもつて1単位とする。

附 則

この規則は、平成21年1月8日から施行する。

日本語科目等教科課程表

授 業 科 目	英文授業科目名	担 当 教 員	単 位 数	授 業 形 態	週授業時間数								備 考	下 履 修		
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
日本語Ⅰ	Japanese I	(平野莉江子)	1	演習	2											
日本語Ⅱ	Japanese II	(平野莉江子)	1	演習		2										
日本語Ⅲ	Japanese III	伊藤翼斗	1	演習	2											
日本語Ⅳ	Japanese IV	伊藤翼斗	1	演習		2										
日本語Ⅴ	Japanese V	(水野義道)	1	演習			2									※
日本語Ⅵ	Japanese VI	(水野義道)	1	演習				2								※
日本語Ⅶ	Japanese VII	澤田美恵子	1	演習			2									※
日本語Ⅷ	Japanese VIII	澤田美恵子	1	演習				2								※
日本事情Ⅰ	Japanese Studies I	学部長・応用生物学域課程長・物質・材料科学域各課程長・設計工学域各課程長・デザイン科学域課程長・ハイオバースマテリアル学専攻長・先端ファイブ科学専攻長・某	2	講義	2											
日本事情Ⅱ	Japanese Studies II	(水野マリ子)	2	講義		2										

警報発令時等における授業・試験の取扱いについて

平成27年4月8日

工芸科学部長

工芸科学研究科長裁定

最終改正 平成30年8月2日

第1 松ヶ崎キャンパス及び嵯峨キャンパスにおける授業又は試験の実施に際し、次の各号のいずれかに該当する場合は、学生の事故防止のため、当該日の授業を休止又は試験を延期する。

- (1) 京都市又は京都市を含む地域に特別警報又は暴風警報が発令された場合
- (2) 京都市営バス及び京都市営地下鉄の運行が全面停止の場合
- (3) JR西日本（京都駅発着の在来線）、阪急電鉄（梅田・河原町間）、京阪電気鉄道（淀屋橋又は中之島・出町柳間）及び近畿日本鉄道（大和西大寺・京都間）の4交通機関のうち、3以上の交通機関の運行が全面又は一部停止の場合
- (4) その他学長又は工芸科学研究科長が必要と認めた場合

2 前項第3号の京都駅発着の在来線とは、京都線及び神戸線の一部（神戸・京都間）、琵琶湖線（米原・京都間）、湖西線の一部（近江今津・京都間）、嵯峨野線（園部・京都間）並びに奈良線及び関西本線の一部（奈良・京都間）のいずれかをいう。

3 第1項第3号の一部停止の場合とは、交通機関ごとに次の区間で停止している場合をいう。

- (1) JR西日本 JR京都駅を含む区間
- (2) 阪急電鉄 阪急烏丸駅を含む区間
- (3) 京阪電気鉄道 京阪出町柳駅を含む区間
- (4) 近畿日本鉄道 近鉄京都駅を含む区間

第2 福知山キャンパスにおける授業又は試験の実施に際し、次の各号のいずれかに該当する場合は、学生の事故防止のため、当該日の授業を休止又は試験を延期する。

- (1) 福知山市又は福知山市を含む地域に特別警報、暴風警報、暴風雪警報、大雪警報、大雨警報又は洪水警報（以下「警報等」という。）が発令された場合
- (2) その他学長又は工芸科学研究科長が必要と認めた場合

第3 第1及び第2の規定にかかわらず、次の各号に掲げる時間までに警報等の解除又は交通機関の運行の再開（以下「解除等」という。）が行われた場合は、当該各号の規定により授業又は試験を実施する。

- (1) 午前6時30分までに解除等が行われた場合 1時限から実施
- (2) 午前6時30分以降午前10時30分までに解除等が行われた場合 3時限から実施
- (3) 午前10時30分以降午後3時30分までに解除等が行われた場合 6時限から実施

第4 警報等の発令又は解除及び交通機関の運行の確認は、インターネット、テレビ、ラジオ等の報道による。

附 則

この取扱いは、平成27年4月8日から実施する。

附 則

この取扱いは、平成30年8月2日から実施する。

授業日の振替えに関する要項

平成27年4月8日
工学科学部長・工学科学研究科長裁定

各学期の授業期間（後学期の予備日を除く。）において、各曜日の授業日数（毎週1回の授業の場合。）が15日未満の場合には、責任ある授業運営及び十全な教育活動が行えるよう、総合教育センターにおいて、次年度の授業日数の均衡を図るための調整を行うものとする。

附 則

この要項は、平成27年4月8日から施行する。

定期試験期間中の祝祭日に伴う代替日に関する申し合わせ

平成24年5月2日 教務委員会決定

定期試験期間中の祝祭日に伴う代替日は、定期試験期間の最終日とする。

School of
Science and